

### 3. 寺下囲地点

#### (1) 平成19年度調査〈第17次調査〉

##### 1) 里74地点

##### ① 調査の経緯と目的

本調査区は、当時の入江に面した丘陵の斜面から海岸低地に至る場所にあたる（第65図、写真81）。南に隣接する宅地（里73）前面の比高差約8mの斜面（崖面）には貝層が露出し、縄文時代晩期から弥生時代にかけての遺物が確認されているが、崖下の低地部分への広がりについては確認されていない。また、本調査区から約80m南では、昭和9年に角田文衛氏が、縄文晩期大洞A式期の製塩土器を大量に発見しており、周辺で製塩が行われていた可能性が考えられる。本調査では、寺下囲地点貝塚の範囲、とくに海岸低地部分への広がりや製塩炉など遺構の分布状況を確認することを目的として行った。



第65図 寺下囲地点調査区(赤字)位置図

##### ② 調査の方法と経過

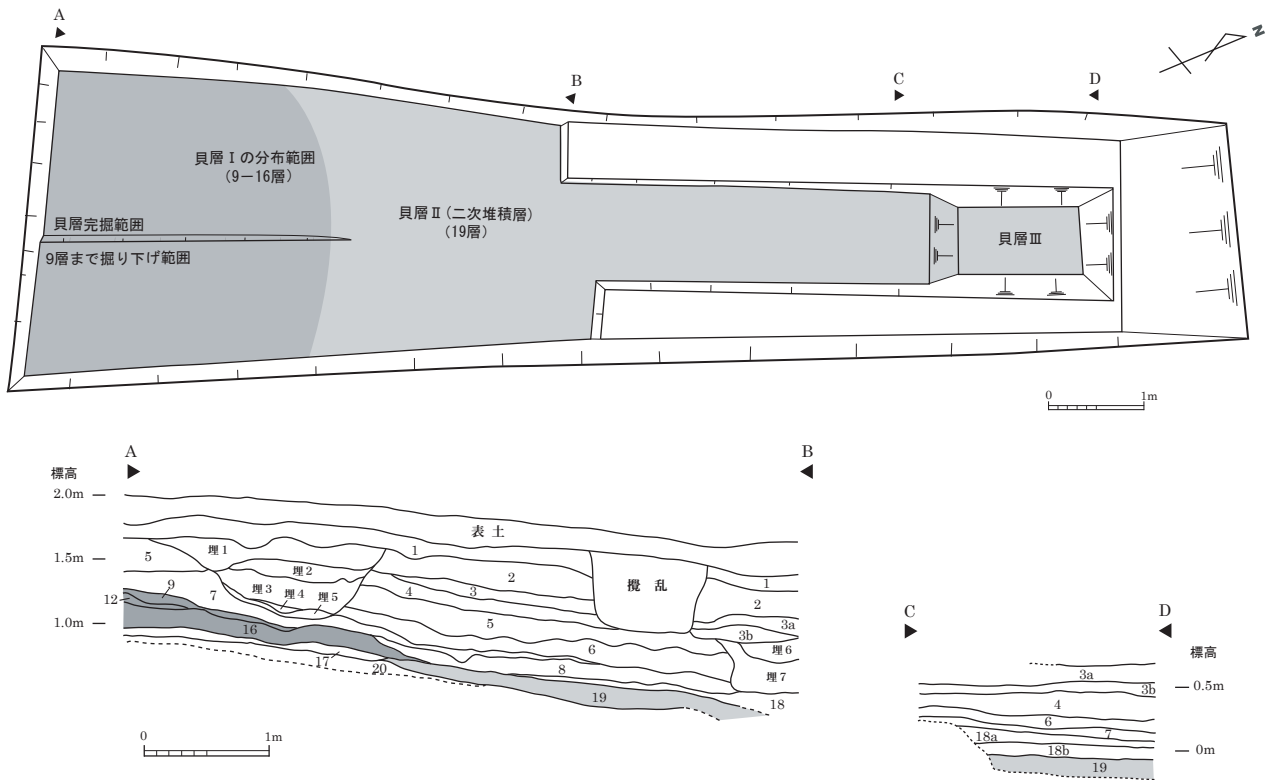
調査は、里浜の集落内を貫く市道の東側に面した丘陵北斜面下の低い場所（標高約2m）に、幅約4mの南北トレンチを2本（I・II区）設定して行った。これまで市道の周辺については、道路下に埋設された水道管付替工事等で部分的にはあるが貝層の二次堆積層が確認されている。表土下の堆積状況を確認したところ、トレンチ間で大きな違いが認められなかったことから、とくに状況が明らかではない、東側のトレンチ（I区）のみを精査を行うこととした。

調査の結果、現在の地表面から約1m下で、縄文時代晩期後葉（大洞A式）の貝層と、さらに北側の低い部分（標高-1～0m）で、波にさらわれて再堆積した貝混じりの層を確認した。調査区南端で検出された貝層は、南側の斜面上から続く貝塚の末端部分にあたり、約3mの範囲、最大で40cm程の厚さをもつが、状況からみて二次堆積の可能性も考えられた。アサリを主体とし、マガキなども多く見られ、当時の周辺の海は砂底というよりは、現在と同様に砂泥底で、岩盤が海にむき出しているような環境だったと推定された。貝層中からは、シカ・イノシシの獣類、ウミウ・カモなどの海鳥、魚では大型のスズキやマダイの骨など目立った。

また、50㎡程の狭い範囲の調査であったが、大量の縄文土器が検出された。深鉢が圧倒的に多いが、浅鉢や脚付きの大型鉢、壺などの精製土器や精巧なミニチュア土器なども出土した。骨角器としては、西畑地点で特徴的な大型の釣針やモリのほか、ハクチョウの上腕骨を加工した装身具や弾なども出土した。製塩炉等は検出されなかったが、狭い範囲から底部破片で300点以上の製塩土器が出土した。調査区周辺は地形的に製塩には不向きであり、居住域に持ち込まれた後に廃棄されたものと考えられた。

##### ③ 層の堆積状況

今回の調査で検出された貝層は、南側の丘陵斜面に形成された貝塚の末端部分とみられるが、層の堆積は緩やかで、南側斜面の傾斜とは大きく異なっている。二次堆積の可能性が高いと考えられる。さらに北側の低地部分に向かって、波にさらわれて再堆積したとみられる貝混じりの層が形成されており、周辺は丘陵端部が直接海と接する汀線付近にあたっていたと推定される（第66図、写真82）。貝層は、こうした堆積環境の違いから、丘陵末端部の貝層（9～16層：貝層I）と低地部分の二次堆積層（19層）に大別され、後者については平面分布や貝組成、混貝率および貝殻の完形率の違いなどから、さらに貝層II（調査区中央）と貝層III（深掘区）に細分される。このうち貝層IIIについては、貝層



第 66 図 寺下囲 (里 74 地点) 調査区と断面図

I と同様に多様な生活廃棄物が含まれているが、オオノガイやサビシラトリガイなどの合わせ貝やヒメシラトリなどの食料としての利用価値のない貝類も多く検出されている。当時の生息環境を示す自然貝層をも含んだ内容物であることを前提に考える必要がある。

堆積層の年代は、4層が平安時代、5・6層が古墳時代前期～中期、7層以下が縄文時代晩期後葉（大洞A式）と推定される。以下、各層の概要を記述する。

- 1層：土層。黒色（10YR2/1）シルト。細片化された土器、貝殻、凝灰岩粒を含む。
- 2層：土層。黒色（7.5YR2/2）粘質シルト。径2～5mm程の赤色土粒を含む。
- 3層：土層。黒褐色（10YR3/2）シルト質粘土。
- 4層：土層。にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト質粘土。灰白色火山灰をブロック状に多く含む。
- 5層：土層。黒色（10YR2/1）～暗灰黄色（2.5Y2/1）シルト質粘土。調査区の全域に分布する、層厚20cm程の土層。調査区の南半部で晩期後葉の縄文土器や製塩土器、土師器、動物遺存体などを多く含むが、北側の低地部分では遺物をほとんど含まない。北端部の深掘調査区では、多量の腐植物の混入が認められ、当時湿地状の堆積環境にあったものと考えられる。
- 6層：土層。暗灰黄色（2.5Y2/1）粘土～砂。4層と同様、調査区北側の低地部分で特徴的に堆積が認められる均質な土層で粘性が強い。深掘調査区では粗砂を多く含む砂層と腐植物を多く含む粘土層が互層をなしている。
- 7層：土層。黒色（10YR1.7/1）～黒褐色（10YR2/2）シルト。貝層Iを直接覆う土層で、調査区南端で厚く、北側に向かって薄くなる。南端部を中心に縄文土器、製塩土器、動物遺存体が多量に出土している。
- 8層：土層。黒色（10YR2/1）～黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルト。貝層Iおよび貝層IIを覆う砂層で、北側ほど砂の割合が多く均質である。7層と同様に、南半部で多く遺物を含んでいる。
- 9層：混貝土層。黒色（10YR1.7/1）シルト。層厚は10cm程で、調査区南端部にのみ分布する。
- 10層：貝層。暗褐色（10YR3/3）シルト。混貝率および貝殻の完形率が高い純貝層で、調査区南西隅の狭い範囲にのみ分布が認められた。

- 11層：混貝土層。黒色（10YR1.7/1）シルト。自然堆積層。
- 12層：混土貝層。黒色（10YR2/1）シルト。層厚約10cmの破砕貝を多く含む貝層で、10・11層と同様に調査区南西隅にのみ分布が認められた。炭化物を多く含む。
- 13～15層：貝層。暗褐色（10YR3/3）シルト～砂。いずれも混貝率および貝殻の完形率が高い純貝層で、調査区南半の比較的広い範囲で分布が認められた（第4図）。斜面上部では、貝層のマトリックスとなる堆積土や破砕貝の割合の違いなどによって3層に細分することができたが、斜面下部では分層することはできなかった。遺物は13層として一括して取り上げた。
- 16層：貝層。黒褐色（10YR2/3）シルト～砂。層厚10～15cmの破砕貝を多く含む純貝層で、13～15層とほぼ同様の分布が認められた。
- 17層：混貝土層。褐灰色（10YR4/1）砂。貝層下の砂層で、混貝率および貝殻の完形率は低い。
- 18層：土層。暗灰黄色（10YR3/1）砂。低地部分にのみ認められ、径2～10mm程の礫を多く含む。
- 19層：貝層。褐灰色（10YR5/1）砂。低地部分にのみ分布が認められる貝層の二次堆積層（貝層Ⅱ・Ⅲ）である。層厚は約20cmで、破砕貝を多く含む。貝層Ⅲからは摩滅した縄文土器や骨角器などが出土している。
- 20層：土層。褐灰色（10YR5/2）砂。均質な自然堆積層からなるが、縄文土器片が含まれる。

#### ④ 出土遺物

##### a. 土器・土製品

##### 縄文土器

今回の調査で出土した土器は、テンバコで約20箱分になる。その中で特徴的なものを図化し第5～8図に掲載した。土器の中で出土量が最も多く、各層から出土した。層別で見ると7層が多く、次いで16層になる。

器種は鉢、深鉢、皿、壺などがある。鉢は図示していないが小型の台がつく台付鉢もある。皿は脚付皿もある。多くが破片資料であるため、全体形がわかる器種は鉢および深鉢の一部である。この中で鉢（精製土器）の特徴について取り上げてみたい。底部は丸底（第67図1）と平底（第69図10など）がある。口径と底径の差が小さいものでは胴部が直線気味に開くタイプ（第67図1・2）、胴部が湾曲しながら開くタイプ（第67図11）がある。口径と底径の差が大きいものでは胴部が直線的に開くタイプ（第69図10）、胴上部が内側に強く湾曲するタイプ（第67図9）がある。また、この他に土器の上半部資料で胴部が湾曲し口縁部が開くタイプなどがある（第67図13）。

文様についても資料の制約から全体がわかるものが少ない。主な特徴は次のとおりである。直線的に並行する沈線文の中に凸字形の文様を作出している凸字形工字文である（第67図1・2ほか）。凸部は器面の粘土を削り取る手法で作出されており、周辺の沈線より深く削り取られているもの（第67図14）や深く削り取りその粘土を左右に寄せて盛り上げているもの（第68図9、第69図17・28）もある。構成は正立の凸字形文様の下に倒立形凸字文様が描かれるもの（第67図1・2）と正立の凸字形文様のみ（第67図14、第69図13・18）とがある。第5図2では胴上部文様帯では前者が胴下部文様帯では後者がそれぞれ描かれている。もうひとつは、主に鉢に使用される工字文がある（第69図10・11）。沈線によって区画された中に三角形の文様を作出しており、凸字文様と同じように器面の粘土を削り取る手法をとる。三角形文と三角形文の間には2本の斜めに並行する沈線が描かれている。なお、第5図19では正立の三角形文の下に半単位ずらして区画された中に倒立形三角文が描かれている。

今回図示した縄文土器の特徴は、県内では丸森町岩ノ入遺跡（宮城県教育委員会 1983 a）、仙台市赤生津遺跡（仙台市教育委員会 1990）、栗原市山王田遺跡Ⅳ 1・m層～Ⅵ層（伊東・須藤 1985）などから出土した土器に類似点を求めることができ、概ね縄文時代晩期大洞A式を中心とした時期に位置づけられると考える。今回の発掘ではほぼすべての層からこの時期に属する土器片が出土している。

なお、上記以外の特徴を持つ土器も出土しており、後期と考えられる土器（第68図13、第7図5ほか）、晩期中葉と考えられる土器（第69図16・22ほか）などが確認できた。これらの土器は下層に行くにしたがい増える傾向にある。

## 弥生土器

弥生土器として4点を図示した。第67図21、第70図9は高坏の脚部である。やや深め沈線で変形工字文がえがかれている。弥生時代前期頃と思われる(須藤隆 1983)。第70図5は壺で、錨形の文様とその周囲を丸く囲む沈線が観察できる。第70図6は鉢で細くシャープな沈線により連続山形の文様がえがかれている。5・6については中期中葉の時期と考える(仙台市教育委員会 1996、2000)。

## 製塩土器

製塩土器は縄文土器同様ほぼすべての層から出土している。出土した土器のほとんどが細片であるため、実態把握が難しい。今回は7点を図示した(第70図12～18)。

12は唯一全体形がわかる資料である。器高が14.2cmで鉢形を呈する。平底で胴部はゆるく湾曲しながら開く。輪積痕が残る外面には縦方向に幅の広いミガキが粗く施されている。内面は外面と同様のミガキのほか、底部周辺にヘラナデの痕跡が認められた。14も鉢形になると思われる。口唇部は指頭圧痕により波状を呈する。胴部は緩やかに湾曲し口縁部が開く。器厚は薄い。輪積痕が残る外面には縦方向にミガキが粗く施されている。内面は口縁部周辺以外はミガキが密に施されている。13は深鉢で外面に幅の広いミガキが粗く施されている。内面は口縁部周辺に横方向のナデとその下は縦方向のミガキが施されている。15は器厚が薄く、口唇部は尖る形状である。底部については18のような尖底が主体で、これに少量の丸底(17)、先端が突出する尖底(16)、平底が混じる。これらの製塩土器は出土状況から概ね縄文時代晩期大洞A式を中心とした時期の土器に伴うものと考えている。

## 土師器

土師器は10点を図示した(第70図20～29)。器種は碗(22)、鉢(20・22)、高坏(23～29)である。この中で22の小型丸底鉢は口径と器高がほぼ同じ値の細身タイプで、胴部は球形状に膨らみ口縁部は直線的に開く。口縁部の器厚は薄い。外面調整は縦方向の幅の狭いミガキが丁寧に施されている(口縁部上端は横方向のミガキ)。内面は胴部が横方向にナデが粗く施され、口縁部は外面同様に丁寧なミガキである。このような特徴を持つ土器は栗原市鶴ノ丸遺跡第5住居跡出土坏(宮城県教育委員会：1981)、仙台市藤田新田遺跡S D 115出土鉢(宮城県教育委員会：1994 b)などがある。これらの土器は丹羽茂氏編年案の古墳時代前期塩釜式II B段階に位置づけられている(宮城県教育委員会：1994 b、1985)。したがって本遺跡出土の22も同時期頃のものとして考えておきたい。

23の高坏は坏部に段があり弱く湾曲しながら開く。脚部は筒型で裾が開く。調整は脚部内面以外は横や縦方向の丁寧なミガキが施されている。このような特徴を持つ土器は多賀城市山王遺跡西町浦地区S X 058出土高坏(多賀城市教育委員会：1980)や同遺跡八幡地区S X 230出土高坏(宮城県教育委員会：1994 a)などがある。西町浦地区S X 058出土高坏については、亙理町宮前遺跡の考察で古墳時代中期南小泉式A群土器(5世紀前葉頃)と位置づけている(宮城県教育委員会：1983 b)。八幡地区S X 230出土高坏については、S X 058と特徴が概ね一致し南小泉式の最も古い段階と位置づけている。したがって、23の高坏も上記に倣い南小泉式古段階頃と考えておきたい。

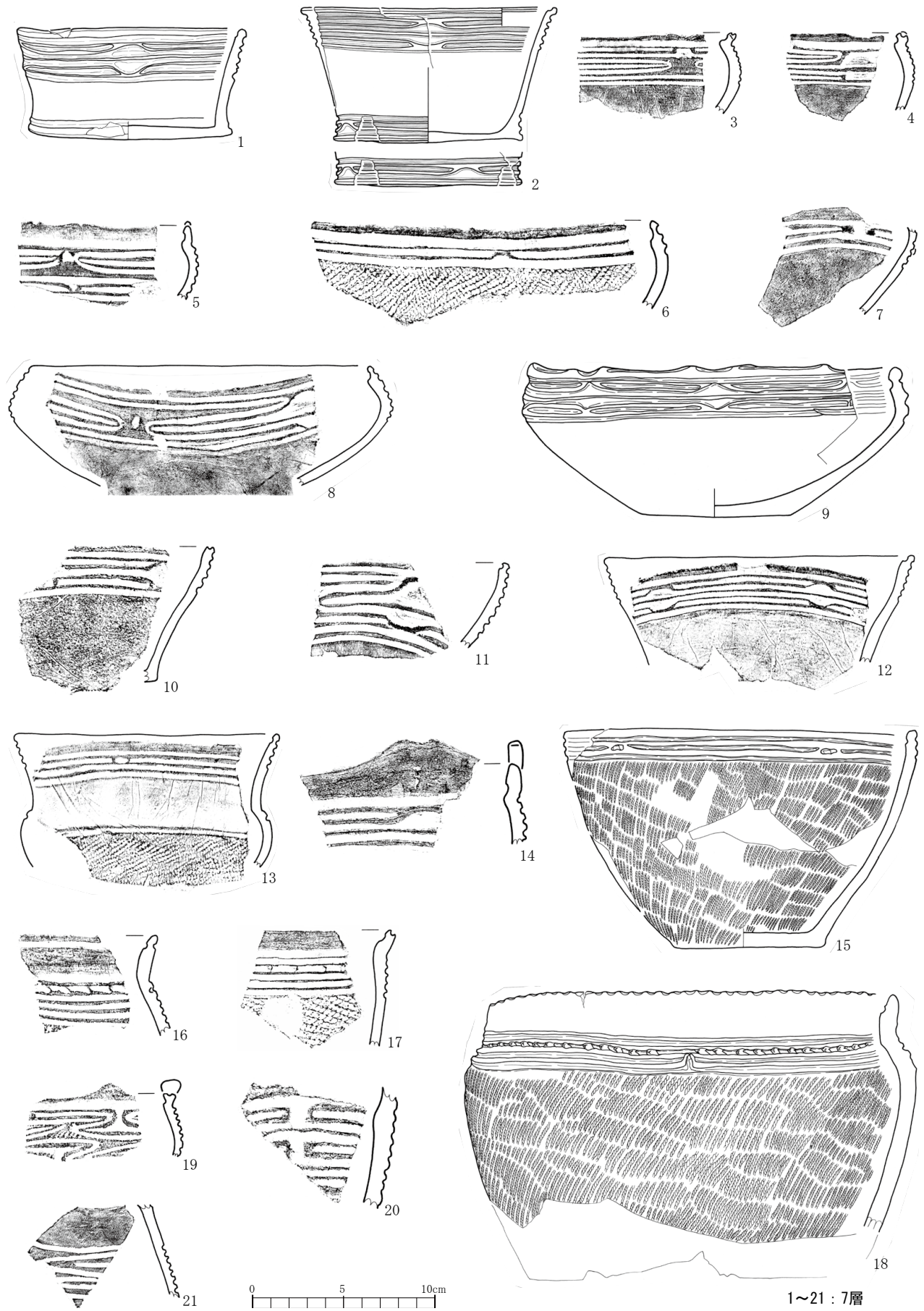
なお、その他の土器については、その特徴から概ね古墳時代前期塩釜式の新しい段階から中期南小泉式の古い段階にかけての時期に含まれるものと考えられる。

## 土製品

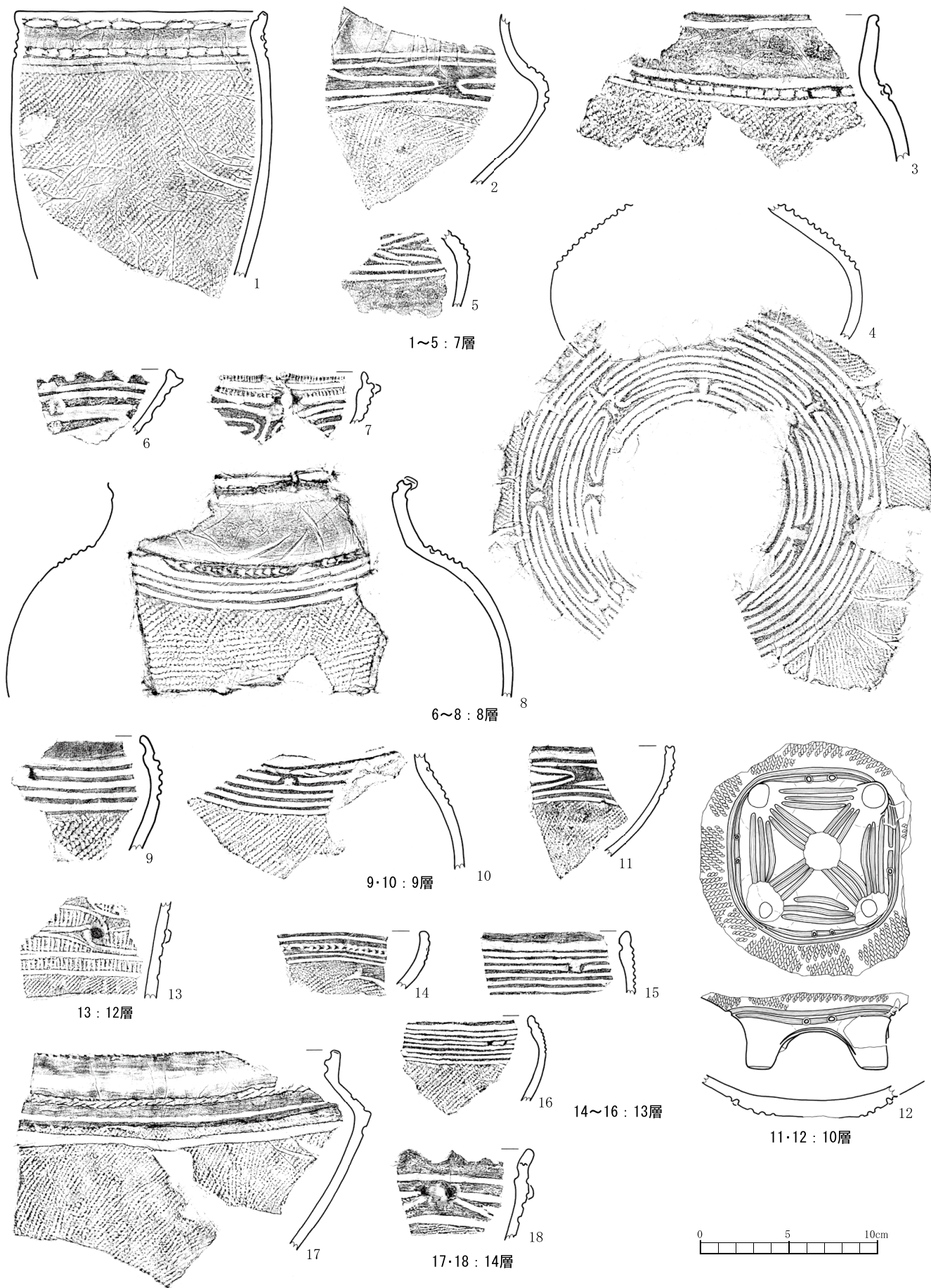
土偶の脚部が1点出土している(第70図19)。形状から左足と考えられる。つま先の位置にキザミによって指を作出している。ふくらはぎの位置に竹管文が施されている。

## b. 石器

石器は、里浜貝塚寺下圃地点の北端部に当たる発掘区から出土した。表土下にはほとんど貝を含まない黒褐色シルト質粘土層(6層まで)が、厚いところで1mほど堆積していた。ここからの出土土器は古墳時代が主体である。メノウ製の石錐(写真79-10)が出土しているが、より下層の堆積層から遊離したものであろう。さらには両面加工石器の未成品と考えられる石器(11・13)、二次加工ある剥片、楔形石器(17)が1、2点出土し、また剥片や1点の石核(20)も発見されている。これらも本来下層に含まれていたものであろう。他に粗粒の石英安山岩や石英砂岩などを用いた敲石(ハンマー)や凹石も出土しているが、古墳時代にも用例があり縄文時代のものとは断言できない。



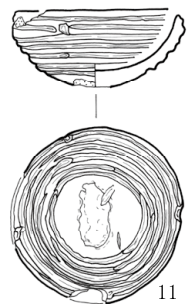
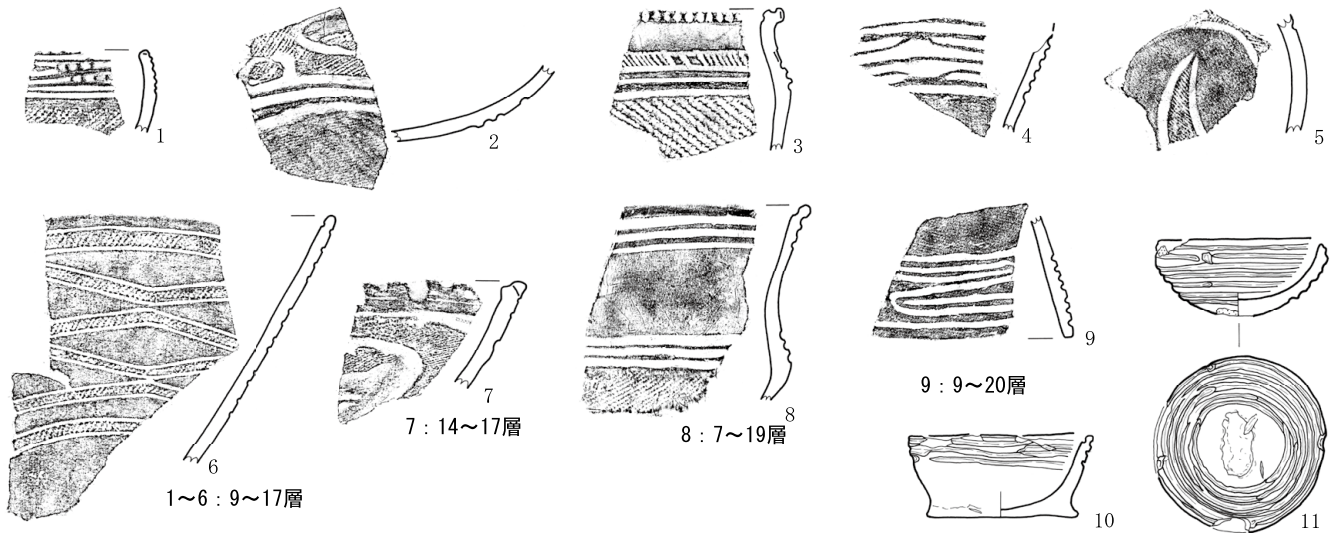
第67図 寺下圀（里74）地点出土土器・土製品（1）



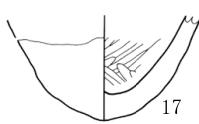
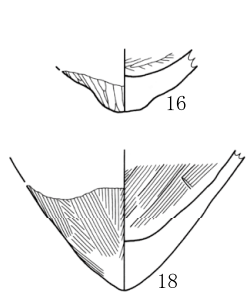
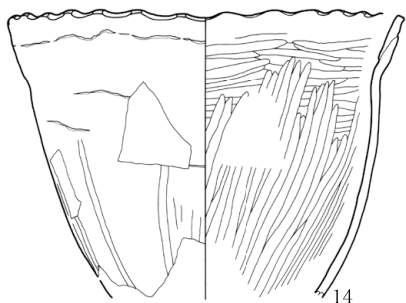
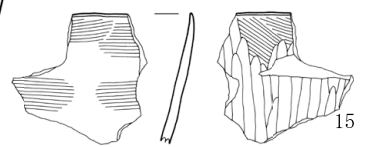
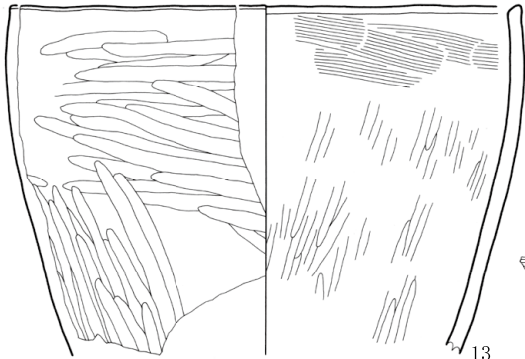
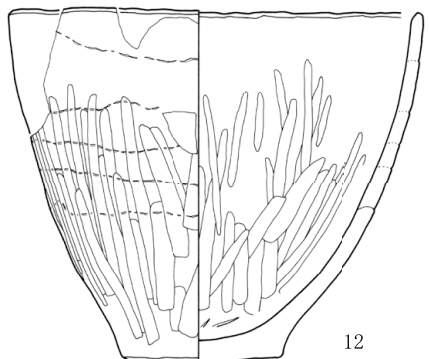
第 68 図 寺下圀 (里 74) 地点出土土器・土製品 (2)



第69図 寺下圀（里74）地点出土土器・土製品（3）

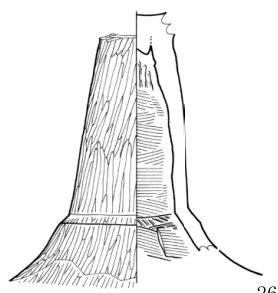
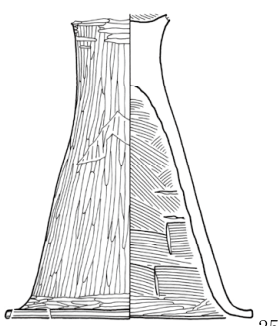
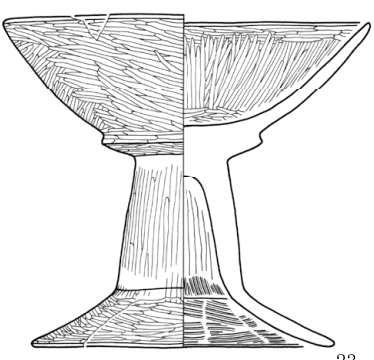
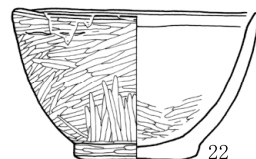
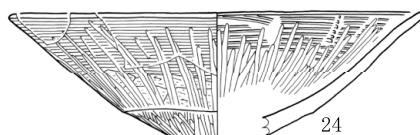
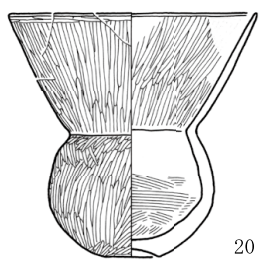
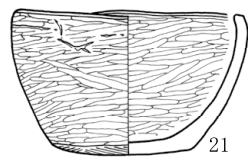


10·11 : 清掃土

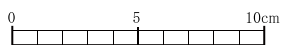
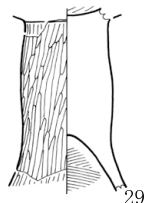


19 : 土偶

12~18 : 製塩土器



20~29 : 土師器



第70図 寺下圀 (里74) 地点出土土器・土製品 (4)

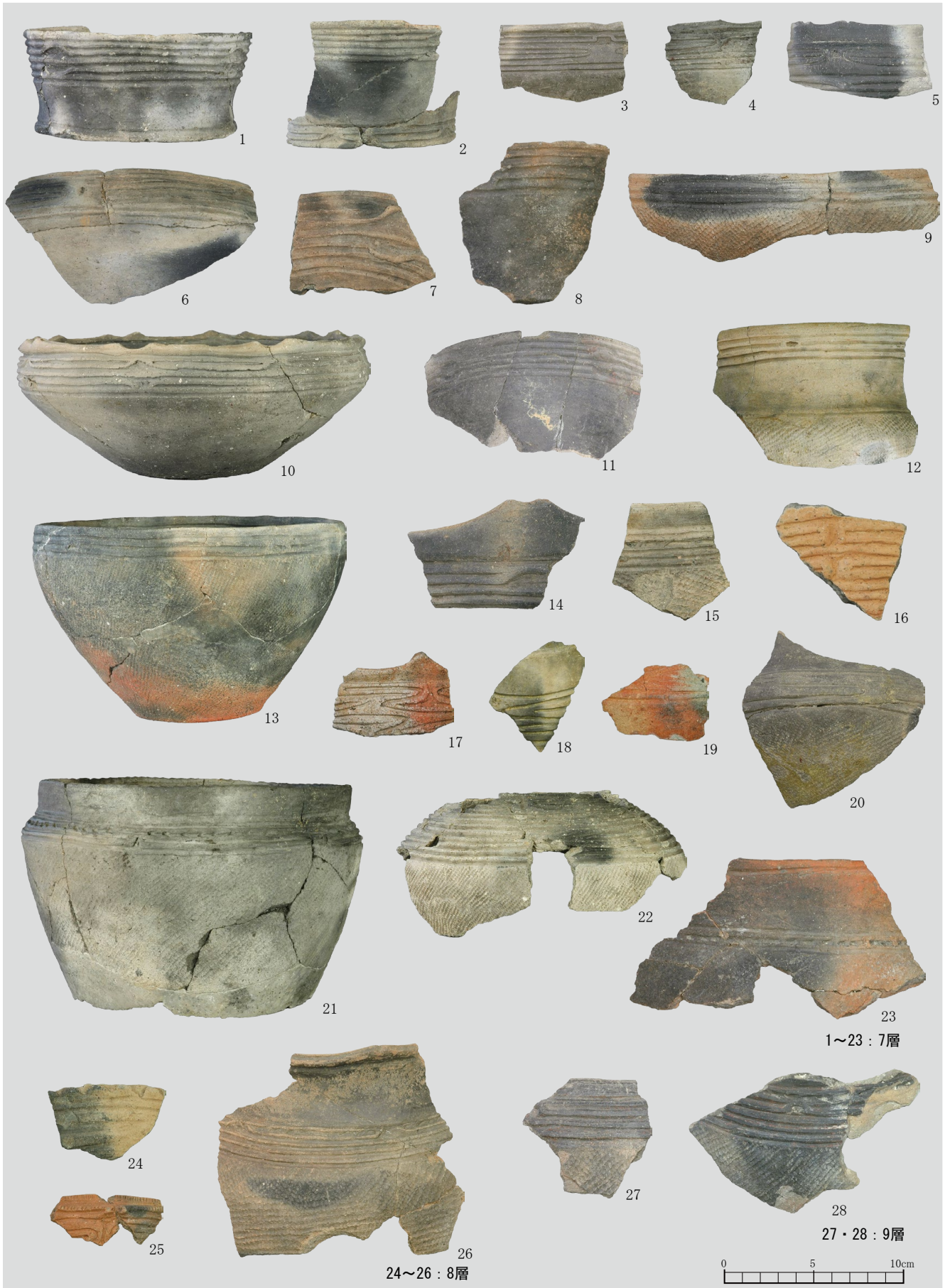


写真 76 寺下圀 (里 74) 地点出土土器・土製品 (1)

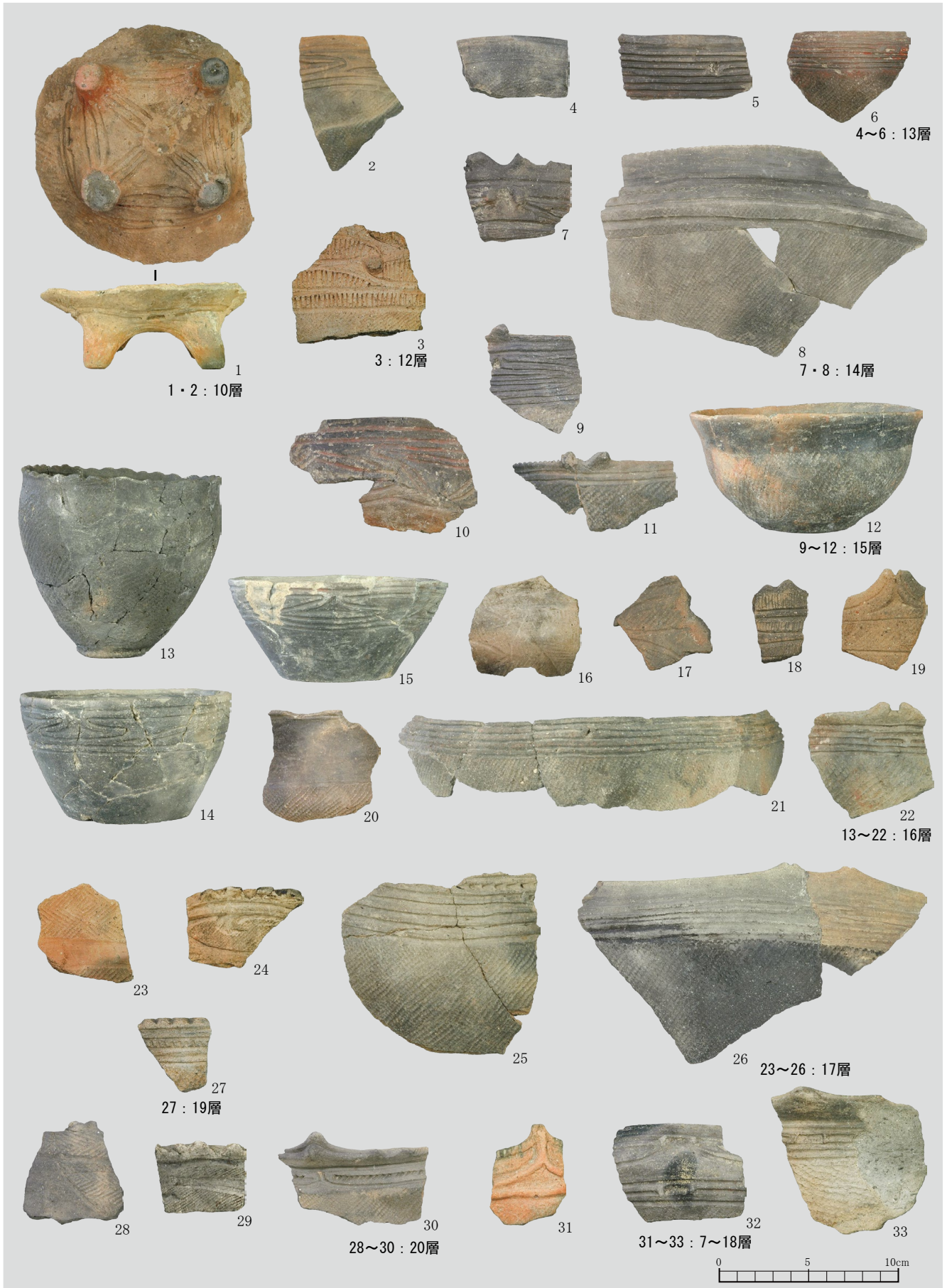


写真 77 寺下圀 (里 74) 地点出土土器・土製品 (2)



写真78 寺下圀（里74）地点出土土器・土製品（3）

第 19 表 寺下囲 (里 74) 地点出土土器観察表 (1)

図	写真	層位	種別	器種	外 面	内 面	底部	備 考
67-1	76-1	7層	縄文土器	鉢	凸字形工字文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)	丸底。ミガキ	口径12.7cm、底径11.3cm、器高6.1cm
67-2	76-2	7層	縄文土器	鉢	凸字形工字文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)	ミガキ	口径14.1cm、底径10.5cm、器高7.3cm
67-3	76-3	7層	縄文土器	鉢	工字文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		
67-4	76-4	7層	縄文土器	鉢	工字文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		
67-5	76-5	7層	縄文土器	鉢	工字文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		
67-6	76-9	7層	縄文土器	鉢	凸字形工字文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		口径18.7cm
67-7		7層	縄文土器	鉢	工字文、ミガキ(横)	ミガキ(横)		
67-8	76-6	7層	縄文土器	鉢	工字文、ミガキ(横)	ミガキ(横)		
67-9	76-10	7層	縄文土器	鉢	凸字形工字文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)	摩滅	口径20.2cm、底径8.2cm、器高8.3cm
67-10	76-8	7層	縄文土器	鉢	凸字形工字文、ミガキ(横)	ミガキ(横)		口唇部に沈線文
67-11	76-7	7層	縄文土器	鉢	工字文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		
67-12	76-11	7層	縄文土器	鉢	凸字形工字文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		赤彩。口径16.9cm
67-13	76-12	7層	縄文土器	鉢	並行沈線文、沈線文内に彫去	沈線文、ミガキ(横)		彫去の両端はよせた粘土か粘土粒。口径9.5cm
67-14	76-14	7層	縄文土器	鉢	凸字形工字文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		
67-15	76-13	7層	縄文土器	鉢	並行沈線文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)	ミガキ	口径19.5cm、底径8.3cm、器高11.9cm
67-16		7層	縄文土器	深鉢	並行沈線文、沈線文内に連続刺突文、縄文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		
67-17	76-15	7層	縄文土器	深鉢	並行沈線文、沈線文内に連続刺突文、縄文RL(縦)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		口唇部に沈線文
67-18	76-21	7層	縄文土器	深鉢	凸字形工字文、沈線文内に連続刺突文、縄文LR(縦)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横・縦)		口径22.4cm
67-19	76-17	7層	縄文土器	深鉢	工字文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	ミガキ(横)		
67-20	76-16	7層	縄文土器	深鉢	工字文	ミガキ(横)		
67-21	76-18	7層	弥生土器	高杯	変形工字文、ミガキ(横)	ヘラナデ(横)、ミガキ(横)		高坏脚
68-1		7層	縄文土器	深鉢	並行沈線文、沈線文内に連続刺突文、縄文LR(縦)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		口径14.1cm
68-2	76-20	7層	縄文土器	壺	工字文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	ミガキ(横)		補修孔あり
68-3	76-23	7層	縄文土器	壺	並行沈線文、沈線文内に連続刺突文、縄文LR(縦)、ミガキ(横)	ミガキ(横)		沈線文内に粘土粒2個貼付
68-4	76-22	7層	縄文土器	壺	工字文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	ケズリ(横)、ミガキ(横)		
68-5	76-19	7層	縄文土器	高坪	矢羽状沈線文、ミガキ(横)	ヘラナデ(横)、ミガキ(横)		
68-6	76-24	8層	縄文土器	皿	雲形文、縄文、ミガキ(横)	ミガキ(横)		
68-7	76-25	8層	縄文土器	鉢	沈線文、連続キザミ、B突起	沈線文、ミガキ(横)		
68-8	76-26	8層	縄文土器	壺	凸字形工字文、沈線文内に連続刺突文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		
68-9	76-27	9層	縄文土器	鉢	凸字形工字文、縄文LR(横)、ミガキ	沈線文、ミガキ(横)		凸部の両端はよせた粘土で盛り上がる
68-10	76-28	9層	縄文土器	壺	凸字形工字文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	ミガキ(横)		赤彩
68-11	77-2	10層	縄文土器	鉢	工字文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		口唇部に沈線文
68-12	77-1	10層	縄文土器	脚付皿	沈線文、粘土粒貼付、縄文LR(横)、ミガキ	ミガキ(横)	沈線文	
68-13	77-3	12層	縄文土器	深鉢	入組文、突起、連続キザミ、縄文LR(横)	ミガキ(横)		
68-14	77-4	13層	縄文土器	皿	雲形文、並行沈線文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	ミガキ(横)		沈線文内に連続刺突文
68-15	77-5	13層	縄文土器	深鉢	凸字形工字文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		赤彩
68-16	77-6	13層	縄文土器	深鉢	並行沈線文、粘土粒貼付、縄文LR(横)	沈線文、ミガキ(横)		赤彩
68-17	77-8	14層	縄文土器	鉢	並行沈線文、沈線文内に連続キザミ、縄文LR(横)、ミガキ(横)	並行沈線文、ミガキ(横・縦)		
68-18	77-7	14層	縄文土器	深鉢	工字文、突起、縄文LR(斜)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		
69-1	77-12	15層	縄文土器	鉢	縄文LR(横)、ミガキ(横)	ミガキ(横)	ミガキ(横)	口径10.8cm、底径4.5cm、器高5.6cm
69-2	77-10	15層	縄文土器	鉢	沈線文(三角状)、ミガキ(横)	沈線文、ケズリ(横)、ミガキ(横)		赤彩
69-3	77-9	15層	縄文土器	深鉢	工字文、縄文LR(斜)	沈線文、ミガキ(横・斜)		
69-4	77-11	15層	縄文土器	深鉢	並行沈線文、縄文LR(横)、ナデ(横)	沈線文、ナデ(横)、ミガキ(横)		口唇部に連続キザミ

第20表 寺下田(里74) 地点出土土器観察表(2)

図	写真	層位	種別	器種	外面	内面	底部	備考
69-5	77-16	16層	縄文土器	壺	沈線文、羽状縄文RL(横・縦・斜)、ミガキ(横)	ケズリ(横)、ミガキ(横)		
69-6	77-17	16層	縄文土器	深鉢	沈線文、縄文LR(横・縦)、ミガキ(横)	ミガキ(横)		
69-7	77-18	18層	縄文土器	深鉢	沈線文、連続キザミ、ミガキ(横)	ミガキ(横)		
69-8	77-19	16層	縄文土器	深鉢	三叉文、縄文LR(横)	マメツ		
69-9	77-20	16層	縄文土器	鉢	沈線文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		
69-10	77-15	16層	縄文土器	鉢	工字文、粘土粒貼付、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)	ミガキ	赤彩
69-11	77-14	16層	縄文土器	鉢	工字文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)	ミガキ	外面に炭化物付着。
69-12	77-13	16層	縄文土器	鉢	縄文LR(横)、ナデ(横)	ナデ(横)	ナデ	口径11.7cm、底径4.7cm、器高10.6cm
69-13	77-21	16層	縄文土器	深鉢	凸字形工字文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	沈線文、ケズリ(横)、ミガキ(横)		赤彩
69-14	77-22	16層	縄文土器	深鉢	並行沈線文、粘土粒貼付、縄文LR(横)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		赤彩
69-15	77-23	17層	縄文土器	深鉢	羽状縄文LR(横・縦)、ミガキ(横)	ミガキ(縦)		ミガキ部分が沈降
69-16	77-24	17層	縄文土器	皿	雲形文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	ミガキ(横)		口唇部周辺に黒色漆付着
69-17	77-25	17層	縄文土器	深鉢	凸字形工字文、沈線文内に連続刺突文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	ミガキ(横)		
69-18	77-26	17層	縄文土器	鉢	凸字形工字文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		
69-19		19層	縄文土器	深鉢	並行沈線文、縄文L(横)、ナデ(横)	ケズリ(横)、ミガキ(横)		
69-20	77-27	19層	縄文土器	鉢	並行沈線文、沈線文内に連続キザミ、縄文LR(横)、ミガキ(横)	ミガキ(横)		
69-21	77-28	20層	縄文土器	深鉢	沈線文、羽状縄文LR(横)・RL(横)	ミガキ(横)		
69-22	77-29	20層	縄文土器	皿	雲形文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	ミガキ(横)		黒色漆塗布?
69-23		20層	縄文土器	皿	並行沈線文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	ミガキ(斜)		
69-24		20層	縄文土器	皿	並行沈線文、ミガキ(横)	ミガキ(斜)	ミガキ	
69-25	77-30	20層	縄文土器	鉢	並行沈線文、沈線文内に連続キザミ、縄文LR(横)、ミガキ(横)	並行沈線文、ミガキ(横)		A突起の内面側に三叉状の彫去
69-26	77-31	7・18層	縄文土器	深鉢	降線文、沈線文、縄文LR(横)	ケズリ(横・縦)、ミガキ(横)		口唇部に連続キザミ
69-27	77-32	7・18層	縄文土器	鉢	工字文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		沈線文内を彫去しよせた粘土が盛り上がる。
69-28	77-33	7・18層	縄文土器	深鉢	凸字形工字文、縄文LR(縦)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		沈線文内を押し引き
70-1	78-1	9・17層	縄文土器	鉢	羊歯状文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	ミガキ(横)		
70-2	78-3	9・17層	縄文土器	皿	雲形文、縄文LR(横)、ミガキ	ミガキ(横・縦)	ミガキ	黒色漆塗布
70-3	78-4	9・17層	縄文土器	深鉢	並行沈線文、沈線文内に連続キザミ、縄文LR(横)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横・縦)		
70-4	78-2	9・17層	縄文土器	鉢	凸字形工字文、ミガキ(横)	ミガキ(横)		
70-5	78-5	9・17層	弥生土器	壺	錨形文、縄文、ミガキ	ナデ(横)		赤彩
70-6	78-6	9・17層	弥生土器	鉢	連続山形文、縄文、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		
70-7	78-7	9・17層	縄文土器	皿	雲形文、縄文LR(横)、ミガキ	ミガキ(横)		外面に炭化物付着。
70-8	78-8	7・19層	縄文土器	鉢	並行沈線文、縄文LR(横)、ミガキ(横)	沈線文、ミガキ(横)		赤彩
70-9	78-9	9・20層	弥生土器	高坏	変形工字文、ミガキ(横)	ヘラナデ(横)、ミガキ(横)		高坏脚。内面に赤色顔料付着
70-10		清掃土	縄文土器	鉢	凸字形工字文、ミガキ(横)	沈線文、ナデ(横)	木葉痕	
70-11	78-10	清掃土	縄文土器	皿	凸字形工字文、ミガキ(横)	ミガキ(横)	丸底。ミガキ	
70-12	78-11	7層	製塩土器	深鉢	ミガキ(横)	ヘラナデ、ミガキ(縦)	ナデ	外面に輪積痕残る。口径16.3cm、底径6.3cm、器高
70-13	78-12	7層	製塩土器	深鉢	ミガキ(横・縦)	ナデ(横)、ミガキ(縦)		口径20.4cm
70-14	78-13	16層	製塩土器	深鉢	ミガキ(縦)	ミガキ(横・縦)		外面に輪積痕残る。口径15.9cm
70-15	78-14	7層	製塩土器	深鉢	ナデ(横)	ナデ(斜)、ミガキ(横)		
70-16	78-16	8層	製塩土器	深鉢	ミガキ(縦)	ミガキ(縦)	尖底。ミガキ	
70-17	78-15	7層	製塩土器	深鉢	マメツ	ミガキ(縦)	丸底	
70-18	78-17	13層	製塩土器	深鉢	ナデ(横)	ヘラナデ(縦)	尖底。ナデ	
70-19	78-18	4・6層	土偶		キザミ、竹管文			土偶脚部
70-20	78-21	7層	土師器	小型丸底	ミガキ(横)	ナデ(横)、ミガキ(横)	ケズリ	口径9.9cm、底径2.2cm、器高9.7cm
70-21	78-19	7層	土師器	椀	ミガキ(横)	ミガキ(横)	ナデ	口径9.1cm、底径5.1cm、器高5.8cm

第 21 表 寺下圀 (里 74) 地点出土土器観察表 (3)

図	写真	層位	種別	器種	外 面	内 面	底部	備 考
70-22	78-20	不明	土師器	鉢	ミガキ(横・縦)	ミガキ(横)	ミガキ	口径9.8cm、底径4.8cm、器高6.1cm
70-23	78-23	4層	土師器	高坏	ミガキ(横・縦)	坏:ミガキ(横・縦)、脚:オサエ、ハケメ(横・縦)		口径14.7cm、脚径12.1cm、器高13.2cm
70-24	78-22	不明	土師器	高坏	ヨコナデ、ケズリ(横)、ナデ(縦)、ミガキ(横)	ハケメ(横)、ミガキ(縦)		口径16.6cm
70-25	78-24	清掃土	土師器	高坏	ミガキ(横・縦)	坏:ナデ、脚:ナデ(斜)、ヘラナデ(横)、ミガキ(横)		脚径9.9cm
70-26	78-25	4層	土師器	高坏	ミガキ(縦)	坏:ミガキ、脚:オサエ、ナデ(横)、ハケメ(横・斜)、ヘラ		
70-27	78-26	4層	土師器	高坏	ミガキ(縦)	坏:ヘラナデ、脚:ケズリ(横)、ハケメ(横)		
70-28	78-27	7層	土師器	高坏	ハケメ(縦)	坏:マメツ、脚:オサエ、ケズリ(横)、ナデ(横)		
70-29	78-28	4層	土師器	高坏	ミガキ(横・縦)	坏:ミガキ、脚:ナデ(横)		

下位に堆積した7層と呼び4層に細分した黒褐色シルト質粘土層などの層群には、縄文時代晩期大洞A式を主体とする土器が包含されていた。この層群からは、両面加工石器の未成品と考えられる石器、二次加工ある剥片、剥片などと、粘板岩製の擦り切り具(21)、粘板岩製の大型打石器(礫器)(26)、敲石(28)や凹石(29・30)、両者が複合した石器などが出土している。剥片や礫片には、灰白色の凝灰岩礫面をもつ緑かがった黒や褐色の珪質凝灰岩を芯に挟む在地石材(20の石核)が目立って含まれている。また石英安山岩の同一母岩剥片も数点見られるので、これも在地石材と考えられる。

9層以下は16層まで貝層が続くが、大洞A式土器を主体とする包含層で珪化凝灰岩や流紋岩製の石鏃4点(5~8)、両面加工石器の未成品と考えられる石器、石英安山岩製の半欠した敲石(28)、赤色顔料が付着した台石(31)などが出土している。他に塗られた赤色顔料が良く残るものも含めて、4点の凝灰岩製の小玉(5~8)が出土している。

以下は砂をマトリックスとする土層と貝層が堆積しているが、大洞A式土器にそれ以前の土器が混じる率が高くなり、二次堆積の疑いがある。遺物量も少なく、石刀未成品2点(25①②)、石核(18)などの出土が特筆される。

9~20層には石刀片2点(22①②)、石棒(24)があり、本来の堆積層を遊離した粘板岩を素材とした擦り切り具(21)、前述した石刀未成品や剥片が認められ、島外から搬入された粘板岩を素材にして当遺跡でこれらが製作されていたことを示している。

ここで概説した石器群は、晩期中葉大洞C2式土器型式期の西畑地点出土の石器群と類似する様相を示す。すなわち剥片石器では石鏃や石錐が多いが、石匙が減少する時期にあたる。敲石・凹類が多く、粗粒の石材で作った大型打石器も特徴である。今発掘区は、面積と包含層が薄かったため出土資料が少なく、晩期の当遺跡資料と比べて磨製石斧、岩版などが欠如している。また、石巻地方で産出する粘板岩を用いた石刀・石棒が多く用いられ、里浜貝塚で製作されていたことが明らかになった。

なお、石材の名称はこれまでの経験によって推定した。また、ここで観察し記載した石器は、発掘時に取り上げたもので、石鏃と玉類は貝層の水洗選別時に抽出したものである。水洗選別で得られた石器については、未観察であるため、それらの分析と全体の定量的な分析などについては今後の課題である。

### c. 骨角牙製品

骨角器は15点出土している。釣針、銚、骨篋、篋状角製品、棒状角製品、弭形角製品、管状製品、穿孔品など生産(漁具)や装飾に関わるものがある(写真80)。層位的には、波にさらわれて再堆積した貝層(19層)からの出土が多く、表面がやや摩滅したものもみられる。古墳時代中期の層(4層)から釣針などが出土しているが、下層からの混入の可能性が高い。骨角器はいずれも大洞A式のものと考えられる。

釣針(1~3)はいずれも鹿角製で、軸部のみが出土している。使用時に湾曲部分で折れたものとみられ、針先部分



1~4:凝灰岩製小玉 (Scale 1/2)  
5~9:石鏃 10:石錐 11~15:両面加工石器未成品 16・17:楔形石器  
18~20:石核 21:擦り切り具 22~24:石刀片 25:石棒 26・27:石刀未製品  
28・29:大型打石器 30・34:敲石 31・32:凹石 33:台石 (Scale 1/3)

写真 79 寺下圀 (里 74) 地点出土石器

第22表 寺下圀（里74）地点出土石器観察表

No	種別	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	備考
1	小玉	16層	6.7	4.3	4.5	0.1	凝灰岩	穿孔径2.3×1.4mm
2	小玉	12層	5.4	4.1	3.5	0.1	凝灰岩	穿孔径1.6×1.5mm、赤彩
3	小玉	19層(深掘区)	4.8	4.3	3.8	0.1	凝灰岩	穿孔径1.5×1.5mm、赤彩
4	小玉	15層	(7.1)	5.8	5.9	0.3	凝灰岩	穿孔部で欠け、赤彩
5	石鏃	15層	17.8	6.9	2.5	0.1	珪化凝灰岩	
6	石鏃	12層	17.9	12.3	5.5	1.0	流紋岩	
7	石鏃	15層	(21.4)	13.8	5.2	1.3	流紋岩	
8	石鏃	9層	30.7	15.0	5.1	1.5	流紋岩	
9	石鏃	9-17層	(22.7)	11.2	6.6	1.4	珪化凝灰岩	
10	石錐	6層	37.7	11.0	6.7	2.8	メノウ	
11	両面加工石器未製品	4層	22.8	16.8	6.4	2.5	流紋岩	
12	両面加工石器未製品	8・18層	34.4	22.6	7.0	6.5	流紋岩	
13	両面加工石器未製品	8層	46.2	35.3	11.6	21.0	流紋岩	
14	両面加工石器未製品	表土	40.0	35.2	14.3	23.0	珪化凝灰岩	
15	両面加工石器未製品	表土	42.5	39.5	17.0	21.9	玉髄	
16	楔形石器	6層	24.0	21.4	12.7	7.2	玉髄	
17	楔形石器	9-20層	35.1	55.4	21.5	54.8	頁岩	
18	石核	4層	32.5	24.0	13.0	10.0	珪化凝灰岩	
19	石核	表土	41.8	50.6	23.2	56.9	珪化凝灰岩	
20	石核	6層	103.0	77.0	76.0	420.3	珪質頁岩	
21	擦り切り具	8層	(89.4)	41.3	10.5	41.7	粘板岩	
22	石刀	9-20層	(65.6)	30.2	10.0	24.9	粘板岩	
23	石刀	9-20層	(85.7)	35.4	10.4	51.4	粘板岩	
24	石刀	表土	(87.0)	34.0	(13.0)	44.0	粘板岩	
25	石棒	8・18層	(79.4)	39.9	22.3	87.8	粘板岩	
26	石刀未製品	19層	(114.3)	44.9	23.5	138.9	粘板岩	
27	石刀未製品	19層	(220.3)	69.4	42.0	982.6	粘板岩	
28	大型打石器	8層	88.6	84.4	36.5	306.9	粘板岩	
29	大型打石器	表土	(124.0)	75.0	42.5	502.6	粘板岩	
30	敲石	8・18層	(69.5)	49.2	23.3	139.3	石英安山岩	
31	凹石	8層	79.5	55.0	42.7	266.9	安山岩	
32	凹石	8層	111.9	81.2	51.0	642.9	安山岩	
33	台石	16層	—	—	53.3	1564.0	石英安山岩	赤色顔料付着

を欠いている。1・2は軸部が直線的で、糸かけ部分の軸頂基部が外側に鉤状に突出している。里浜貝塚西畑地点や沼津貝塚で特徴的に出土する大形のタイプで、縄文時代晩期中葉以降に出現する。

銛（4）は鹿角製単純銛の未製品である。単純銛としてはかなり大形のもので、基部には索綱を結びつけるための肩が突出し、先端部の片側1ヶ所に逆刺がが作出されている。

篋（5～7）は3点出土している。5はシカの中足骨を前後に2分割したもので、6・7は鹿角を半截し篋状に薄く仕上げている。いずれも先端は摩滅し、側縁の両側には削痕が顕著に認められる。西畑北地点ではマガキの殻剥きに骨篋が使用された可能性が指摘されているが（東北歴史博物館：1988）、側縁両側の削痕は篋を回転させた際の痕跡と考えることも可能である。

弭棒状製品（11～13）は3点出土している。いずれも鹿角製で、装飾加工を施すタイプ（11・12）といわれる「浮袋の口」と呼ばれるタイプ（13）のものがある。13の内面にはアスファルトの付着が認められる。

このほか、サメの歯に穿孔したペンダント（15）やコハクチョウの上腕骨の両端を輪切りにした管状品（14）、棒状の角製品（8・10）、骨製品（10）など用途不明の骨角器もある。

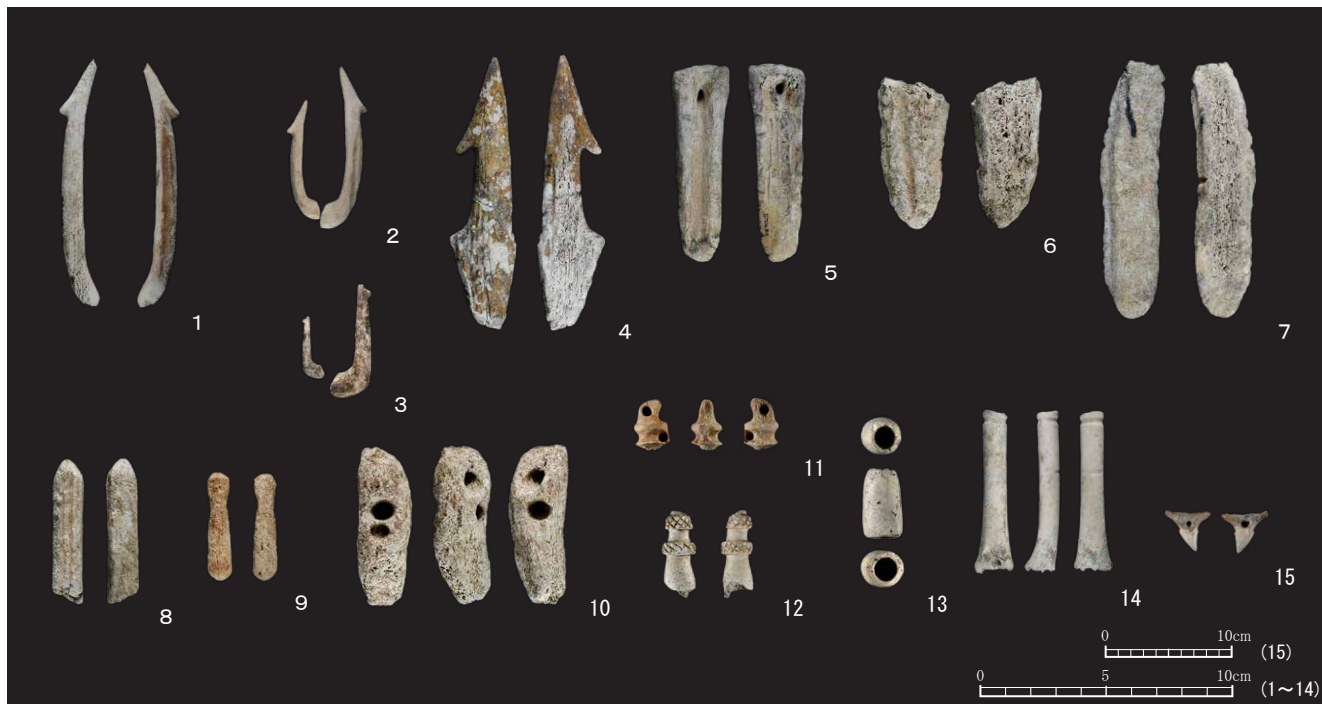


写真 80 寺下圀（里 74）地点出土骨角器

第 23 表 寺下圀（里 74）地点出土骨角器観察表

No	種 別	層 位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	素 材	備 考
1	釣針	19層(深掘区)	97.6	(16.0)	7.5	鹿角	軸部～湾曲部残存
2	釣針	19層(深掘区)	66.1	(21.5)	9.5	鹿角	軸部～湾曲部残存
3	釣針	4層	46.0	(17.1)	7.5	鹿角	軸部～湾曲部残存、未製品？
4	単純鈎未製品	16層	(105.4)	26.0	11.1	鹿角	
5	骨篋	表土	81.5	23.7	10.0	シカ中足骨(R)	表面磨滅、先端側辺に回転による削痕顕著
6	鈎状角製品	8層	(61.5)	28.4	12.0	鹿角	先端磨滅
7	鈎状角製品	不明	107.8	24.7	9.5	鹿角	先端磨滅
8	棒状角製品	4層	(57.7)	12.2	8.1	鹿角	先端面取り磨滅
9	不明角製品	19層(深掘区)	43.1	9.8	8.0	鹿角	両端磨滅
10	不明骨製品	4層	(61.5)	(22.2)	(21.0)	海獣骨？	未製品？3ヶ所に穿孔(うち1ヶ所は貫通)
11	弭形角製品	19層(深掘区)	(20.2)	13.7	12.6	鹿角	2ヶ所に径4mmの穿孔
12	弭形角製品	8層	(35.1)	12.7	11.7	鹿角	盲孔、残存深8.7mm
13	弭形角製品	9-17層	28.3	15.9	14.2	鹿角	内面アスファルト(?)付着
14	管状製品	19層	(107.7)	16.4	13.6	ハクチョウ上腕骨(R)	未製品、コハクチョウ程度の大きさ
15	穿孔品	16層	11.0	12.8	2.3	メジロザメ属歯	穿孔径1.0mm(裏面から穿孔、径2.0×1.5mm)

#### d. 動物遺存体

遺物包含層および貝層から、多量の動物遺存体が検出された。整理作業は現在進行中であり、ここでは、整理作業の進んだ動物遺存体資料の一部の様相を概述する。

整理された動物遺存体資料は、調査時に現場にて目視で確認され適時取り上げられた資料と、一定量の貝層土壌からフルイを用いた水洗選別により検出された資料とに大別される。前者を「現場取上資料」、後者を「水洗選別資料」と呼称する。

貝層の上位に堆積しているシルト層のうち、4層、6層、7層および8層から動物遺存体が多く出土しており、現場取上資料として回収されている。また、9層～16層までの貝層で水洗選別をおこなった。

水洗選別においては、貝殻や骨類を含んだ貝層の土壌が「貝層サンプル」として任意に一定量回収し、資料館に運び

込んだのち、約2mmメッシュのフルイを用いて水洗選別した。この2mmメッシュ上に残存した資料が、水洗選別資料の全体である。

出土土器の分析から、4層と6層は古墳時代（4世紀後半から5世紀前半）に形成された堆積層とみられ、7層以下、貝層にかけては、縄文時代晩期（大洞A式期）の堆積層と推定される。

4層および6層には、古墳時代の土師器に加え、大洞A式期を中心とする縄文土器片も多量に包含されており、下位の縄文晩期の層に由来する遺物が上層の4層・6層に多く含まれる堆積状況が確認されている。同様の状況は動物遺存体資料にも起こっていると推定される。遺物の観察（動物組成の差、金属器の使用痕跡や骨の取り扱いの違い等）からは、縄文時代の資料と古墳時代の資料とを区別することはできなかった。4層・6層においては、両者が混在している可能性が高い。なお、ニワトリ、ウシ、ウマ等の家畜動物の存在は確認されなかった。

分析にあたっては、奥松島縄文村歴史資料館所蔵の現生骨格標本を用い、現生標本との形態的比較により種の同定をおこなった。種の記載にあたっては、貝類は波部・小菅（1967）、波部・奥谷（1983）、魚類は益田他（1984）、酒井（1986）、鳥類は小林（1956）、日本鳥学会（2000）、哺乳類は阿部（1994）を参照した。

本調査区において確認された動物遺存体は、貝類34種類、節足動物2種類、魚類35種類、両生類1種類、爬虫類2種類、哺乳類9種類である。現生標本の不備や残存状況等により同定に至らなかった資料が残されており、今後の分析の進展により、記載される種名は増える可能性がある。

#### [貝類]

腹足綱14種類、掘足綱1種類、二枚貝綱19種類の計34種類が確認された。なお、微小貝類は同定作業が進んでいないため、計数されていない。貝類は、現場取上資料からは十数点が確認されているのみであり、貝類のほとんどは水洗選別資料からの検出である。

水洗選別資料における、最小個体数に基づく種組成の様相を、第24表および第71図に示した。貝層Iを形成している各層（9～16層）において、潮間帯の砂泥底を棲息地とする二枚貝のアサリが卓越し、当該貝層の主体貝となっている。11層を除くすべての層において、アサリが組成の8割以上を占めている。次いで多いのが潮間帯の岩礁域に棲息する巻貝のスガイで、これらアサリとスガイの2種で組成の9割以上が占められている。この2種の割合は層を追って若干の変異があり、下層にいくにつれスガイの割合が小さくなる傾向が観察される。11層は、スガイの割合が比較的多く、2割を超える。

一方、貝層IIIにおいては、アサリは組成の40%に留まり、マガキ（24.5%）、スガイ（16.3%）、ヒメシラトリガイ（7.4%）、オオノガイ（4.7%）と続く。貝層Iと比べると貝組成の様相に大きな違いが認められる。また、一定サンプル量あたりの貝類の包含量も貝層Iより少ない。

#### [節足動物]

フジツボ類とウニ類が、水洗選別資料から確認された。いずれも細片化している。種の同定および定量的な分析は今後の課題である。

#### [魚類]

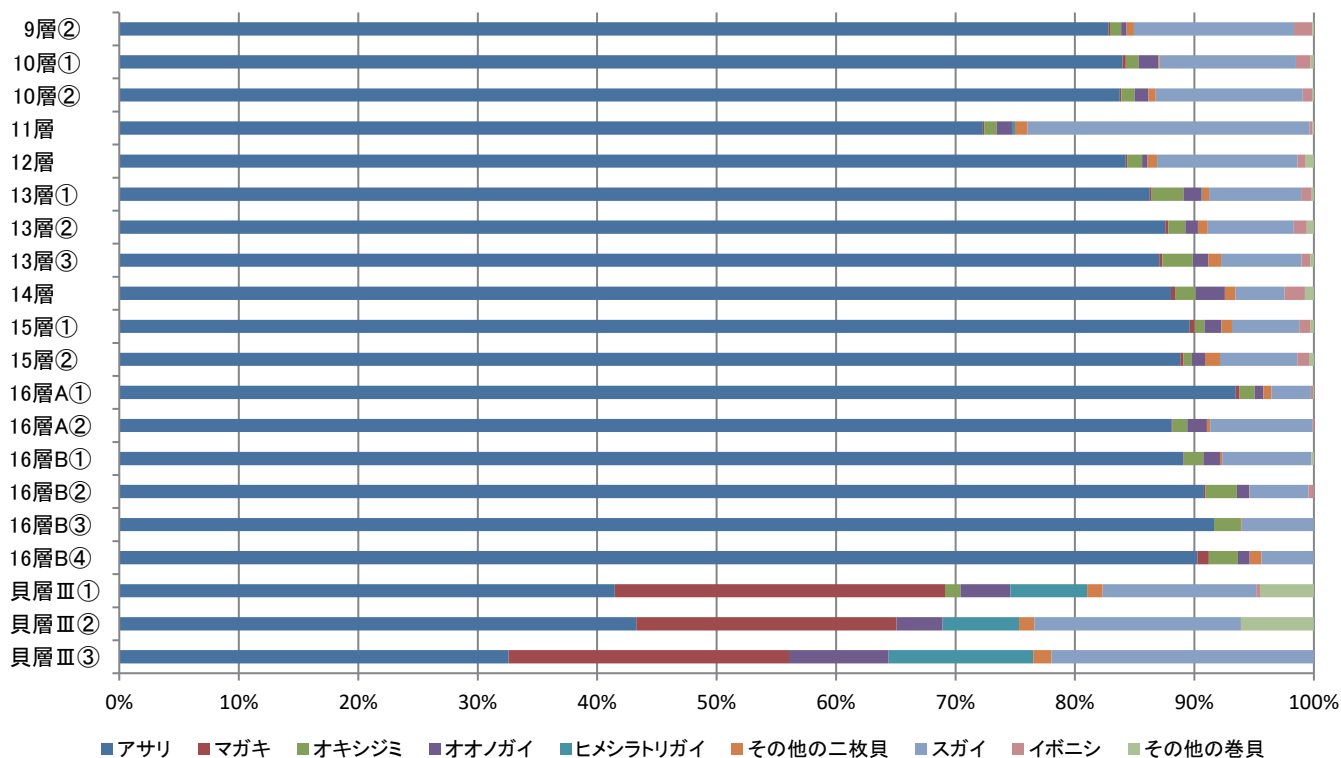
25種類が確認された。現場取上資料は比較的大きな破片を中心とした回収であり、2mmメッシュのフルイを使用した水洗選別資料では、より小型の魚類が各部位にわたって確認されている。ただし、東北歴史資料館（現：東北歴史博物館）による里浜貝塚西畑地点の調査においては、2mmメッシュ上に残存した資料中から、小型の魚類を中心として、種同定の可能な部位骨が多く確認されている（東北歴史資料館：1986）。このことは、水洗選別の際に2mmメッシュを通過してしまい未回収に終わった魚骨の存在を示唆しており、魚種組成の復原において、微小な魚骨が過少評価されている可能性を考慮する必要がある。

以下では、整理作業の進んだ9層、11層、13層、15層、16層および貝層IIIの6つの層の水洗選別資料の様相を概述する。9～16層は、それぞれ32.175リットル（55×39×15cmの整理用コンテナを基準）の貝層サンプルから得られた資料である。貝層3は21.45リットル（同コンテナにおいて深さ10cm）の貝層サンプルから得られた資料である。（以下、両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類においても水洗選別資料の記述は同じ資料体の分析に基づく。）

同定破片数（NISP）と最小個体数（MNI）に基づく魚類組成を第25表および第72図に表した。

第24表 寺下囲（里74）地点貝類出土一覧表

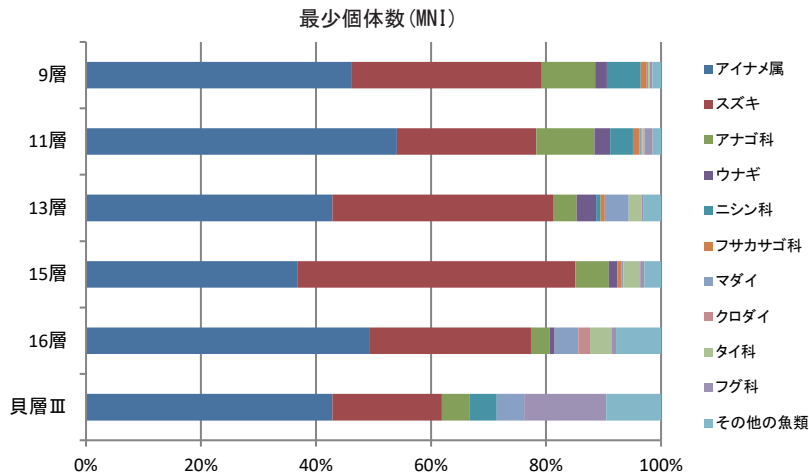
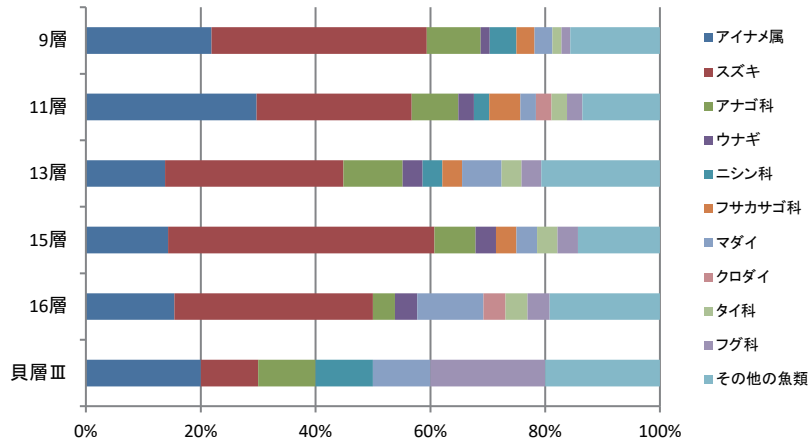
サンプル番号	SS01	SS02	SS03	SS06	SS11	SS12	SS13	SS14	SS15	SS16	SS17	SS18	SS19	SS20	SS21	SS22	SS23	SS24	SS25	SS26
種名/層位	貝層Ⅲ①	貝層Ⅲ②	貝層Ⅲ③	9層②	10層①	10層②	11層	12層	13層①	13層②	13層③	14層	15層①	15層②	16層A①	16層A②	16層B①	16層B②	16層B③	16層B④
アサリ	129	135	43	1242	1243	1082	618	739	1456	1508	1358	1288	1753	1539	1504	1289	1416	1422	1457	185
マガキ	86	68	31	2	4	2	1	1	3	4	4	5	8	5	5	1	1	2	0	2
オキシジミ	4	0	0	14	16	14	9	11	45	25	40	25	16	12	20	18	26	41	36	5
シオフキガイ	0	0	0	0	0	2	1	1	3	2	7	3	3	2	0	0	0	0	0	2
オオノガイ	13	12	11	7	24	15	11	4	25	18	20	36	27	19	12	24	22	16	0	2
ハマグリ	0	0	0	0	0	1	1	0	2	3	3	1	2	1	3	3	0	0	1	0
オニアサリ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2	5	0	0	1	0	0	0
イガイ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0
ムラサキインコガイ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヤマトシジミ	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	3	5	5	1	2	1	0	0
カリガネガイ	0	0	2	8	1	3	5	6	3	7	6	6	7	7	3	0	0	0	0	0
ヒメシラトリガイ	20	20	16	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ナミマガシワガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウネナシトマヤガイ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウチムラサキガイ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イタボガキ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サビシラトリガイ	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コタマガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スガイ	40	54	29	201	169	159	202	103	130	124	105	60	110	112	53	125	119	77	96	9
イボニシ	1	0	0	23	18	10	2	6	15	19	11	25	18	17	3	2	0	7	0	0
レイシガイ	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
クボガイ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コシダカガンガラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ウミナ	4	10	0	0	2	2	1	5	1	8	2	3	6	4	1	0	1	0	0	0
インダタミガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヒレガイ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ヒメソボラ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アカニシ	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0
オオヘビガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
ツメタガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0
タマキビガイ	10	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クズヤガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	311	312	132	1500	1480	1292	855	877	1688	1722	1560	1463	1956	1733	1609	1463	1590	1566	1590	205



第71図 寺下囲（里74）地点の貝類組成

第 25 表 寺下圀 (里 74) 地点魚類出土一覽表

サンプル番号	SS01		SS06				SS13				SS16				SS19				SS23					
	貝層Ⅲ				9層				11層				13層				15層				16層			
種名/カウント法	MNI		NISP		MNI		NISP		MNI		NISP		MNI		NISP		MNI		NISP		MNI		NISP	
アイナメ属	2	20.0%	9	42.9%	14	22.2%	636	46.3%	11	30.6%	299	54.4%	4	13.8%	114	42.9%	4	14.3%	101	36.7%	4	15.4%	120	49.4%
スズキ	1	10.0%	4	19.0%	24	38.1%	457	33.3%	10	27.8%	134	24.4%	9	31.0%	102	38.3%	13	46.4%	133	48.4%	9	34.6%	68	28.0%
アナゴ科	1	10.0%	1	4.8%	6	9.5%	128	9.3%	3	8.3%	56	10.2%	3	10.3%	11	4.1%	2	7.1%	16	5.8%	1	3.8%	8	3.3%
ウナギ	0		0		1	1.6%	28	2.0%	1	2.8%	15	2.7%	1	3.4%	9	3.4%	1	3.6%	4	1.5%	1	3.8%	2	0.8%
マダイ	1	10.0%	1	4.8%	2	3.2%	3	0.2%	1	2.8%	2	0.4%	2	6.9%	11	4.1%	1	3.6%	1	0.4%	3	11.5%	10	4.1%
クロダイ	0		0		0		0		1	2.8%	1	0.2%	0		0		0		0		1	3.8%	5	2.1%
タイ科	0		0		1	1.6%	4	0.3%	1	2.8%	2	0.4%	1	3.4%	6	2.3%	1	3.6%	8	2.9%	1	3.8%	9	3.7%
フグ科	2	20.0%	3	14.3%	1	1.6%	6	0.4%	1	2.8%	8	1.5%	1	3.4%	1	0.4%	1	3.6%	2	0.7%	1	3.8%	2	0.8%
フサカサゴ科	0		0		2	3.2%	15	1.1%	2	5.6%	6	1.1%	1	3.4%	2	0.8%	1	3.6%	2	0.7%	0		0	
マイワシ	1	10.0%	1	4.8%	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
ニシン?	0		0		1	1.6%	4	0.3%	1	2.8%	2	0.4%	1	3.4%	2	0.8%	0		0		1	3.8%	1	0.4%
ニシン科	1	10.0%	1	4.8%	3	4.8%	81	5.9%	1	2.8%	22	4.0%	1	3.4%	2	0.8%	0		0		0		0	
マダロ属	1	10.0%	1	4.8%	0		0		1	2.8%	1	0.2%	1	3.4%	1	0.4%	0		0		1	3.8%	1	0.4%
カツオ?	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		1	3.8%	1	0.4%
カレイ科	0		0		1	1.6%	1	0.1%	0		0		0		0		0		0		0		0	
サヨリ	0		0		1	1.6%	2	0.1%	0		0		1	3.4%	1	0.4%	0		0		0		0	
ウミタナゴ科	0		0		1	1.6%	2	0.1%	0		0		0		0		0		0		0		0	
トビエイ科	0		0		1	1.6%	1	0.1%	0		0		0		0		0		0		0		0	
ブリ属	0		0		1	1.6%	1	0.1%	0		0		1	3.4%	2	0.8%	1	3.6%	2	0.7%	0		0	
ボラ科	0		0		1	1.6%	1	0.1%	0		0		1	3.4%	1	0.4%	1	3.6%	2	0.7%	0		0	
サバ属	0		0		1	1.6%	2	0.1%	0		0		0		0		1	3.6%	1	0.4%	0		0	
サケ科?	0		0		1	1.6%	1	0.1%	1	2.8%	1		1	3.4%	1	0.4%	0		0		1	3.8%	3	1.2%
マアジ	0		0		0		0		1	2.8%	1	0.2%	0		0		0		0		0		0	
サメ・エイ類	0		0		1	1.6%	6	0.4%	1	2.8%	3	0.5%	0		0		1	3.6%	3	1.1%	1	3.8%	13	5.3%
合計	10		21		63		1373		36		550		29		266		28		275		26		243	
同定種類数	8		19				15				15				12				13					



第 72 図 寺下圀 (里 74) 地点の魚類組成

貝層Ⅰ中においては、アイナメ属およびスズキが、高い出現率を示す。カウント方法の違いによって、また層位によって割合に変化があるが、貝層Ⅰを構成する9～16層のいずれの層においても、これら2種類の魚類が中心となった魚類組成を見せている。

アイナメ属とスズキは、確認された部位数も他の魚類と比べて格段に多く、より多くの埋蔵があった様子をうかがわせる。なお、アイナメ属は体長にして15～30cm程度の範囲におさまる個体が観察された。スズキは体長のバラエティが大きく、体長20cm程度のもの、体長30cm程度のもの、30cm以上のものと、各段階の個体が確認されている。

アイナメ属・スズキに次いで出現率が高いのは、アナゴ科、ウナギ、フサカサゴ科、フグ科、タイ科といった魚類で、各層において、一定の割合で検出される。一方、層により消長に変化のあるのがニシン科で、上位の9層で最も多く検出されるが、下層に進むにつれ割合は減少し、15・16層ではほとんど検出されていない。その他の魚類は、各層において、多くて数点のみの出土である。

全魚種の同定破片数の合計を比べると、9層が1373点と最も多く、10層550点、13～16層が250点前後と、下層に進むにしたがって減少していく傾向があり、貝層中の魚骨の埋蔵量にも大きな変化のあることがわかる。

貝層Ⅲは、同定破片数が21点と、魚類の出現数が極端に少ない。

#### [両生類・爬虫類]

両生類ではカエル類が、爬虫類ではヘビ類とウミガメ科が確認された(第26・27表)。カエル類は椎骨および四肢骨片が、ヘビ類は椎骨が、水洗選別資料から検出されている。ウミガメ科は、現場取上資料および水洗選別資料から、背甲板の破片が数点確認された。

#### [鳥類]

ウ属とカモ科が確認された。また、この2種類以外に、同定に至らなかった鳥類の部位骨が残されているが、数量的にはこの2種類が圧倒している。

ウ属は、形態による種の判別が困難であったため、サイズの違いを基準として、「ヒメウ」と「カワウもしくはウミウ」との2種類に分けて集計している。

カモ科も同様に、形態による種の判別が困難であり、サイズの違いを基準として、ハクチョウ類、ガン類、カモ類に大別した。このうち、ハクチョウ類は骨角器の素材として利用されたと考えられる上腕骨が2点出土した(写真80)。ガン類は、現場取上資料(13～16層)から尺骨の遠位端が1点確認された。ヒシクイ程度のサイズである。その他の大部分のカモ科鳥類は、カモ類に分類された。カモ類のなかでもサイズにバラエティが認められるが、手元の現生標本では細分が困難であったため、大、中、小と、大雑把に分けて集計した。

現場取上資料においては、同定破片数のカウントで、カワウもしくはウミウ36点、ヒメウ36点、カモ類49点が計数された。

水洗選別資料においては、ウ類18点、カモ類74点が計数された(第29表)。より小さな骨が網羅的に回収される水洗選別資料においては、ウ類に比べて、若干小型のカモ類の出現率が高い傾向がうかがえる。

#### [哺乳類]

モグラ科、ネズミ科(ネズミ亜科、ハタネズミ亜科)、イヌ、カワウソ?、イノシシ、ニホンジカ、イルカ・クジラ類、ヒトが確認された(第28表)。

モグラ科とネズミ科は、水洗選別資料から検出された。ネズミ科のうち、歯牙の残存しているものは、ネズミ亜科とハタネズミ亜科とに区別した。

イヌは、古墳時代の堆積層である4層を中心とした出土であり、上腕骨・頸椎・胸椎・腰椎・寛骨・大腿骨が確認された。また、7層から踵骨が1点出土している。散在的な出土状況である。

カワウソ?としたものは、遠位端を欠損した大腿骨が6層から1点出土した。形態的にカワウソに最も近いと考えられるが、比較標本の不足から、カワウソ?とした。

イノシシおよびニホンジカは、哺乳類中で普遍的に観察された種である。イノシシとニホンジカとの区別が困難であった破片も含め、頭部・胴部・四肢と各部位にわたっての出土が確認される。現場取上資料のうち、鹿角を除く部位の同定破片数を比べると、イノシシ26点、ニホンジカ146点が計数されており、ニホンジカがより多く出土する傾向にある。水洗選別資料では、イノシシの検出は貝層Ⅲからの1点のみであり、ニホンジカは計11点が確認された。

第26表 寺下圀（里74）地点両生類出土表

層位	種名	部位	左右	部分
9	カエル類	上腕骨	R	遠位端
	カエル類	上腕骨	L	遠位端
	カエル類	椎骨	M	一部欠損
	カエル類	椎骨	M	一部欠損
	カエル類	椎骨	M	一部欠損
	カエル類	椎骨	M	一部欠損
	カエル類	橈尺骨	R?	近位端
	カエル類	橈尺骨	R?	近位端
	カエル類	脛腓骨	?	骨幹部
	カエル類	脛腓骨	?	骨幹部
	カエル類	脛腓骨	?	骨幹部
	カエル類?	大腿骨?	?	骨幹部
13	カエル類	上腕骨	R	遠位端
	カエル類	上腕骨	L	遠位端
	カエル類	椎骨	M	完形
15	カエル類	上腕骨	R	遠位端

第27表 寺下圀（里74）地点爬虫類出土表

層位	種名	部位	左右	部分
9	ウミガメ科	背甲板	?	破片
	ヘビ類	椎骨	M	完形
	ヘビ類	椎骨	M	完形
	ヘビ類	椎骨	M	完形
11	ヘビ類	椎骨	M	完形
	ヘビ類	椎骨	M	完形
	ヘビ類	椎骨	M	一部欠損

第29表 寺下圀（里74）地点哺乳類出土表

層位	種名	部位	左右	部分	注記
9	ネズミ科	寛骨	R	寛骨臼付近	
	ネズミ科	大腿骨	L	遠位端	未化骨
	ネズミ科	脛骨	L	一部欠損	未化骨
	ネズミ科	踵骨	L	完形	未化骨
	ネズミ亜科	上顎骨	R	M2,M3	
	シカ/イノシシ	胸椎	M	棘突起	
	シカ/イノシシ	頭蓋骨	R	岩様部	
	ニホンジカ	鹿角	?	幹部	
	ニホンジカ	大腿骨?	?	骨幹部	
	ニホンジカ	中手/中足骨	?	骨幹部	
	ニホンジカ	脛骨	?	骨幹部	
	小型獣	四肢骨	?	破片	
	小型獣	歯	?	ほぼ完形	
	小型獣	上腕骨?	?	遠位端	
小型獣	橈骨?	?	近位端		
中小獣	腰椎	M	破片		
11	ネズミ科	上腕骨	L	近位端	未化骨
	ネズミ科	大腿骨	L	完形	未化骨
	ネズミ亜科	下顎骨	L	M1,M2	
	ネズミ亜科	上顎骨	L	(M1)	
	ニホンジカ	鹿角	X	幹部	
ニホンジカ	中手/中足骨	?	遠位端	化骨完了	
13	ネズミ科	大腿骨	R	遠位端	化骨完了
	ネズミ亜科	上顎骨	R	M1	
	ハタネズミ亜科	歯	?	破片	
	ニホンジカ	腰椎	M	一部欠損	化骨完了
	ニホンジカ	中節骨	右側	完形	化骨完了
	種不明	四肢骨	?		幼獣、あるいは胎児
	種不明	上腕骨	R	遠位端	幼獣、あるいは胎児
	種不明	上腕骨	R	遠位端	幼獣、あるいは胎児
15	ニホンジカ	鹿角			
	モグラ科	上腕骨	R	ほぼ完形	
16	ハタネズミ亜科	臼歯	?	遊離歯	
	ニホンジカ	尺側手根骨	L	完形	
	ニホンジカ	肋骨	L	近位端	化骨完了
貝層3	イノシシ	下顎切歯	L	半損	
	ニホンジカ	鹿角	X	幹部	
	ニホンジカ	鹿角	X	幹部	
	ニホンジカ	上顎第4前臼歯	R	完形	
	ニホンジカ	中手骨	L	近位端	
	ニホンジカ	頸椎(第4)	M	前位	化骨完了
	ヒト	下顎切歯	L	完形	第2切歯?
	ヒト	基節骨	?	遠位端	X

第28表 寺下圀（里74）地点鳥類出土表

層位	種名	部位	左右	部分	注記
9	ウミウ/カワウ	烏口骨	R	骨幹部	
	ウミウ/カワウ	方形骨	L	完形	
	ヒメウ	胸骨	M	前位	
	ヒメウ	尺骨	L	近位端	
	ヒメウ	尺骨	L	近位端	カットマーク?
	ヒメウ	尺骨	L	遠位端	
	ヒメウ	頸椎	M	完形	
	カモ類(小)?	肩甲骨	L	近位端	
	カモ類(中)	烏口骨	L	骨幹部	
	カモ類(中)	烏口骨	R	背側	
9	カモ類(中)	烏口骨	L	腹側	
	カモ類(中)	烏口骨	R	腹側	
	カモ類(中)	肩甲骨	L	近位端	
	カモ類(中)	尺骨	L	遠位端	
	カモ類(中)	上腕骨	R	近位端	
	カモ類(中)	上腕骨	L	遠位端	
	カモ類(中)	上腕骨	R	遠位端	
	カモ類(中)	脛骨	R	遠位端	
	カモ類(中)	脛骨	R	遠位端	
	カモ類(中)	脛骨	R	遠位端	

層位	種名	部位	左右	部分	注記
9	カモ類(中～小)	肩甲骨	L	近位端	
	カモ類(中～小)	上腕骨	L	遠位端	
	カモ類(中～小)	橈骨	L	近位端	
	種不明	肩甲骨	R	近位端	
	種不明	尺骨	R	近位端	
	種不明	尺側手根骨	L	完形	
	種不明	尺側手根骨	R	完形	
	種不明	趾骨	?	完形	
	種不明	趾骨	?	一部欠損	
11	ウ科	肩甲骨	L	近位端	
	ヒメウ	尺側手根骨	L	完形	
	カモ類	胸骨	M	前位	
	カモ類(中)	肩甲骨	L	近位端	
	カモ類(中)	肩甲骨	R	近位端	
	カモ類(中)	尺骨	L	遠位端	
	カモ類(中)	上腕骨	L	遠位端	
	カモ類(中)?	脛骨	L	骨幹部	
	カモ類(中～小)	上腕骨	R	遠位端	
	カモ類(中～小)	橈骨	R	近位端	
	カモ類(中～小)	橈骨	R	遠位端	
	カモ類(中～小)	橈骨	L	遠位端	
	カモ類(中～小)	橈骨	L	近位端	
	種不明	尺骨	?	骨幹部	
	種不明	第2基節骨	?	完形	
	種不明	橈骨	L	近位端	
	種不明	脛骨	?	遠位端	
13	ウミウ/カワウ	烏口骨	R	腹側	
	ウミウ/カワウ	上腕骨	R	骨幹部	
	ヒメウ	尺骨	R	近位端	
	カモ類	胸骨	M	前位	
	カモ類	胸骨	M	前位	
	カモ類	胸骨	M	前位	
	カモ類(小)	烏口骨	R	背側	
	カモ類(大～中)	脛骨	R	一部欠損	
	カモ類(中)	烏口骨	L	背側	
	カモ類(中)	尺骨	R	遠位端	
	カモ類(中)	上腕骨	L	一部欠損	
	カモ類(中)	脛骨	L	遠位端	
	カモ類(中～小)	橈骨	L	遠位端	
	カモ類(中～小)	橈骨	R	近位端	
	種不明	鎖骨	M	半損	
	種不明	大腿骨	L	近位端	
	種不明	中手骨	L	近位端	
	種不明	中手骨	L	遠位端	
	種不明	脛骨	R	遠位端	
15	ウ科	胸骨	M	前位	
	ヒメウ	足根中足骨	L	遠位端	
	ヒメウ	脛骨	L	遠位端	

層位	種名	部位	左右	部分	注記
15	カモ類(小)?	尺側手根骨	R	ほぼ完形	
	カモ類(小)?	脛骨	R	遠位端	
	カモ類(大)	烏口骨	L	腹側	
	カモ類(大～中)	烏口骨	R	一部欠損	カットマーク
	カモ類(大～中)	尺骨	R	遠位端	
	カモ類(大～中)	尺骨	R	遠位端	
	カモ類(中)	烏口骨	L	一部欠損	カットマーク
	カモ類(中)	烏口骨	R	一部欠損	
	カモ類(中)	烏口骨	R	背側	カットマーク
	カモ類(中)	尺骨	L	遠位端	
	カモ類(中)	尺骨	L	遠位端	
	カモ類(中)	尺骨	R	遠位端	
	カモ類(中)	橈骨	L	遠位端	
	カモ類(中)	脛骨	R	遠位端	
	カモ類(中)	脛骨	R	遠位端	
	カモ類(中～小)	尺側手根骨	L	完形	
	カモ類(中～小)	上腕骨	L	遠位端	
	カモ類(中～小)	中手骨	L		
	カモ類(中～小)	中手骨	R	近位端	
	カモ類(中～小)	橈骨	L	近位端	
	カモ類(中～小)	橈骨	L	近位端	
	カモ類(中～小)	橈骨	R	遠位端	
	カモ類(中～小)	橈骨	R	遠位端	
	カモ類(中～小)	脛骨	R	遠位端	
	種不明	烏口骨	L	ほぼ完形	
	種不明	胸骨	M	前位	
	種不明	胸骨	M	前位	
	種不明	胸骨	M	前位	
	種不明	胸骨	M	前位	
	種不明	尺骨	L	遠位端	
	種不明	足根中足骨	L	ほぼ完形	
	種不明	橈骨	R	近位端	
	16	ヒメウ	頸椎	M	完形
カモ類(小)?		脛骨	R	遠位端	
カモ類(中)		烏口骨	L	腹側	
カモ類(中)		烏口骨	L	背側	
カモ類(中)		烏口骨	R	背側	
カモ類(中～小)		烏口骨	L	背側	
カモ類(中～小)		橈骨	R	遠位端	
カモ類(中～小)?		橈骨	R	遠位端	
貝層3	ヒメウ?	脛骨	L	骨幹部	
	カモ類(大)	烏口骨	L	完形	
	カモ類(中)	上腕骨	R	遠位端	
	種不明	烏口骨	R	遠位端	
	種不明	尺骨	?	骨幹部	
15	種不明	尺側手根骨	R	完形	
	種不明	脛骨	?	遠位端	

イルカ・クジラ類は、現場取上資料から椎骨が3点確認されたほか、クジラ類と見られる大型の骨の破片が確認されている。種の判定には至っていない。

ヒトは、4層・6層から、頭蓋骨、下顎骨、橈骨、大腿骨、脛骨、腓骨、距骨、中足骨が破片化した状態で出土している。解剖学的位置を保って検出されたものはなく、包含層中に散在した状態での出土である。前述のとおり、この層位における出土骨の帰属年代は、古墳時代であるか縄文時代晩期であるか不明であり、今後の理化学的な分析が期待される。一方、貝層Ⅲの水洗選別資料から、ヒトの下顎切歯と基節骨（遠位端）が検出されている。

#### [小結]

本調査区では、アサリを主体とし、補完的にスガイ等を含む縄文晩期（大洞A式）の貝層（貝層Ⅰ）が確認された。潮間帯の砂泥底域を中心とし、補助的に岩礁域をも含んだエリアでの採貝活動の反映と考えられる。里浜貝塚においては、西畑地点の縄文晩期（大洞C2式）の貝類組成に最も近い。貝層中の魚類は、アイナメ属とスズキが主体となり、アナゴ科、ウナギ、フサカサゴ科、フグ科、タイ科などが比較的多く観察された。これらは里浜貝塚において普遍的に観察される魚種であり、貝塚周辺の海域に棲息していたものが捕獲され、本貝層に廃棄されたものと考えられる。一方、海洋の上層を群れをなして季節的に回遊するニシン科等の小型浮遊魚は、層による出現率の変化はあるが、組成に占める割合は小さい。西畑地点貝層の様相と差異の見られる点である。調査・分析時における回収漏れの可能性の問題もあり、一概にその要因は特定できない。今後の検討が必要である。鳥類ではウ類とカモ類、哺乳類ではニホンジカを中心とした廃棄状況が確認された。

貝層Ⅰよりも時間的に遡り、汀線付近に位置していたと想定される貝層Ⅲは、貝層Ⅰと貝類組成が大きく異なっている。土器や骨角器、動物遺存体も出土しているが、潮間帯付近に生息するオオノガイの合弁個体や食糧として利用価値のないヒメシラトリガイも多く検出されていることから、当時の生息環境を示す自然貝を含む二次堆積層の内容物である可能性が高い。

#### ⑤ まとめ

寺下田地点は、里浜貝塚の北端にあり、入江に面する丘陵の縁辺から斜面にかけて貝層の厚い堆積が確認されている。多数の縄文人骨が発掘されるとともに、我が国で最初の層位的発掘が実践されたことでも知られ、里浜貝塚の名が全国的に知られるきっかけとなった地点である。本調査は、丘陵斜面から海岸低地にかけての貝層の広がりや製塩炉など低地部分における遺構の有無を確認することを目的として行った。

調査の結果、調査区の南端約3mの範囲で、最大で40cm程の厚さをもつ縄文時代晩期後葉（大洞A式）の貝層を検出した。南側の斜面上から続く貝塚の末端部分にあたるとみられるが、層の堆積が南側斜面の傾斜とは大きく異なっており、二次堆積の可能性が高いと考えられる。さらに北側の低い部分（標高-1～0m）では、波にさらわれて再堆積した貝混じりの層を確認した。当時の調査区周辺は、丘陵端部が直接海と接する汀線付近にあっていたものと推定され、製塩活動を行うことができるような地形環境にはなかったものと考えられた。

貝層中からは縄文土器をはじめ、石器、骨角器、動物遺存体が出土した。土器は深鉢が圧倒的に多いが、浅鉢や脚付きの大型鉢、壺などの精製土器や精巧なミニチュア土器などもみられた。また、松島湾の縄文晩期の貝塚を特徴づける製塩土器が、集落のゴミ捨て場から大量に出土した。集落と製塩の場との関係を考える上で興味深い出土状況といえる。骨角器としては、里浜貝塚で晩期中葉以降に特徴的にみられる大型の釣針やモリのほか、ハクチョウの上腕骨を加工した装身具や弭なども出土した。動物遺存体については、貝類はアサリを主体とし、スガイ・マガキなどが目立ち、魚類ではスズキ・アイナメ属が多く出土しており、内湾を中心とした漁撈活動が営まれたことがうかがえる。ウヤカモ類などの冬鳥が多く出土することは里浜貝塚の特徴であり、シカ・イシノシシ類とともに狩猟活動も盛んに行われていたものと思われる。縄文時代晩期後葉は、一般的に貝塚が激減、あるいは貝塚の規模が縮小する傾向にあるが、里浜貝塚では豊かな海産資源を背景とした漁撈活動や狩猟、製塩などの活動が盛んに行われており、安定した生活が継続して営まれていたことが明らかとなった。



松島湾内からみた里浜貝塚全景（北西から、○印：調査区）



里浜貝塚北貝塚(寺下圀・里・西畑地点)全景（南東から、○印：調査区）

写真 81 里浜貝塚寺下圀地点遠景



1. 貝層検出状況（北から）



2. 貝層掘り上げ状況



3. 調査区全景（南から、貝層西半部掘り上げ後）



4. 深堀区貝層堆積状況（南から）



5. 調査区西壁断面



6. 調査区南壁断面

写真 82 寺下囲（里 74）地点調査（第 17 次調査）

## (2) 令和2年度調査〈第29次調査〉

### 1) 里72地点

#### ① 調査の概要

里浜貝塚寺下囲地点の買上げ事業による家屋の解体に伴い立会および確認調査を実施した。今回買上げの対象になった敷地の北側と東側の丘陵斜面には、厚い貝層の堆積が確認されている。北側斜面については、大正7、8年には松本彦七郎氏ら東北帝国大学理学部、昭和30、31年には東京大学人類学教室の協力を得て宮戸島遺跡調査会が調査し、多数の人骨が出土している。寺下囲地点は、里浜貝塚の中でも貝層の堆積が厚く、保存状態が極めて良好な地点として知られているが、貝層の平面的な広がりや現存家屋による貝塚への影響についても明らかではなく、家屋の解体とくに浄化槽の撤去にあたっては慎重な対応が求められた。

調査にあたってはハンドオーガーによる敷地内のポーリング調査を実施し、おおよその貝層の広がりを捉え、貝層への影響が想定された浄化槽撤去に係る部分（Ⅰ区、東西3m×南北6.5m）と水道の引込み部分（Ⅱ区、東西2m×南北2m）の立会および確認調査を行った。調査の結果、家屋の建つ敷地の東側から西側に向かって切り盛りされ、家屋のほとんどが0.3～0.5m程盛土された凝灰岩の岩盤の上に建っていることが確認された。貝層は家屋の北西部で確認され、松本氏や宮戸島遺跡調査会が調査した北側斜面貝塚の南東端に位置することがわかった。

貝塚は浄化槽によって3m×1.5m、深さ2～2.5mほど掘削され、攪乱された土の中には縄文土器や石器、骨角器、動物遺存体などが多量に含まれていることがわかった。調査では、遺物の採集と土壌のサンプリングを行うとともに、貝層の分布範囲と層の堆積状況の確認を行った。調査区の南側では貝層の南端部が確認され、丘陵斜面に沿って貝塚の形成が始まる南側から東側にかけての範囲を捉えることができた。また、調査区の南西隅で、頭部に大洞A'式期の鉢を伏せた土坑墓が検出された。

#### ② 層序

今回検出した貝層はアサリを主体とした純貝層を基調とし、比高差約6.6m、20～25度の勾配の斜面に沿って貝層が土層や炭化物層を介在しながら、互層をなして堆積している状況が確認された（第74図、写真87）。貝層の時期は1層が縄文時代晩期前葉～中葉、8～18層が後期末葉で、貝層下の土層（19層）からは後期中葉および後葉の土器が出土している。

以下、各層の概要を記述する。

I～III層：現代の盛土整地。

IV～VIII層：貝塚形成後の旧表土。一部で破砕貝を少量まじえるが、他に遺物等は含まない。

1層：貝層。暗褐色(10YR3/4)砂質シルト。混貝率および貝殻の完形率が高い純貝層で、調査区の北半部に分布する。

3層との間に薄い炭化物層を介在する。層厚は西壁で25cm、東壁で50cm。縄文時代晩期前葉から中葉にかけての縄文土器や製塩土器が出土している。

2層：土層。黒褐色(10YR3/2)砂質シルト。土器片や炭化物を含み、基盤由来の凝灰岩粒を多くまじえる。自然堆積層。

3層：土層。暗褐色(10YR3/4)砂質シルト。破砕貝を少量含む。凝灰岩粒が目立つ。自然堆積層。

4層：混土貝層。暗褐色(10YR3/3)砂質シルト。破砕貝を多く含む。層厚15cm。

5層：土層。にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト。炭化物・焼土粒を少量含む。遺構(ピット)堆積土？

6層：土層。黒褐色(10YR3/3)砂質シルト。ややしまりあり。炭化物少量含む。

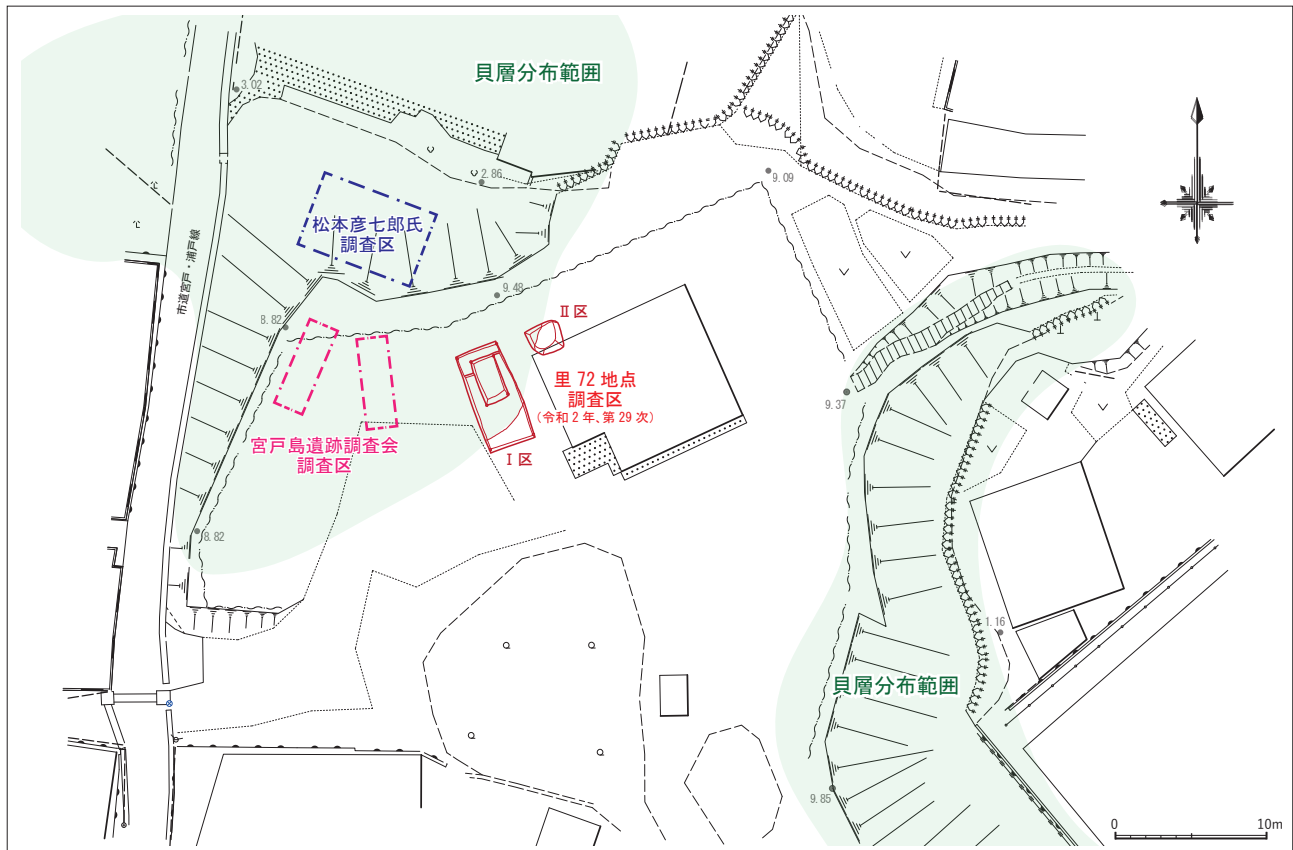
7層：土層。にぶい黄褐色(10YR5/4)砂。凝灰岩粒を多く含む。自然堆積層。

8層：貝層。暗褐色(10YR3/3)砂質シルト。混貝率および貝殻の完形率が高い純貝層で、調査区北辺に向かって厚くなる。層厚18cm。縄文後期末葉の土器が出土している。

9層：混土貝層。褐色(10YR4/4)砂。破砕貝が多い。層厚7cm。

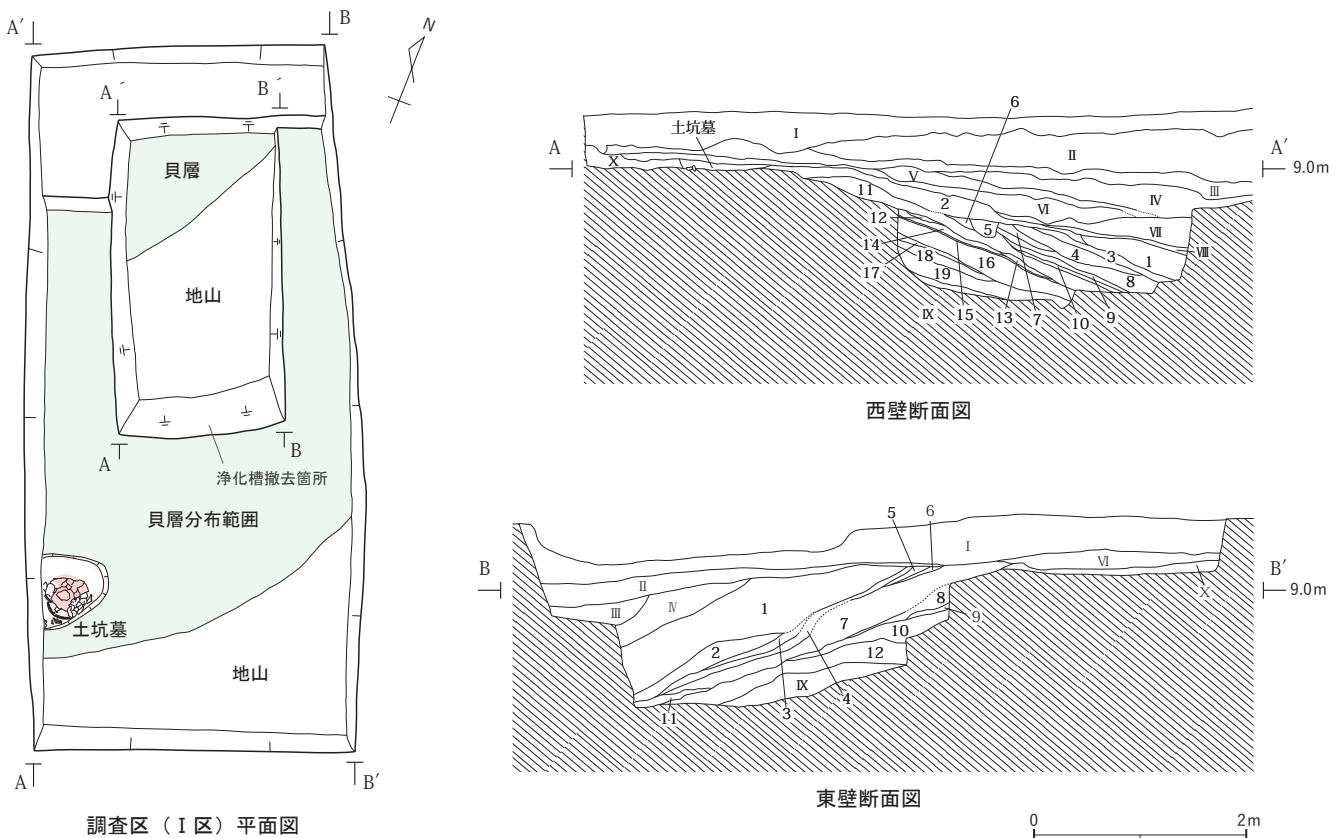
10層：混貝土層。暗褐色(10YR3/4)砂質シルト。9層下面の土層。炭化物粒、破砕貝を若干含む。自然堆積層。

11層：貝層。黒褐色(10YR3/3)砂質シルト。混貝率が高い一方で破砕貝が目立つ。魚骨を多く含む。調査区全体に分布し、層厚約15cm。



「松本彦七郎氏」および「宮戸島遺跡調査会」の調査区はおおよその位置を示している。

第73図 寺下圀地点（里72地点）調査区第29次調査位置図



第74図 寺下圀（里72）地点調査区平面図・断面図

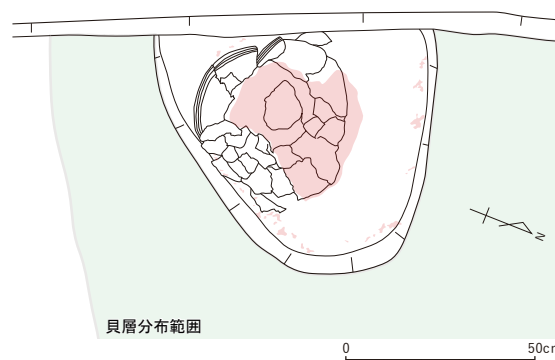
- 12層 : 土層。にぶい黄褐色(10YR5/4)砂。7層と同じ。自然堆積層。  
 13層 : 土層。12層と一連の土層とみられる。  
 14層 : 貝層。黒褐色(10YR3/3)砂質シルト。層厚10～15cmの破碎貝を多く含む純貝層で、13～15層とほぼ同様の分布が認められた。  
 15層 : 土層。黒褐色(10YR3/2)砂質シルト。炭化物を多く含む層厚3～5cm程の自然堆積層。  
 16層 : 貝層。黒褐色(10YR3/3)砂質シルト。混貝率および貝殻の完形率が高い純貝層で、11層と同様に調査区全体に分布する。大型の凝灰岩礫を含み、貝層の上面で土器がまとまって出土している。層厚約30cm。  
 17層 : 土層。黒褐色(10YR3/2)砂質シルト。15層と同じ。炭化物を多く含む層厚3～5cm程の自然堆積層。  
 18層 : 混土貝層。暗褐色(10YR3/4)砂質シルト。アサリ主体で完形率が高い。層厚約10cm。  
 19層 : 土層。暗褐色(10YR3/4)砂質シルト。貝層下の土層。凝灰岩粒や炭化物が目立つ。縄文時代後期中葉および後葉の土器片、魚骨、獣骨を含む。  
 IX・X層 : 地山および地山漸移層。遺物等含まない。

### ③ 遺構

#### 土坑墓

IV層の下で、全体の1/3程度が確認された(第75図)。すでに上部は削平を受け、底部が失われた大型の鉢とともにヒトの頭蓋骨破片、下顎骨、頸椎、中手骨などの骨が検出された。頭部に鉢を被せて埋葬した土坑墓である(写真87-7・8)。土坑墓の大半が西側の調査区外で詳細を明らかにすることはできなかったが、平面形は短径75cm、長径65cm以上の長楕円形で、破碎貝を含む10YR3/2黒褐色シルトで埋められている。

被葬者は頭位を北東方向に向けて埋葬されたものと推定される。下顎骨、頸椎および土器底部から口縁にかけてベンガラとみられる赤色顔料が付着し、埋土にも痕跡的ではあるが広範囲に認められた。人骨は下顎第三大臼歯の萌出が完了していることから成人段階に達している。時期的には大型鉢の年代から縄文時代晩期末葉(大洞A'式期)と考えられる。



第75図 土坑墓平面図

### ④ 出土遺物

#### a. 縄文土器

本地点出土土器は、縄文時代後期中葉から晩期中葉の時期となる。粗製の深鉢が大半を占め、破片資料が多いことから、ここでは時期的な特徴がわかる土器のみ掲載する(写真83、第30表)。層位と出土土器の関係からすると、最下層19層後期中葉・後葉、8～18層後期末葉となる。複数にまたがる層から出土した土器も考慮にいと、1層からは晩期前葉・中葉等の時期の土器のほか、製塩土器と推定される土器も出土している。製塩土器は、平底でアジロ痕があり、被熱で赤化し剥落等している。形態からすると晩期中葉の時期のものと推定される。

#### b. 石器

石器は、縄文時代のものとしては磨製石斧(写真84-1)と磨石(2)、玉髓製の石核が出土している。磨石は砂岩製で縁辺に敲打痕、表裏面には磨痕と敲打痕があり、黒色の付着物が認められる。また、剣形とみられる粘板岩製の石製模造品(3)が出土している。石製模造品は寺下圀(里74)地点、西畑地点をはじめ周辺の調査区からは南小泉式期の土器とともに比較的まとまって出土しており、これらは古墳時代中期のものとみられる。



縮尺は約 1/2

写真 83 寺下圀（里 72）地点出土土器

1-3：1・8・11層、4-8：1層、9：8・9層、10-12：8-14層、13-17：16層、18：18層、19-20：19層

第30表 寺下圀（里72）地点出土土器観察表

No.	層位	時期	型式名	器形	部位	器厚 (mm)	文様
1	1・8・11 層	晩期初頭	大洞B1式	台付 浅鉢	口縁～ 胴部	5.6	口縁部裏面に粘土貼付し端面部に沈線。口唇前面部に渦巻文的な入組三叉文を配する。その下部に縄文RL縦施文し、さらに沈線を1条巡らせ下部は無文。
2		晩期初頭	大洞B1式	深鉢	頸部	5.2	頸部に粘土粒貼付様の突起、その間に沈線。縄文LR横後に横走沈線数条。
3		晩期中葉?	-	深鉢	口縁部	5.5	弧線等で文様を描く。モチーフは雲形文の可能性もある。
4	1・8～14 層	後期末葉～ 末葉	-	注口	胴部 下半	5.3	胴部変換点に円形突起を貼付。後に縦方向の刻み。縄文L縦・横に施文し、羽状縄文とする。
5		晩期初頭	大洞B1式?	台付 浅鉢	胴部 下半	6.4	沈線で文様を描き磨消縄文とする。モチーフは三叉文?。縄文RL縦?。
6		晩期初頭	大洞B1式?	注口	口縁部	5.8	沈線を1条巡らせる。
7	1層	晩期中葉	製塩土器	深鉢	底部	4.2	底面に網代痕（2本潜り2本越え）
8		後期末葉～ 晩期初頭	宮戸Ⅲb式新段階 ～大洞B1式	深鉢	胴部	4.8	縄文LR横後、沈線で入組文を描く。
9		晩期中葉	大洞C1式	皿	口縁部 ～胴部	5.4	端面やや前面に粘土粒貼付により連続した小突起を配し、裏側にも粘土を貼付、端面に平坦部を作り出し、沈線で文様。表面は、口唇部直下に沈線2条横走、下部に雲形文。磨きにより浮文化する。縄文LR横。
10	8・9層	後期末葉	宮戸Ⅲb式 新段階	深鉢	口縁部	6	端面に粘土粒を貼付後に上から刻みを7箇所加える。口唇部直下に沈線1条、下部に右下がりの入組文。縄文LR横、沈線による文様施文後に、無文部を雑な磨きで磨り消す。
11	11層	後期末葉～ 晩期初頭?	-	注口?	口縁部	4.2	補修孔あり
12		後期末葉～ 晩期初頭?	-	注口?	口縁部	4.3	補修孔あり。表裏にカルシウム分付着
13	16層	後期末葉	宮戸Ⅲb式 新段階	深鉢	口縁	5.8	14と類似する突起。口唇部下に沈線1条、その下部に右下がりの入組文。入組部中央に刺突。頸部は帯状に盛り上がり、上面に沈線と貼瘤状の小突起。縄文RL縦。
14		後期末葉	宮戸Ⅲb式 新段階	深鉢	口縁	6.5	端面に粘土を貼付し、高い突起との低い突起を成形。高い突起は端面中央に挟り。低い突起には2つの刻み。高い突起の前面下部に弧線を加え、下部に左下がりの入組文。頸部付近に小さな粘土粒貼付。縄文RL縦。
15		後期末葉	宮戸Ⅲb式 新段階	深鉢	口縁	5.8	端面に粘土貼付により突起を形成。そのうち2つはやや高く、中央に挟り。高い突起下部から平行沈線を6条巡らせ、間に連続的な刻み目。
16		後期末葉	宮戸Ⅲb式 新段階	壺? 浅鉢?	突起	11.6	頂部に縦方向の刻み、前面に三叉文。
17		後期末葉～ 晩期初頭?	-	注口?	無し	4.9	補修孔あり。表裏にカルシウム分付着
18	18層	後期末葉	宮戸Ⅲb式 新段階	深鉢?	口縁部	5.9	口唇部直下に連続する刻み目。2個1対の粘土粒を貼付後、その前面から縦方向の刻み。その下部に平行沈線4条。縄文LR横。
19	19層	後期中葉	宮戸Ⅱb式	深鉢	胴部上 半～頸 部	5.7	縄文RL横後、平行沈線。後に間に1条の沈線を含むように（ ）状の弧線で連結する。下部に刻目帯。
20		後期後葉	西ノ浜式	深鉢	胴部	7	縄文LR横、沈線で文様を描く。部分的に磨き無文部を形成。



No	種別	層位	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	写真
1	磨製石斧	1層	65.0	42.3	25.0	94.1	安山岩	刃部に若干の刃こぼれ、基部敲打痕顕著	84-1
2	磨石	1層	111.2	80.2	47.6	634.4	砂岩	縁辺に敲打痕、平坦面摩滅+敲打痕、黒色付着あり	84-2
3	剣形石製模造品	攪乱	38.5	22.5	3.1	4.3	粘板岩	両端欠損、縁辺部擦痕顕著	84-3

写真 84 寺下圀（里72）地点出土石器・観察表

c. 骨角・貝製品

骨角器は、ヤス、骨篋、ハンマーなどがある（写真 85・86）。ヤス（1）は組合せヤスを再加工したものである。外側の逆刺を削り取り、装着部付近に新たな装着部を作出し、単式ヤスとして再利用したものと思われる。骨篋はシカ中足骨製で、いずれも左右に縦割りにした2分割の素材を用いて加工整形している。4は完形品で、先端部全体に使用による擦り傷と摩滅の痕跡が残る。2は先端が折れた後も使用され、一部に摩滅の痕跡が認められる。ハンマー（5）は鹿角の分岐部から第1枝にかけての角幹をそのまま利用している。分岐側の槌部には敲打の痕跡が認められ、潰れて平



写真 85 寺下圀(里 72) 地点出土骨角貝製品(1)

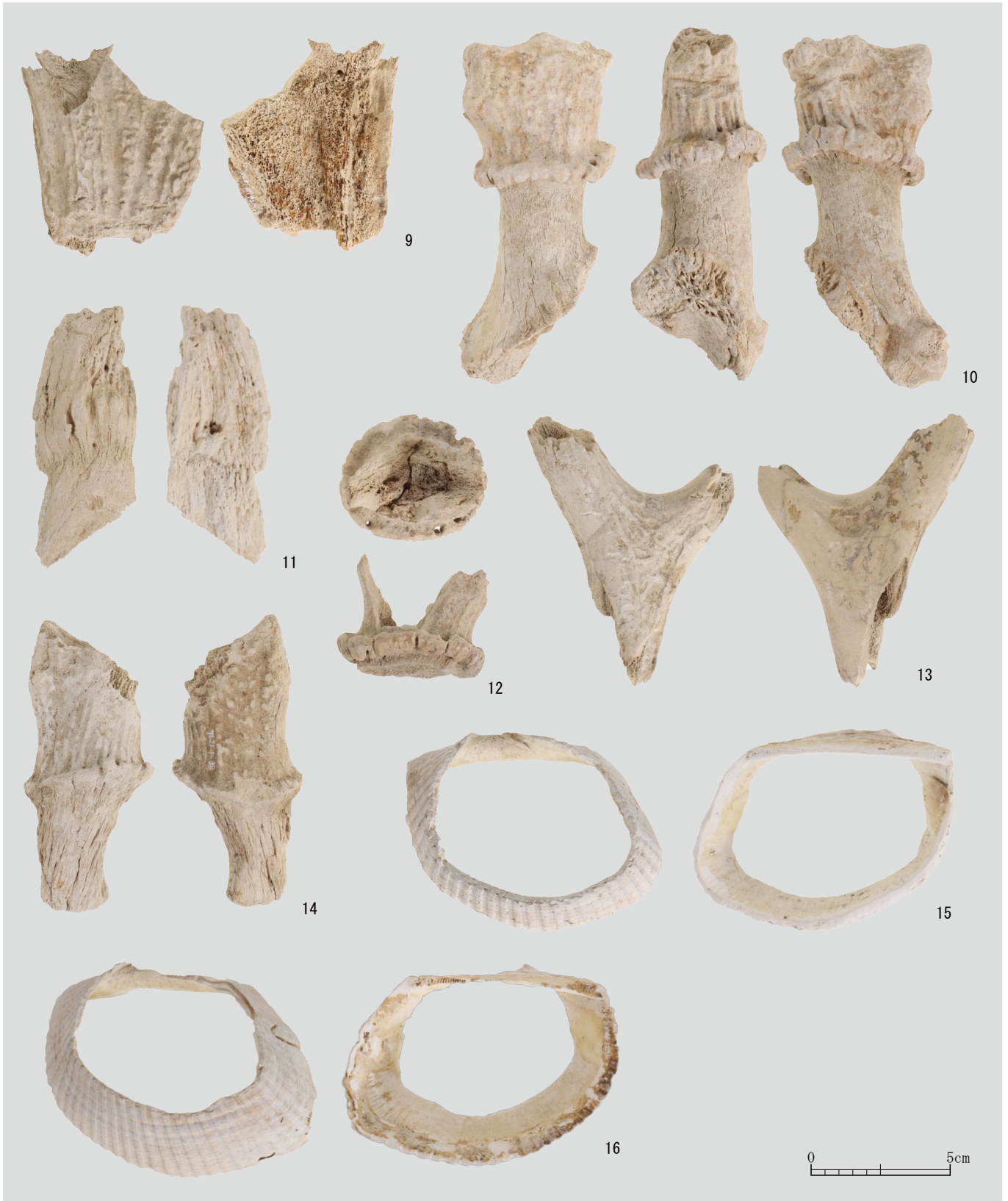


写真 86 寺下圀 (里 72) 地点出土骨角貝製品 (2)

第 31 表 寺下囲 (里 72) 地点出土骨角・貝製品観察表

No	種 別	層 位	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	素 材	備 考	写 真
1	ヤス	4層	108.0	12.0	7.3	鹿角	組合せヤスの再加工品(左右の逆刺除去・基部作出)、基部長30.2mm、幅7.4mm	85-1
2	骨筥	1-3層	125.8	26.7	9.1	シカ中足骨(L)	先端部欠損、縦割り2分割(内面)、残存部摩滅顕著	85-2
3	骨筥	8-14層	86.4	25.7	8.6	シカ中足骨(L)	先端部欠損、縦割り2分割(内面)	85-3
4	骨筥	4層	203.4	24.9	8.4	シカ中足骨(R)	完形、縦割り2分割(外面)、先端部摩滅顕著	85-4
5	ハンマー	8-14層	266.0	25.2	25.0	鹿角(L)	分岐部～第1枝、分岐部側を槌として利用、敲打痕顕著	85-5
6	鹿角片	1-3層	123.5	22.1	15.8	鹿角	角幹縦割り	85-6
7	鹿角片	攪乱	125.5	37.6	12.5	鹿角	角幹切断後に半截	85-7
8	鹿角片	1層	139.3	13.7	8.5	鹿角	角幹縦割り	85-8
9	鹿角片	攪乱	59.1	72.2	17.5	鹿角	分岐部切断後に板状に半截	86-9
10	鹿角片	1-3層	126.0	49.3	28.3	鹿角(R)	角座付近に斧状の切断痕、角座径51.5×46mm	86-10
11	鹿角片	攪乱	93.6	37.5	15.6	鹿角	角座付近、角髄空洞(袋角?)	86-11
12	鹿角片	攪乱	40.1	51.0	44.9	鹿角	角座(落角)	86-12
13	鹿角片	攪乱	101.2	79.7	21.5	鹿角	分岐部	86-13
14	鹿角片	1-3層	104.5	47.2	26.5	鹿角	角座付近に斧状の切断痕、角座径47.2×39mm	86-14
15	貝輪	16層	92.0	72.0	—	アカガイ(L)	未製品、外縁研磨途中、内径66×51mm	86-15
16	貝輪	8-14層	97.3	77.3	—	アカガイ(L)	未製品、内縁整形途中(外縁未成形)、内径64.5×48mm	86-16

坦な面を形成している。また、鹿角片が多く出土している。落角や角座の残る鹿角(10・11・13)、角幹や分岐部を切断、縦割りされた素材(6～9)などがある。

貝製品には、アカガイ製貝輪(15・16)がある。15は内径および外径を敲打による成形が完了し、外縁の研磨が途中段階のものである。16は内径の拡大がほぼ完了し整形途中のもので、外径の敲打成形がなされる前段階の未製品である。

#### d. 動物遺存体

動物遺存体は貝層の調査時に目視で採集したものと、任意に採取した貝層サンプルを5mm、3mm、1mmメッシュの篩を用いて水洗選別し、抽出したものに分けられる。先述の通り、住宅の解体に伴う調査であったために調査面積が狭く、攪乱を受けた資料も少なくない。そこで、出土層位の明確な貝層サンプルを対象として分析をおこなうこととした。貝層の形成年代は出土土器の型式から縄文時代後期末葉(宮戸IIIb式新段階)から晩期前葉(大洞B1式)、中葉(大洞C1)頃と推定されるが、貝層中から出土した土器が少なく、層位ごとに明確な時期区分はしていない。ただし、下層から上層へと至るまでの変化を検討できるよう各層から任意に計8サンプルを選択した。そのうち5mm資料と3mm資料は全量を、1mm資料については全量の半分を分析した。なお、調査時に目視で取り上げた動物遺存体にはニホンジカ、イノシシなどの哺乳類や、マグロ属、マダイ、ブリ属、フグ科などの比較的大型の魚類が含まれていた。これらの資料は出土層位が不明瞭で年代的な信頼性を欠くことから分析対象からは除外したが、本来貝層に伴うものであった可能性がある。したがって、大型動物については過小評価されている可能性があることをあらかじめ述べておきたい。

種同定は奥松島縄文村歴史資料館及び筆者所有の現生標本との比較によりおこない、原則として以下の基準を満たすものを同定対象とした。貝類のうち、腹足綱は殻頂部もしくは殻口部が残存するもの、二枚貝綱は殻頂部が残存するものとした。アワビ類、マテガイ科、ナミマガシワ科については上記の基準を満たさない破片が大半であったため、集計表に出土の有無を記録するにとどめた。魚類、鳥類、哺乳類などの脊椎動物は関節部や骨端部が残存するもの、椎骨は椎体が2分の1以上残存するものとした。なお、鳥類の椎骨と指骨については点数のみ算定して同定はおこなわなかった。また、ウニ類やカニ類については整理作業の時間的な制約から算定はおこなわず、種名表にのみ記載した。

同定した動物遺存体は118分類群、同定破片数(NISP)で総計16,761点にのぼる(第32～36表)。内訳は、多板綱が1分類群1点、腹足綱が30分類群728点、二枚貝綱が28分類群10,750点、軟骨魚綱が7分類群70点、硬骨魚綱が36分類群5,122点、爬虫綱が2分類群5点、鳥綱が7分類群55点、哺乳綱が3分類群30点である(第32～36表)。

[貝類]

貝類は5mm資料から9,935点、3mm資料から987点、1mm資料から551点、計11,473点を同定した。大半が5mm資料であるが、篩の目を通過した微細な資料が3mmと1mm資料中で回収されている。腹足綱のうち、陸産貝類を除いた最小個体数(MNI)で最も多かったのはイボニシで63点、次いでウミニナ51点、スガイ47点、レイシガイ23点などが出土している。

二枚貝綱のうち、最も多かったのはアサリで8,212点(左3,889/右4,323)、次いでオオノガイ639点(左322/右317)、カリガネエガイ442点(左214/右228)、ムラサキインコ426点(左227/右199)、イガイ331点(左184/右147)、マガキ239点(左129/右110)などが出土している。

層位ごとに最小個体数と比較すると、いずれの層でもアサリが過半数を占めており、時期を問わず主体的に利用されていたと考えられる。16層と3層ではムラサキインコとイガイの比率がやや高くなっており、さらに16層ではムラサキインコの足糸間に付着するチリハギガイがまとまって出土している(第76図)。

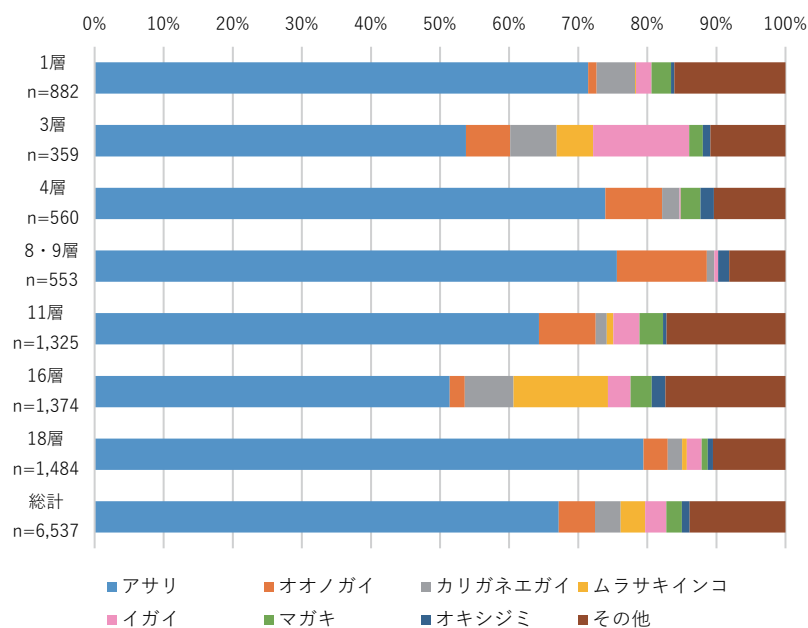
東北歴史資料館(1987)に従って生息環境ごとに分類すると、アサリやオオノガイなどの内湾砂泥底に生息する貝類の占める割合が高い。16層と3層では外洋岩礁域に生息するムラサキインコとイガイが比較的多く出土しているため、岩礁性貝類の占める割合が若干高くなるものの、その他の層では内湾砂泥底性の貝類が8~9割を占める結果となった。

最も多く出土したアサリに関しては、殻高を計測してヒストグラムを作成し、時期ごとのサイズ分布を検討した。各層から任意に選択した貝層サンプル1袋分のアサリの中から計測可能な左殻すべてを抽出し、0.5ミリ単位で計測、集計した。その結果、殻高の分布範囲がおおむね15mm~45mmに収まる点で共通するが、最上層にあたる1層で平均値がやや小さくなる傾向がみられた。1層における出現サイズのピークが24~27mm前後であるのに対し、他の層では28~33mm前後にみられることが多かった(第77図)。ただし、1層でも殻高30mm以上のアサリが少なからず出土していることから、全体的に顕著な小形化が進行したわけではないようである。今回は成長線分析をおこなっていないため採集季節については検討していないが、こうした差異がみられた要因として採集季節による違いが反映されている可能性も考えられる。

[魚類]

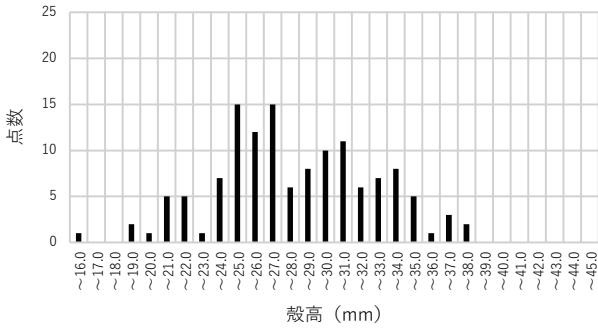
魚類は5mm資料から909点、3mm資料から2,978点、1mm資料から1,305点、計5,192点を同定した。同定破片数(NISP)で最も多く出土したのはスズキ属で1,222点、次いでアイナメ属899点、カタクチイワシ451点、ニシン科412点、サヨリ科331点、フグ科314点、アナゴ科301点、ウナギ属250点などが多くみられた。メッシュ別に見ると、5mm資料ではフグ科、アイナメ属、スズキ属、カサゴ亜目が、3mm資料ではスズキ属、アイナメ属、アナゴ科、サヨリ科が、1mm資料ではカタクチイワシとニシン科がそれぞれ多く含まれていた。ニシン科は第一椎骨などからマイワシ24点とニシン3点が同定されており、ニシン科としたものの大部分はマイワシである可能性が高いと考えられる。カサゴ亜目としたものには形態的特徴からクロソイ、メバル、タケノコメバルなど複数種が含まれていると推測される(第33~35表)。

層位ごとに最小個体数を算定して比較すると、スズキ属54個体を筆頭にアイナメ属30個体、ニシン科(マイワシ?)24個体、フグ科20個体、アナゴ科17個体、カサゴ亜目16個体、カタクチイワシ14個体、ウナギ属14個体などが

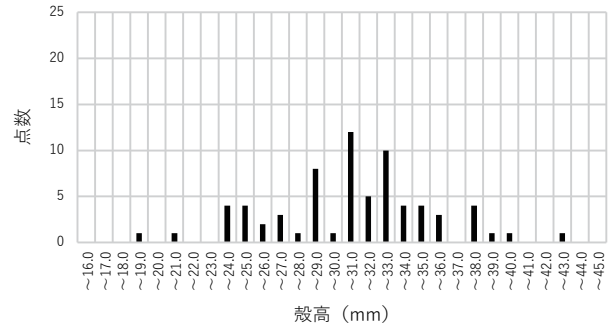


第76図 寺下圀(里72)地点の貝類組成

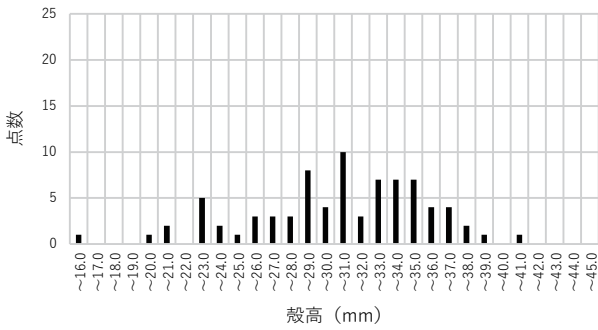
1層 n=131



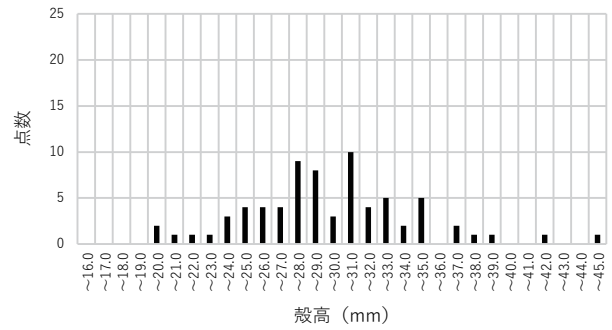
3層 n=70



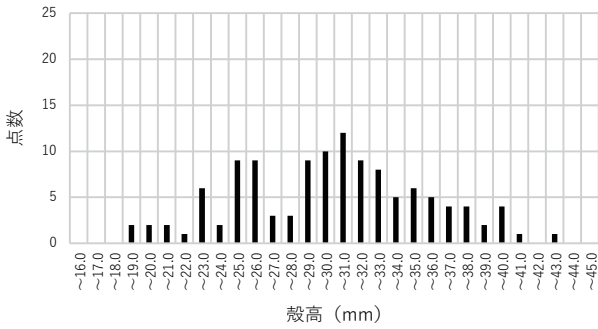
4層 n=79



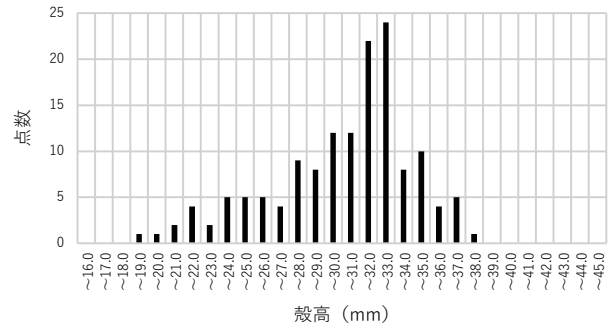
8・9層 n=72



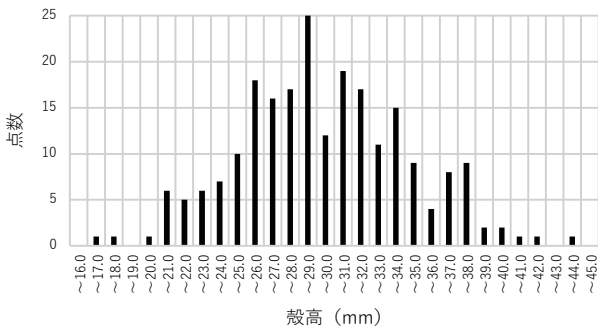
11層 n=119



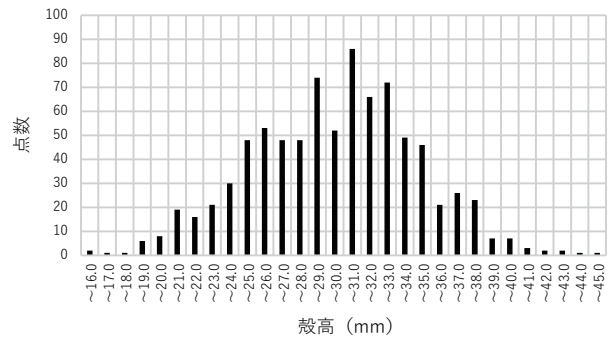
16層 n=144



18層 n=224



総計 n=839



第 77 図 寺下圏 (里 72) 地点のアサリ殻高分布

多い結果となった。組成は層によって多少のばらつきが見られるものの、内湾に生息する魚類が主体となる。外湾に生息するマダイ亜科や回遊性魚類のマグロ属なども出土しているが、数は少ない（第78図）。

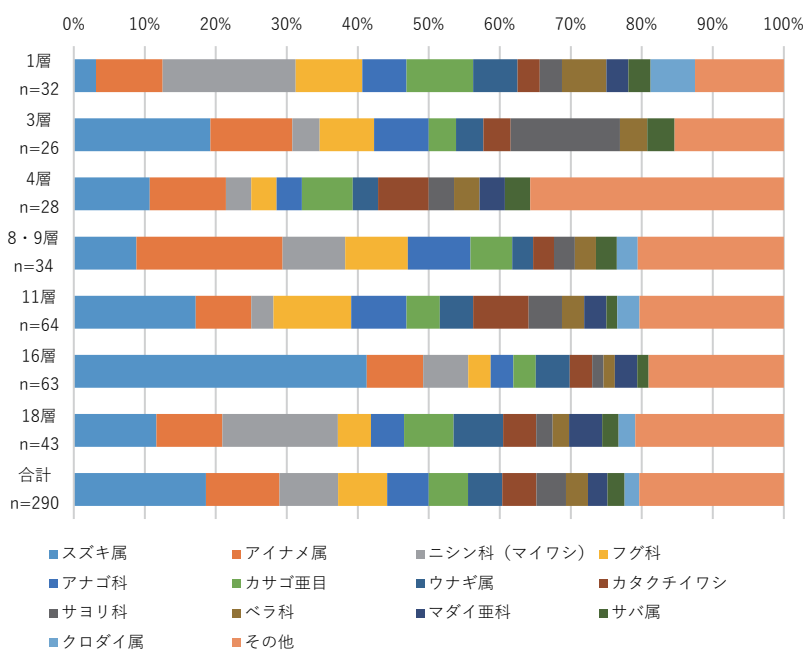
特筆すべきものとして16層からウシワラの椎骨1点が同定された。数は少ないものの、これまでに里浜貝塚で出土例がないだけでなく、東北地方全域を含めても時期の明確な資料としては初めて確認されたものである。ウシワラは本来暖流系の魚種であり、現在の分布としては太平洋側では千葉県以南、日本海側では秋田県以南とされている。したがって、里浜貝塚からウシワラが出土したことは当時の漁撈活動や海洋環境を考える上で興味深い事例と言える。

最も多く出土したスズキ属とアイナメ属については、赤澤（1969）および奥松島縄文村歴史資料館所蔵の現生標本に基づいて歯骨の計測値から体長推定式を作成し、体長復元をおこなった。スズキ属では歯骨60点を計測した結果、復元された体長は約10～65cmであった。大半が体長10～20cmのセイゴサイズの個体で占められており、体長60cmを超えるような大形の個体は少なかった（第79図）。また、サイズによる特定の層への偏りは見られなかった。

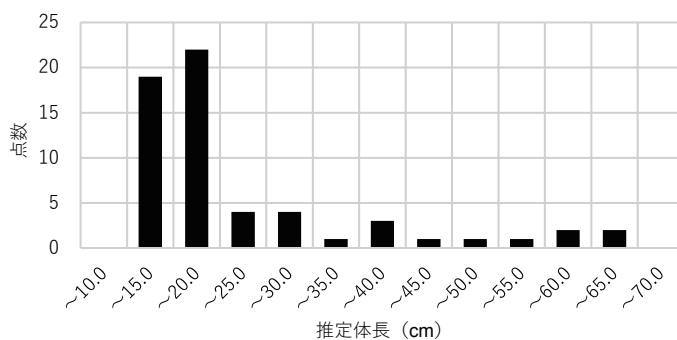
アイナメ属については計測できた歯骨が17点と少なかったものの、体長復元結果では体長18～22cmの個体が多く、体長18cm未満および体長30cm以上の個体は含まれていなかった（第80図）。ただし、歯骨とは別の部位の中に、現生標本との比較で体長30cm以上と推定される比較的大きいものが少数見られた。

〔爬虫類〕

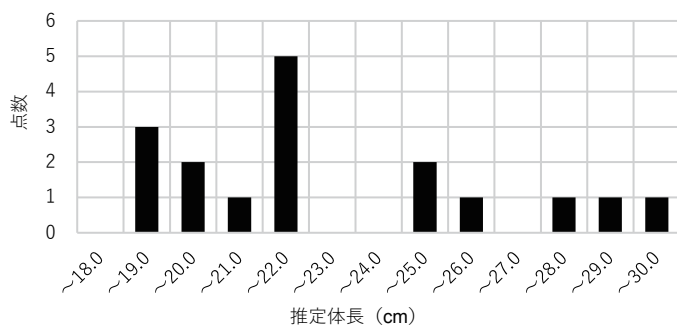
爬虫類は5mm中資料にウミガメ科の甲骨板が4点、1mm資料中にヘビ亜目の椎骨が1点含まれていた。ウミガメ科の甲骨板は割れて細かい破片になったものが多かったため、同一部位に由来すると思われるものはまとめて算定した。また、攪乱資料中には四肢骨と思われる長管骨が含まれていた（第36表）。



第78図 寺下圏（里72）地点の魚類組成



第79図 寺下圏（里72）地点のスズキ属体長分布



第80図 寺下圏（里72）地点のアイナメ属体長分布

## [鳥類]

鳥類は5mm資料から48点、3mm資料から7点、計55点を同定した。同定破片数で最も多く出土したのはカモ科で26点、次いでウミスズメ科が4点、ウ科が3点、ミズナギドリ科が2点、カイツブリ科、カモメ科、スズメ目各1点ずつとなる(第36表)。なお、層位不明の出土資料中にハクチョウ属とみられる大型鳥類の骨が見られた。

主体となるカモ科は比較標本の不備から一括して同定したが、サイズ差から複数種が含まれていると考えられる。過去の分析資料や他地点との比較のため、東北大学考古学研究室(1995)で示された分類法に従って骨格のサイズからA～Eタイプに分類した。

カモAタイプ：マガモ、カルガモ相当(全長58cm程度、上腕骨長90～100mm程度)

カモBタイプ：クロガモ、オナガガモ、ヨシガモ相当(全長47cm程度、上腕骨長70～80mm程度)

カモCタイプ：スズガモ、オシドリ相当(全長45cm程度、上腕骨長60～70mm程度)

カモDタイプ：トモエガモ、ミコアイサ相当(全長41cm程度、上腕骨長50～60mm程度)

カモEタイプ：コガモ相当(全長38cm程度、上腕骨長40～50mm程度)

その結果、カモAタイプ(マガモ・カルガモ相当)が4点、カモC～Dタイプ(スズガモ・オシドリ～トモエガモ・ミコアイサ相当)が22点であった。また、ウミスズメ科はウミスズメサイズで、ウミガラスサイズは含まれていなかった。

出土した鳥類の生態をみると、内湾や河口付近に生息する種が大半であり、山林や平地などに生息するキジ科は今回の分析資料中には含まれていなかった。

## [哺乳類]

哺乳類は5mm資料から18点、3mm資料から9点、1mm資料から3点、計30点を同定した(第36表)。最も多く出土したのはニホンジカである。半数以上が角の破片で、擦痕や加工痕が残されているものもある。このほかにネズミ科とトガリネズミ科を同定したが点数は少ない。なお、分析対象外とした攪乱資料中にはニホンジカ、イノシシ、ウサギ、イルカ・クジラ類が含まれていた。

## [小結]

寺下囲地点(里72)の発掘調査では、調査面積自体は狭かったものの、縄文時代後期末から晩期初頭にかけての貝層が検出され、層位的に連続した動物遺存体の分析データが得られた。

貝類ではアサリを主体として内湾砂泥底性のものが大半を占めており、内湾の砂泥域を中心に採貝活動を行っていたと考えられる。魚類についてもセイゴサイズの小形のズキ属やアイナメ属など内湾に生息するものが多くみられた。外湾に生息するマダイ亜科なども出土しているが少なく、あまり活発ではなかったと推測される。鳥類と哺乳類は量的には少なかったが、鳥類は河口から沿岸に生息するものが主に利用されており、哺乳類は骨角器素材と考えられるニホンジカの角の破片が多くみられた。

## ⑤まとめ

本調査は家屋の解体と浄化槽の撤去に伴うものである。大正7、8年の松本彦七郎氏ら東北帝国大学理学部による調査区、昭和30、31年の宮戸島遺跡調査会による調査区に隣接する場所で、攪乱の状況および貝層の分布、堆積状況を把握することを目的として実施した。

調査の結果、寺下囲地点北側斜面貝塚の南東端に位置し、浄化槽を撤去した部分では貝層が斜面に沿って約1mの厚さで堆積していることが明らかになった。堆積層はアサリの純貝層を主として、基盤の凝灰岩粒を多く含んだ混貝土層や土層、炭化物層からなる。堆積および保存状況が良好で、貝塚形成時の状況を良くとどめているものとみられる。貝層の年代は縄文時代後期末葉から晩期前葉ないし中葉頃と推定され、北側斜面貝層の上限年代と考えられる。貝層下の土層からは後期中葉および後葉の土器が出土しており、北貝塚の集落としては少なくとも後期中葉まで遡るものとみられる。貝層中からは縄文土器、製塩土器、石器、骨角・貝製品、動物遺存体出土した。定型的な石器・骨角器は少なく、

第32表 寺下圀(里72)地点動物遺存体集計表(貝類)

分類群	1層	3層	4層	8・9層	11層	16層	18層	総計
<b>5mm</b>								
カサガイ目	1				1	2		4
イシダタミ					1			1
スガイ	40				2	3		45
スガイの蓋	18				2	1		21
クボガイ	1		5	2		3		11
コンダカガンガラ					2	2		5
ミミガイ科								1
アワビ類	+	+		+	+	2	1	3
ウミニナ	6	2	2	5	6	11	10	42
タマキビ	1				1		2	4
タマガイ科						1		1
フクロガイ科					2	2		4
ムシロガイ科	1		1		2	4	1	9
レイシガイ	5	4			10	2	2	23
イボニシ	11	7			30	13	2	63
アカニシ	1					3	2	6
ヒメエソボラ					2	3		5
キセルガイ科	1	1		2	4			8
オカチョウウジガイ属					3			3
ハツラマイマイ					1			1
オナジマイマイ科						1		1
不明巻貝	1							1
腹足綱合計	87	16	8	9	69	53	20	262
<b>二枚貝綱</b>								
カリガネガイ	45/47	20/23	7/13	6/6	12/19	92/83	23/27	423
アカガイ		0/1					1/0	2
サルボウガイ				0/1	1/1		1/0	4
イガイ	15/9	36/23		2/2	46/32	25/32	28/16	266
ムラサキインコ		3/2			3/6	50/49	3/1	117
ヒバリガイ					1/1			2
マガキ	16/10	4/6	6/14		34/31	34/21	12/12	200
ホタテガイ				1/0				1
ナミマガシワ	+				+			-
オビクイ							0/1	1
ウネナントマヤガイ					1/1	0/1		3
ヤマトシジミ							1/0	1
オニアサリ	0/1		0/1			1/0	5/1	9
アサリ	485/589	171/187	371/337	387/376	787/788	663/657	805/1143	7,746
ハマグリ					0/1	0/1	5/0	7
オキシジミ	3/4	3/4	8/11	9/8	5/7	23/27	9/11	132
チヂミイワホリガイ		0/1						1
ニッコウガイ科						0/1		1
ヒメシラトリ	1/2			0/1	0/1		0/1	6
シオサザナミ科							2/0	2
マテガイ科	+	+	+		+	+	+	-
シオフキ	6/5	5/4	5/5	2/1	5/4	16/21	12/15	106
クチバガイ	5/5							10
オオノガイ	7/11	22/18	44/45	59/70	108/93	29/25	52/49	632
不明二枚貝		1/0						1
二枚貝綱合計	1,266	534	867	931	1,988	1,852	2,235	9,673
5mm合計	1,353	550	875	940	2,057	1,905	2,255	9,935

分類群	1層	3層	4層	8・9層	11層	16層	18層	総計
<b>3mm</b>								
カサガイ目		2				5	2	9
ヤマザンショウ					1			1
スガイ	2							2
スガイの蓋	15						2	17
ミミガイ科					1			1
アワビ類	+				+			-
ウミニナ							9	9
タマキビ	2					2		4
リソソボ科				1				1
フクロガイ科					2	1		3
コウダカマツムシ					1			1
ムシロガイ科					1	1	1	3
キセルガイ科	8			9	7	9		42
オカチョウウジガイ属	1	1			6	3		11
ハツラマイマイ				3	5	1	3	12
キセルガイモドキ科					1			1
不明巻貝		2		16	22	11		51
腹足綱合計	28	5		29	47	33	26	168
<b>二枚貝綱</b>								
カリガネガイ	1/2	1/0	0/1		1/1	2/0	1/4	14
イガイ	5/1	12/13	0/1	0/1	0/2	11/10	3/1	60
ムラサキインコ		11/12			6/1	101/84	5/2	222
マガキ	6/9	1/1	2/0		4/2	8/3	1/1	38
チリハギガイ科						2/2		4
キヌマトイガイ		1/0			1/0			2
ウネナントマヤガイ					1/1	1/1		4
アサリ	31/41	5/6	42/30	31/31	56/59	28/42	25/36	463
マテガイ科			+		+	+		-
シオフキ				0/2		1/0	1/0	4
オオノガイ		0/1	0/1	0/2	0/1	1/1		7
不明二枚貝		0/1						1
二枚貝綱合計	96	65	77	67	136	298	80	819
3mm合計	124	70	77	96	183	331	106	987

分類群	1層	3層	4層	8・9層	11層	16層	18層	総計
<b>1mm</b>								
多板綱								
新ヒザラガイ亜綱							1	1
多板綱合計							1	1
<b>腹足綱</b>								
カサガイ目			1		1	5	1	8
リソソボ上科					2			2
カワザンショウウガイ科			1		3			4
クビキレガイ科?					1			1
タマガイ科?	1				1			2
イトカケガイ科?	1							1
トウガタガイ科	1							1
キセルガイ科					1	2		3
オカチョウウジガイ属	13		14		17	14	24	82
ハツラマイマイ	1		2		4	5	9	21
不明巻貝	15		26		65	28	33	167
腹足綱合計	32		44		95	54	67	292
<b>二枚貝綱</b>								
カリガネガイ						3/2		5
イガイ		1/1				0/2	0/1	5
ムラサキインコ	1/0	4/4			1/0	37/37	2/1	87
マガキ					1/0			1
ケガキ						1/0		1
オビクイ					0/1			1
チリハギガイ科		1/0				66/68	1/3	139
キヌマトイガイ					3/2		3/4	12
アサリ			1/1			1/0		3
クチベニガイ科						0/1		1
不明二枚貝	0/1	0/1			1/0			3
二枚貝綱合計	2	12	2		9	218	15	258
1mm合計	34	12	46	0	104	272	83	551
総計	1,511	632	998	1,036	2,344	2,508	2,444	11,473

※左右があるものは“左/右”、同定基準は満たさないが破片が出ているものは“+”で示した。

骨角器ではヤスと骨篋のみであるが、素材取りされた鹿角片が目立つ。貝層サンプルの中からは魚貝類を中心に鳥・哺乳類などの動物遺存体が検出され、当該期における生業活動の一端が明らかになった。また、調査区南西部の斜面上では、頭部にの鉢を伏せて埋葬したとみられる晩期末葉（大洞A' 式期）の土壌墓が検出された。

第 33 表 寺下田 (里 72) 地点動物遺存体集計表 (魚類①)

分類群	部位	1層	3層	4層	8・9層	11層	16層	18層	総計	
5mm	板鰓垂綱	椎骨	1		1	6	1		9	
	ネズミザメ目	椎骨	1			2	1		4	
	遊離歯					1			1	
ネズミザメ科	遊離歯			1					1	
メジロザメ目	遊離歯						7		7	
トビエイ科	歯板		2				1		3	
ウナギ属	歯骨	1/0			1/2	0/2	0/1		7	
	舌顎骨				0/1	1/0			2	
	腹椎		1						1	
	尾椎			1			2		4	
アナゴ科	主上顎骨	1/0			0/1	0/1			3	
	前上顎骨+篩骨+胸骨板	1		1	4				6	
	歯骨	0/1		0/1	0/1		1/0		4	
	角骨	1/0					1/0		2	
	方骨	1/0		0/1					2	
	主鰓蓋骨	0/1							1	
	腹椎	6	2		3				11	
ニシン科	尾椎						1		1	
コイ科	尾椎		1						1	
ウグイ属	咽頭骨				1/0				1	
	遊離歯				1				1	
ボラ科	主鰓蓋骨				0/1				1	
	尾椎				2				2	
サヨリ科	腹椎		2		6				8	
ダツ科	腹椎			1					1	
カサゴ亜目	主上顎骨	0/1	1/0		2/0		2/1		7	
	前上顎骨	1/0			0/1	1/0			3	
	歯骨			1/0		1/2		0/2	6	
	涙骨		1/0						1	
	角骨			0/1	0/2	1/1	1/0	2/1	9	
	方骨	0/1			1/0			0/2	4	
	舌顎骨	0/2							2	
	主鰓蓋骨	1/1		0/1	0/1	0/1		1/0	6	
	前鰓蓋骨				0/1	1/0			2	
	角舌骨			0/1	0/1	0/1			3	
	上舌骨			0/2	0/1	0/1	1/0		5	
	肩甲骨						0/1		1	
	後側頭骨	1/0		1/0	2/0				4	
	上擬鎖骨						1/0		1	
	基後頭骨						1		1	
	第一椎骨					1			1	
	腹椎			1	7	1	1		10	
	尾椎	3		5	2	5	1	4	20	
	コチ科	角骨			0/1	0/1				2
	スズキ属	主上顎骨	0/1	1/1		1/0	2/1	0/1	2/5	15
前上顎骨			0/1	1/1	1/1	1/1	1/1		9	
歯骨		1/3	1/0	1/1	3/3	2/10	1/1		27	
角骨			0/1	0/1	3/3	0/3			11	
方骨		1/2			1/0	2/0	2/3	0/1	12	
口蓋骨						1/1			2	
舌顎骨						1/1	0/2		4	
主鰓蓋骨		1/0	0/1	0/1		2/0		0/1	6	
前鰓蓋骨		0/1	1/0	0/1	1/0	2/1	1/1		9	
角舌骨			0/1	0/1	0/2	0/1			5	
上舌骨					0/1				1	
肩甲骨						1/0			1	
後側頭骨					1/0	1/0	1/1		4	
上擬鎖骨			0/2	1/0					3	
擬鎖骨				1/0		0/1	1/0		3	
耳石							1/0		1	
基後頭骨							1		1	
副蝶形骨			2				1		3	
第一椎骨							1		1	
尾椎			5	1	1	8	10	2	27	
尾部棒状骨				1					1	
腹椎					6	8	4		18	
ブリ属		肩甲骨	1/0				1/0			2
	第一椎骨					1			2	
	腹椎			1					2	
	尾椎				2				7	
	尾部棒状骨						1		1	
タイ科	角骨				1/0				1	
	方骨	1/0							1	
	舌顎骨				0/1				1	
	角舌骨					1/0			1	
	上舌骨				2/0				2	
	肩甲骨				2/2				4	
	上擬鎖骨	0/1							1	
	基後頭骨		1						1	
	副蝶形骨	1	1			1			3	
	尾舌骨	1							1	
	第一椎骨	1							1	
	腹椎				1	2			3	
	尾椎	1							1	
	尾部棒状骨				1				1	
	遊離歯	1			2	1			4	

分類群	部位	1層	3層	4層	8・9層	11層	16層	18層	総計		
5mm	クロダイ属	主上顎骨				1/0	0/1			2	
		前上顎骨	2/2				0/2		0/1	7	
		歯骨	1/0				2/0			3	
		角骨					0/1			1	
		方骨				1/0				1	
		口蓋骨					0/1			1	
		舌顎骨	1/0							1	
		主鰓蓋骨	0/1							1	
		マダイ亜科	主上顎骨					0/1			1
			角骨	1/1				0/1			3
方骨	0/1					1/0			2		
口蓋骨							1/0		1		
舌顎骨				0/1					1		
主鰓蓋骨						1/0		0/1	2		
前鰓蓋骨	1/0					0/2			3		
後側頭骨	0/1								1		
上擬鎖骨				1/0					1		
マダイ	主上顎骨								1/0	1	
	前上顎骨						1/1		2		
	歯骨							1/0	1		
ウミナゴ科	角骨					1/0	1/0		2		
ベラ科	歯骨					0/1			1		
	下咽頭骨		1						1		
	腹椎	2					2		4		
	尾椎	1	1			3	1		6		
アイナメ属	主上顎骨	0/1	1/0	1/0	0/1	1/2			7		
	前上顎骨	1/0	3/0	2/0	1/1	3/0	0/1	3/0	15		
	歯骨					2/0	1/2	1/1	7		
	角骨	1/0	1/1	2/2	1/0	1/2	1/1		13		
	方骨			2/1		2/0	2/0	0/1	8		
	口蓋骨				1/1	1/1	1/0		5		
	舌顎骨	0/1	0/1			1/0	1/0		7		
	主鰓蓋骨	1/0	1/0	1/0		0/1		1/0	5		
	間鰓蓋骨				0/1				1		
	角舌骨		1/0			0/1	0/1	1/0	4		
	後側頭骨	0/1						1/0	2		
	上擬鎖骨					0/1		0/1	2		
	鰓骨					2		2	4		
	基後頭骨	1			1		1		3		
	副蝶形骨					1			1		
	第一椎骨						1		1		
腹椎	11	3	2	4	14	3	6	43			
尾椎	13	2	4	15	19	7	14	74			
サハ属	腹椎						1		1		
	尾椎	6							6		
マグロ属	尾椎						1	1	2		
ウシサワラ	尾椎						1		1		
ヒラメ科	前上顎骨					1/0			1		
カレイ科	第一椎骨					1			1		
	腹椎						1		1		
	尾椎	1			1	7	4		13		
カレイ科?	耳石						0/1		1		
カワハギ科	尾椎		1			1			2		
フグ科	主上顎骨	0/2	0/1			1/1			5		
	前上顎骨	2/2				1/1	1/2		9		
	歯骨	2/3			0/1	1/1	2/1		11		
	角骨	2/2				1/0	1/1		7		
	方骨	3/0	1/0	0/1		1/1			7		
	口蓋骨		1/0			1/1			3		
	舌顎骨	1/0			0/1	1/1			4		
	主鰓蓋骨	1/2		1/0		1/1			6		
	前鰓蓋骨	0/1	1/0						2		
	角舌骨	2/1	0/1	1/0		1/1			7		
	鰓骨				1				1		
	基後頭骨	3							3		
	第一椎骨	2							2		
	腹椎	1	11	3	10	36	7	16	84		
	尾椎	4	5	3	9	35	8	10	74		
尾部棒状骨	1	1	1	1	7			11			
不明魚類	舌顎骨					0/1			1		
	口蓋骨				0/1				1		
	角舌骨				1/1				2		
	上舌骨			1/0					1		
	肩甲骨?					0/1			1		
	腹椎	1			1				2		
	尾椎	2				5			7		
	尾部棒状骨					1			1		
5mm合計		128	74	56	85	312	130	124	909		

第34表 寺下圀(里72)地点動物遺存体集計表(魚類②)

分類群	部位	3mm												
		1層	3層	4層	8・9層	11層	16層	18層	総計					
板鯢亜綱	椎骨	1	2	3	3	3	14	2	28					
ネズミザメ上目	遊離歯	1												
メジロザメ目	遊離歯													
トビエイ科	歯板	4												
ウナギ風	主上顎骨													
	前上顎骨+篩骨+鋤骨板	1	1											
	歯骨	0/1												
	角骨													
	方骨													
	舌顎骨													
	主鰓蓋骨													
	基後頭骨	2	1	1										
	第一椎骨													
	腹椎	2	7	6	6	22	14	8	65					
	尾椎	8	19	9	5	38	19	8	106					
アナゴ科	主上顎骨	1/2	1/1	0/3		0/1	1/0	10						
	前上顎骨+篩骨+鋤骨板	1	1											
	歯骨	0/1	0/1	3/1		1/3	0/1	0/1	12					
	角骨													
	方骨	1/0												
	主鰓蓋骨													
	角舌骨													
	基後頭骨	1	1											
	第一椎骨	2	2											
	腹椎	11	16	10	24	28	4	6	99					
	尾椎	14	14	6	39	22	3	4	102					
カタクチイワシ	角骨	1/0												
	舌顎骨													
	腹椎	3												
ニンシ科	尾椎	1	8											
	角骨	2/0												
	方骨													
	主鰓蓋骨	1/0												
ニンシ	基後頭骨													
	第二椎骨													
	腹椎	11	1	1	5	6	4	2	30					
	尾椎	5	1	1	6	2	2	4	21					
	尾節棒状骨													
	歯骨	0/1												
マイワシ	第一椎骨													
	主上顎骨													
コイ科	方骨													
	腹椎													
	尾椎													
ウグイ風	遊離歯	1												
ボラ科	尾椎	1												
ダツ目?	腹椎	1												
サヨリ科	歯骨													
	方骨													
	下咽頭骨	1												
	基後頭骨	1												
	第一椎骨	2												
	腹椎	1	90	3	3	70	14	7	188					
	尾椎	2	15	2	15	2	1	37						
	部位不明骨	1												
	カサゴ亜目	前上顎骨	1/0	1/0										
		歯骨												
		角骨												
舌顎骨		0/1												
主鰓蓋骨														
上舌骨														
後側頭骨		1/0												
上擬鎖骨														
耳石		1/0												
鋤骨		1												
基後頭骨														
腹椎														
尾椎		3	5		3		2		13					
尾節棒状骨														
カサゴ亜目?	歯骨													
	スズキ風	主上顎骨	3/0		1/2	0/2	6/8	16/8	1/0	47				
		前上顎骨	1/1	2/1	1/0	4/6	12/13	2/2	45					
		歯骨	2/2		1/1	1/5	9/16	0/1	38					
		角骨	1/2	1/0	1/0	8/9	0/1	23						
		方骨	1/1	0/1	1/3	2/2	12/12	35						
		口蓋骨												
		舌顎骨	1/0											
		主鰓蓋骨	0/1											
		前鰓蓋骨												
		角舌骨	1/1	1/1	8/6	16								
		上舌骨												
		肩甲骨												
後側頭骨														
上擬鎖骨	0/1													
擬鎖骨	2/0													
耳石	2/0	0/1		1/2	4/2	2/0	10							
スズキ風	鉤骨													
	基後頭骨													
	副蝶形骨													
	第一椎骨													
	腹椎	1	20	6	11	57	191	8	294					
	尾椎	2	30	6	26	78	207	15	364					
	尾節棒状骨	1												
	アジ科	歯骨												
		尾椎	1											
	ブリ風	尾椎												
		主鰓蓋骨												
	タイ科	尾椎	1											
		尾節棒状骨	1											
遊離歯		24	1	6	3	41	8	7	90					
主上顎骨														
マダイ亜科	主上顎骨													
	上咽頭骨													
	腹椎	1	8	2	7	2	20							
	尾椎													
ウミナゴ科	尾節棒状骨													
	前上顎骨	2/0												
	歯骨	1/0												
	方骨	1/0												
	主鰓蓋骨	0/1												
	上咽頭骨	0/2												
	第一椎骨													
	腹椎													
	尾椎													
	ベラ科	主上顎骨	2/1	0/1	1/1	2/0	1/0	1/0	0/1	11				
前上顎骨		1/2	0/2	1/1	1/0	0/2	1/0	11						
歯骨		0/1	0/2	1/1		2/3		1/0						
涙骨		0/1												
角骨		1/0												
方骨		0/1												
口蓋骨		1/1	0/1	1/1		1/3		1/0						
舌顎骨														
主鰓蓋骨		1/0												
前鰓蓋骨		1/0												
アイナメ風		角舌骨	1/0											
	上舌骨	0/1												
	肩甲骨													
	後側頭骨	0/2		1/0	1/1	2/1		1/1						
	上擬鎖骨	1/1	0/1	2/0	2		1							
	鉤骨	1												
	基後頭骨													
	副蝶形骨	1												
	尾舌骨	1												
	第一椎骨	3	1	2	7	5	2	20						
	腹椎	27	23	7	13	26	35	12	143					
尾椎	55	56	27	80	62	68	36	384						
尾節棒状骨	1	1	2	1	3	5	3	16						
アイナメ風?	腹椎	1												
	ゲング目													
	尾椎													
ケムシカジカ科	尾椎													
	サハ風	前上顎骨	0/1											
サハ風	歯骨													
	角骨	0/1												
	主鰓蓋骨	0/1												
	腹椎	7	2	1	1	1	12							
	尾椎	16	2	1	2	2		23						
	尾節棒状骨	1												
	カレイ科	歯骨												
尾椎		1												
カレイ科?	腹椎													
	ウシノシタ上科													
カワハギ科	尾椎	1												
	遊離歯													
フグ科	前上顎骨	0/1												
	角骨	0/1												
	方骨													
	口蓋骨													
	主鰓蓋骨	0/1												
	基後頭骨													
	腹椎	1	1	8	15	8	33							
尾椎	1	1	2	4	18	4	4							
不明魚類	尾節棒状骨	1												
	方骨	0/1												
	上舌骨													
	肩甲骨													
	耳石													
	基後頭骨	1												
	副蝶形骨													
	腹椎	4	5	2	7	6	1	25						
	尾椎	10	4	10	9	51	27	8	119					
	尾節棒状骨	1												
	遊離歯													
3mm合計		259	374	178	320	740	904	203	2,978					

第 35 表 寺下圀(里 72)地点動物遺存体集計表(魚類③)

分類群	部位	層								総計
		1層	3層	4層	8・9層	11層	16層	18層		
板鯢亜綱	椎骨							1	1	1
	遊離歯							1	1	1
ネズミザメ上目	遊離歯				1					1
ガンギエイ目	遊離歯				1					1
アカエイ科	遊離歯	1						1	2	2
ウナギ風	主上顎骨	0/1								1
	歯骨				0/1					1
	第一椎骨				1	1		2	4	4
	腹椎	1		3		2				6
	尾椎		1	3		6	8			18
ウナギ風?	主鰓蓋骨			1/0						1
アナゴ科	主上顎骨							1/0	1	1
	歯骨	1/0	1/0					1/0	3	3
	耳石						1/0			1
	第一椎骨				1					1
	腹椎				2					2
	尾椎	3		3	3	6	1	1	1	17
	尾椎									18
カタクチイワシ	主上顎骨							0/1	1	1
	前上顎骨				1/0					1
	角骨					0/1	0/1	0/1	3	3
	方骨					1/0				1
	後側頭骨							0/1	1	1
	第一椎骨					5	1	2	8	8
	腹椎	9	8	7	3	127	51	34	239	239
	尾椎	3	7	12	4	100	21	21	168	168
	尾部棒状骨					3	1			4
	ニシン科	角骨	3/1			2/0	1/0	1/0	2/2	12
方骨	1/2			0/1	0/1				5	5
基後頭骨	6				2	1	6	15	15	
腹椎	43		8	13	42	17	28	151	151	
尾椎	50	1	7	4	35	22	33	152	152	
尾部棒状骨	3		1		1	3	3	11	11	
マイワシ	主上顎骨				1/1	1/0	3/0	1/0	7	7
	第一椎骨	1				2	3	3	9	9
	第二椎骨	2				1	1	2	6	6
コイ科	腹椎							1	1	1
ウグイ風	咽頭骨							1/0	1	1
	遊離歯					3				3
ウグイ風?	遊離歯				1				1	1
サヨリ科	腹椎	1	35			25	1	6	68	68
	尾椎		7			10	2	2	21	21
	尾部棒状骨		1							1

分類群	部位	層								総計
		1層	3層	4層	8・9層	11層	16層	18層		
カサゴ亜目	主上顎骨							1/0	1/0	2
	腹椎							1		1
スズキ属	尾椎								1	1
	主上顎骨				0/1	3/0	1/2			7
	前上顎骨					2/1	2/0			5
	歯骨						2/0			2
	方骨				1/0	0/1				2
	主鰓蓋骨						1/0			1
	上擬鎖骨				1/0	0/1				2
	基後頭骨					1				1
	腹椎		2			4	6	2	14	14
	尾椎	1	4			9	22	1	37	37
尾部棒状骨		3		1		3			7	
スズキ属?	耳石		1/0							1
ムツ属	尾椎					1				1
タイ科	遊離歯	31	1	4	4	44	8	5	97	97
ウミタナゴ科	腹椎					1				1
	尾椎					2	1			3
ペラ科	尾部棒状骨					2				2
	前上顎骨		1/0							1
アイナメ属	尾椎					1	2			3
	角骨	1/0								1
	主鰓蓋骨		0/1							1
	腹椎			2		2	2			6
ハゼ科	尾椎	9	5	2	6	5	2	2	2	31
	主鰓蓋骨			0/1						1
サバ属	角骨	1/0								1
サバ属?	腹椎	2								2
	尾椎	3								3
カワハギ科	方骨	0/1								1
フグ科	遊離歯		1		1			2	1	5
	腹椎					3				3
不明魚類	前上顎骨	1/0								1
	上擬鎖骨				1/0					1
	腹椎			2		5	2	1	10	10
	尾椎	6	1	8	1	14	19	11	60	60
	尾部棒状骨	1				1				2
1mm合計		194	81	64	57	487	223	199	1,305	1,305
総計		581	529	298	462	1,539	1,257	526	5,192	5,192

※ 左右があるものは“左/右”で示した。

第 36 表 寺下圀(里 72)地点動物遺存体集計表(鳥・哺乳・爬虫類)

分類群	部位	部分	層								総計		
			1層	3層	4層	8・9層	11層	16層	18層				
鳥綱	カモ科	鳥口骨	近位端		1/0								1
		近位端～遠位端					0/1	0/1					2
		胸骨	鳥口関節溝	1			1						3
		肩甲骨	遠位端		2/0					0/1			3
		尺骨	近位端					0/1					1
		遠位端						0/2	1/0	3			3
		手根中手骨	遠位端		0/1								1
		上腕骨	遠位端							0/1			1
		近位端								0/1			1
		足根中足骨	遠位端					0/1					1
		大腿骨	遠位端					1/0					1
		近位端～遠位端			1/0								1
		頭蓋骨	涙骨				1						1
		脛足根骨	遠位端							1/0			1
	近位端									0/1		1	
	骨幹部～遠位端					0/1	1/0					2	
	カイツブリ科	上腕骨	遠位端							1/0			1
	ミズナギドリ科	上腕骨	近位端～遠位端						1/0				1
	ウ科	大腿骨	近位端～遠位端						0/1				1
	カモ科	手根中手骨	近位端				1/0						1
ウミスズメ科	鳥口骨	近位端～遠位端					1/1					2	
	肩甲骨	近位端				0/1						1	
	上腕骨	遠位端					1/0					1	
	鳥口骨	遠位端				0/1						1	
	尺骨	遠位端							1/0			1	
不明鳥類	鎖骨	一部欠損				1						1	
	指骨	遠位端							(1)	(1)		2	
	近位端								(1)			1	
	近位端～遠位端					(2)	(1)					3	
	手根骨	完形				0/1						1	
	足根中足骨	近位端							0/1			1	
長幹骨	骨端部							(1)			1		
椎骨	椎体						1	2	3		3		
脛足根骨	近位端						0/1				1		

分類群	部位	部分	層								総計		
			1層	3層	4層	8・9層	11層	16層	18層				
哺乳綱	ニホンジカ	角	角幹部							(1)			1
		角尖部	(1)						(1)				2
		破片	(1)						(4)	(3)			8
		肩甲骨	遠位端									0/1	1
		足根骨	中心+第四足根骨								0/1		1
		大腿骨	遠位端								0/1		1
		中手骨	近位端								1/0		1
		椎骨	頸椎									1	1
		不明哺乳類	肋骨	遠位端					(1)				1
		近位端	(1)										1
虫	ウミガメ科	甲骨板	破片			(1)						1	
5mm合計			2	6	2	7	18	23	12	70	70		

分類群	部位	部分	層								総計	
			1層	3層	4層	8・9層	11層	16層	18層			
哺乳綱	ネズミ科	頭蓋骨	上顎骨						1/0			1
		換骨	骨幹部～遠位端						1/0			1
	不明哺乳類	遊離歯						(1)			1	
	虫	ヘビ亜目	椎体			(1)						1
1mm合計			3	8	2	8	26	30	13	90	90	
総計			3	8	2	8	26	30	13	90	90	

※ 左右があるものは“左/右”、不明のものは“( )”で示した。指骨は左右を判別していない。



1. 調査区全景



2. 貝層の確認状況（浄化槽撤去後）



3. 貝層の分布状況（南から）



4. 調査区東壁



5. 調査区西壁



6. 貝層の堆積状況（調査区西壁）



7. 土坑墓（人骨出土状況）



8. 土坑墓（人骨取り上げ後）

写真 87 寺下圀（里72）地点（第29次調査）

### 第3節 西貝塚の調査

#### 1. 台囲地点

##### (1) 平成10年度調査〈第4次調査〉

##### 1) 調査の目的と方法

台囲地区の調査は、台9地点を昭和27、28年に東北大学教育教養学部日本史研究室、30、31、37年に宮戸島遺跡調査会が行っている。また、東北歴史資料館が台12、9地点を昭和61～62年に調査を実施している。台9地点では縄文後期から晩期初頭の貝層、および貝層下から縄文後期の竪穴建物が検出されている。

台囲地区の主要な部分は指定範囲に含まれているが、遺物包含層はさらに延びる可能性があり、その確認が必要である。また、台囲地区の西斜面にはそれに伴う遺構の確認を目的とした。

調査は10mの大グリッドを設定し、2m幅で斜面に平行したトレンチになるように発掘区を設定した(第81・82図)。表土を重機により除去し、遺構の確認を行った。P32-21区とP32-1・6区については貝層の調査を行った。

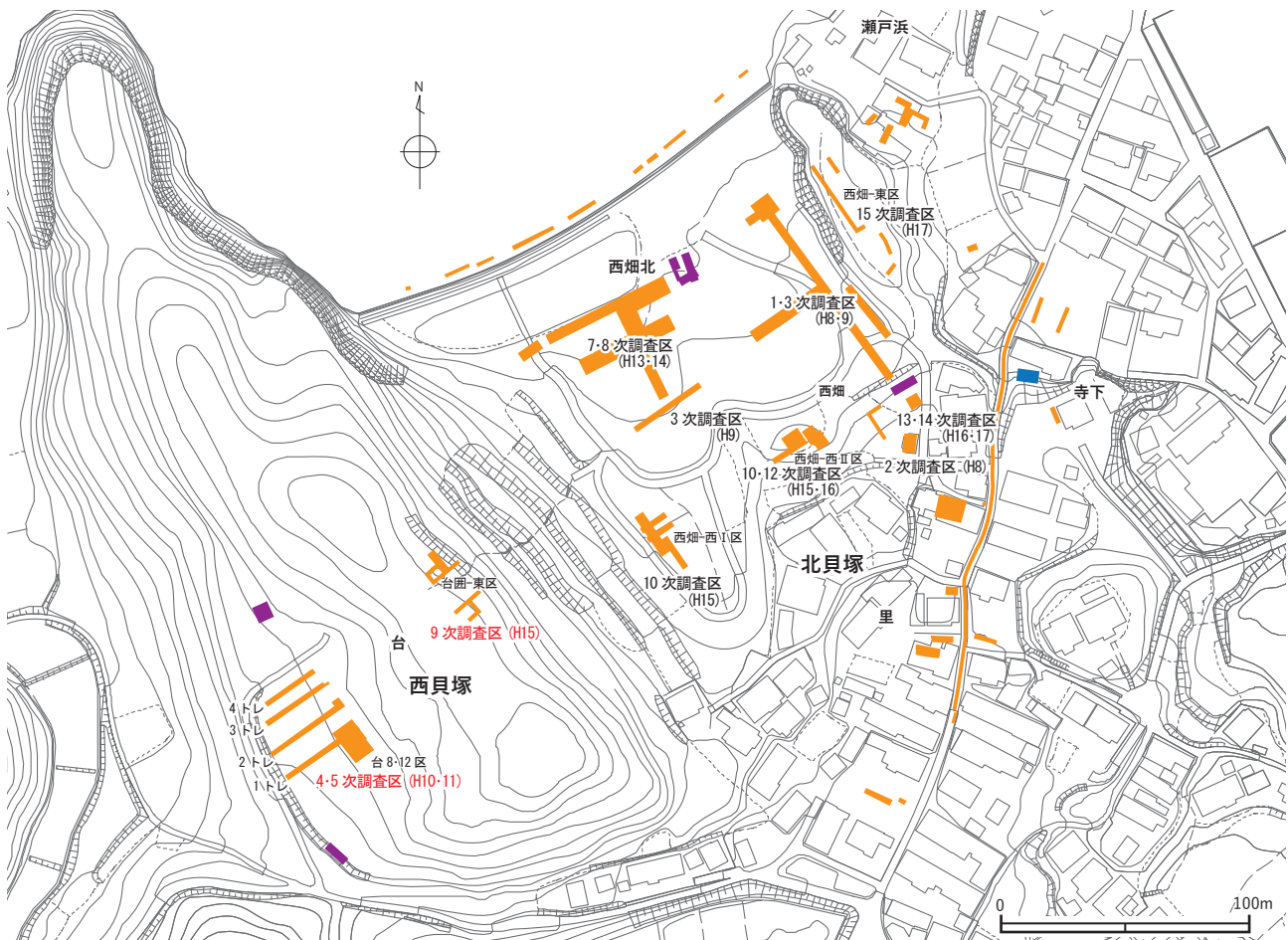
##### 2) 遺構

遺構は2棟の竪穴建物の一部、9基の土坑、2基の埋設土器が確認された。土坑の中の3基からは人骨が検出された。

##### a. 竪穴建物

##### 1号竪穴建物(SI1)(第82・83図、写真90-7・8)

Q31-216・21区で確認された。2、5号土坑と切り合い関係を持つ。確認できた竪穴建物の長軸長は3.3mである。柱穴、炉は確認されていない。縄文前期から中期の貝層に掘り込まれた遺構なので、竪穴建物内埋土に含まれる土器は



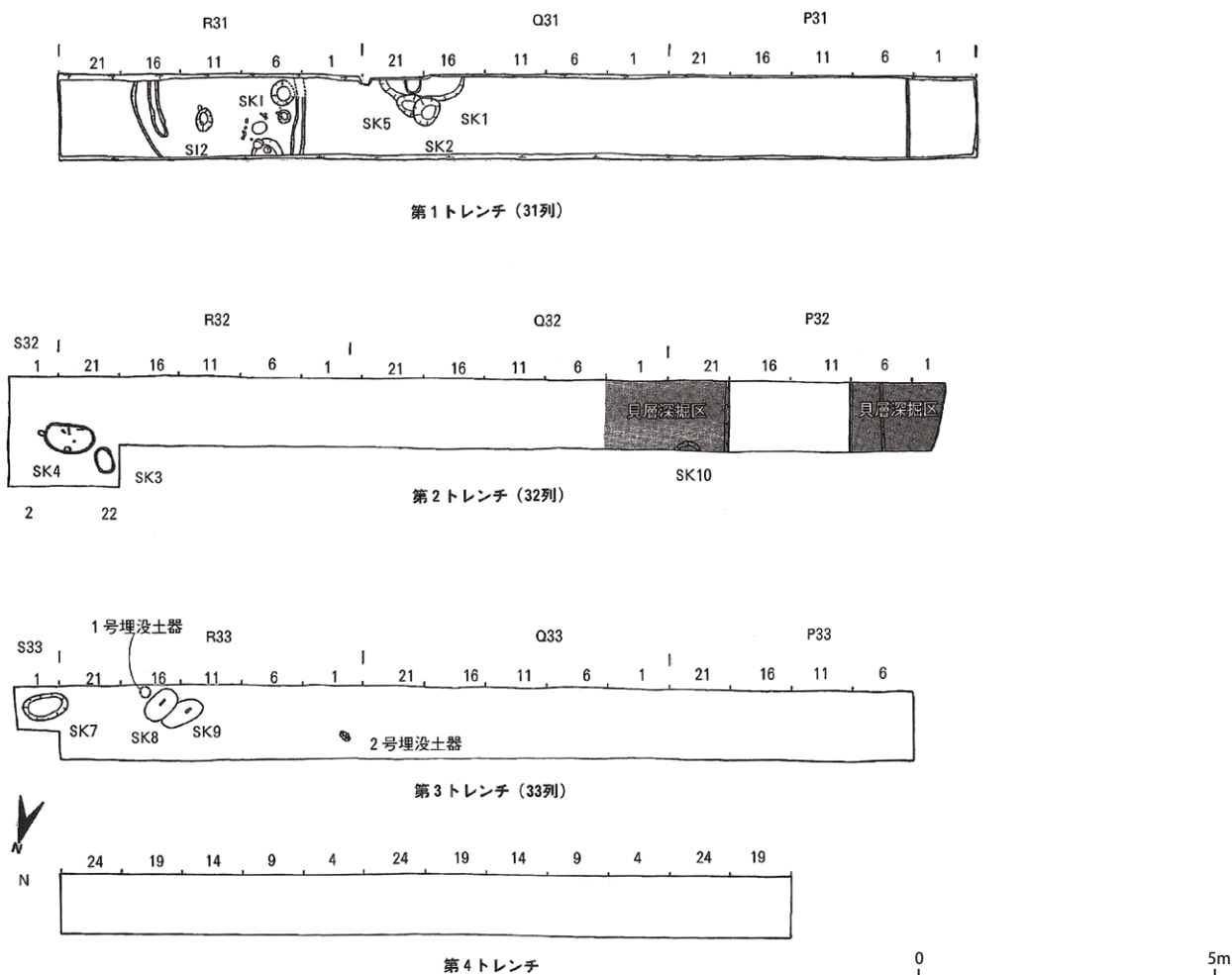
第81図 台囲地点調査区位置図(第4・5・9次調査区)

その時期のものが多く（写真95-3～6）。その中で最も新しい時期の土器が瘤付文土器（2）である。薄手の縄文の施文された深鉢も相当量含まれることから、遺構の帰属時期が瘤付文土器以降、2、5号土坑構築以前と推定される。5号土坑からは大洞B式の三叉文深鉢土器が出土していることから、1号竪穴建物の年代は縄文後期後葉から晩期初頭が考えられる。

竪穴建物内埋土の出土遺物には釣針（写真98-2）、環状装飾品（写真97-37）が出土している。環状装飾品は後期末から晩期初頭に認められる。竪穴建物の床面からはイノシシ下顎（写真118-9）が出土している。下顎骨腹縁が左右ともにえぐられたように弧状に割り取られている。左第1～3切歯、右第1、3切歯、左右第1前臼歯、左右筋突起、左右関節突起が欠落している。

### 2号竪穴建物（S I 2）（第82・83図、写真91-1・2）

R31-1・6・11・16区で確認された。1号土坑と切り合い関係にある。最大長が5.6mである。R31-16区では黄褐色粘質土に掘り込んでいる。壁、周溝が確認されている。R31-1・6区は縄文前期の貝層に掘り込んでいる。周溝が確認されている。埋土は薄い。R31-6区に地床炉がある。柱穴は2基確認されている。埋土から出土した土器は縄文前期のものと同期初頭のものがある（写真95-7～15）。三叉文の施文された鉢（第84図13・15・16）、注口土器（19）と、入組文深鉢口縁部（7・11・12）が出土している。石器は錐（3、写真95-18）、石匙（4、写真95-16）、石篋（5、写真95-17）、石剣（6、4、写真95-19）がある。



第82図 台岡地点（第4次調査区）遺構配置図

## b. 土坑

### 3号土坑 (第83図、写真91-3)

R32-22区に位置する。長軸長82cm、短軸長55cm、確認面からの深度は17cmである。縄文前期の縄文施文の厚手の土器片を埋土に含んでいる。埋土は2枚に分けられる。

### 4号土坑 (98-2号人骨) (第83図、写真91-6)

R32-21区に位置する。長軸長165cm、短軸長90cm、確認面からの深度は13cmである。埋土には大木3式の土器を含んでいる (写真95-23~25)。人骨 (98-2号人骨) の破片を含んでいる。部分的に人骨が残っただけであるが、後世に失われたものようである。残った人骨から成人男性の印象を受けるとの検討結果がある。放射性炭素年代測定結果は2910 ± 68yr.BPである。

### 5号土坑 (第83図、写真91-7)

Q31-16区に位置する。長軸長100cm、短軸長75cm、確認面からの深さ25cmである。埋土は2枚にわかれる。埋土から三叉文の施文された深鉢が出土している。縄文晩期初頭の年代が与えられよう。

### 7号土坑 (98-1号人骨) (第83・84図、写真91-8・92-1)

S33-1区に位置する。長軸長140cm、短軸長80cm、確認面からの深度は15cmである。埋土は1枚である。縄文前期の魚骨層に掘り込まれた土坑である。埋土から出土した土器は前期のものが最も多く、瘤付文土器、磨消し縄文、薄手の縄文土器を含んでいる (写真95-27~30)。埋土に含まれた最も新しい時期の遺物は縄文後期後葉の土器である。他に鹿角に穿孔された垂飾品が出土している (写真97-39)。

土坑内にはうつ伏せになった人骨 (1号人骨) が埋葬されていた。伏臥屈葬である。両手は胸の脇に折り畳み、両足は後ろに折り畳みである。あたかも縛られて葬られたかのようなようである。放射性炭素年代測定の結果は3040 ± 70yr.BPである。人類学的検討の結果年齢は20歳代後半、性別は男性である。上顎右犬歯が抜歯されている。

### 8号土坑 (98-3号人骨) (第83図、写真92-2・3)

S33-16区に位置する。土坑の輪郭を確認しただけで掘り下げは行っていない。長軸長123cm、短軸長72cmである。埋土には晩期初頭の深鉢形土器が含まれている (第85図-20、写真95-31)。人骨片を含んでいる。散乱した人骨は20代後半から30代の前半くらいの女性と推定されている。

### 9号土坑 (第83図、写真92-2)

S33-16区に位置する。土坑の輪郭を確認したのみである。海獣類の骨を含んでいる。鹿角に穿孔のある垂飾品も出土している (写真97-40)。

### 10号土坑 (第83図、写真92-4)

R32-21区に位置する。長軸長が70cmである。断面で確認した深度は45cmである。埋土は3枚に分けられる。143層の下から掘り込まれて、165層を掘り込んでいるので大木9式以前、大木8b式以後のものとして推定される。

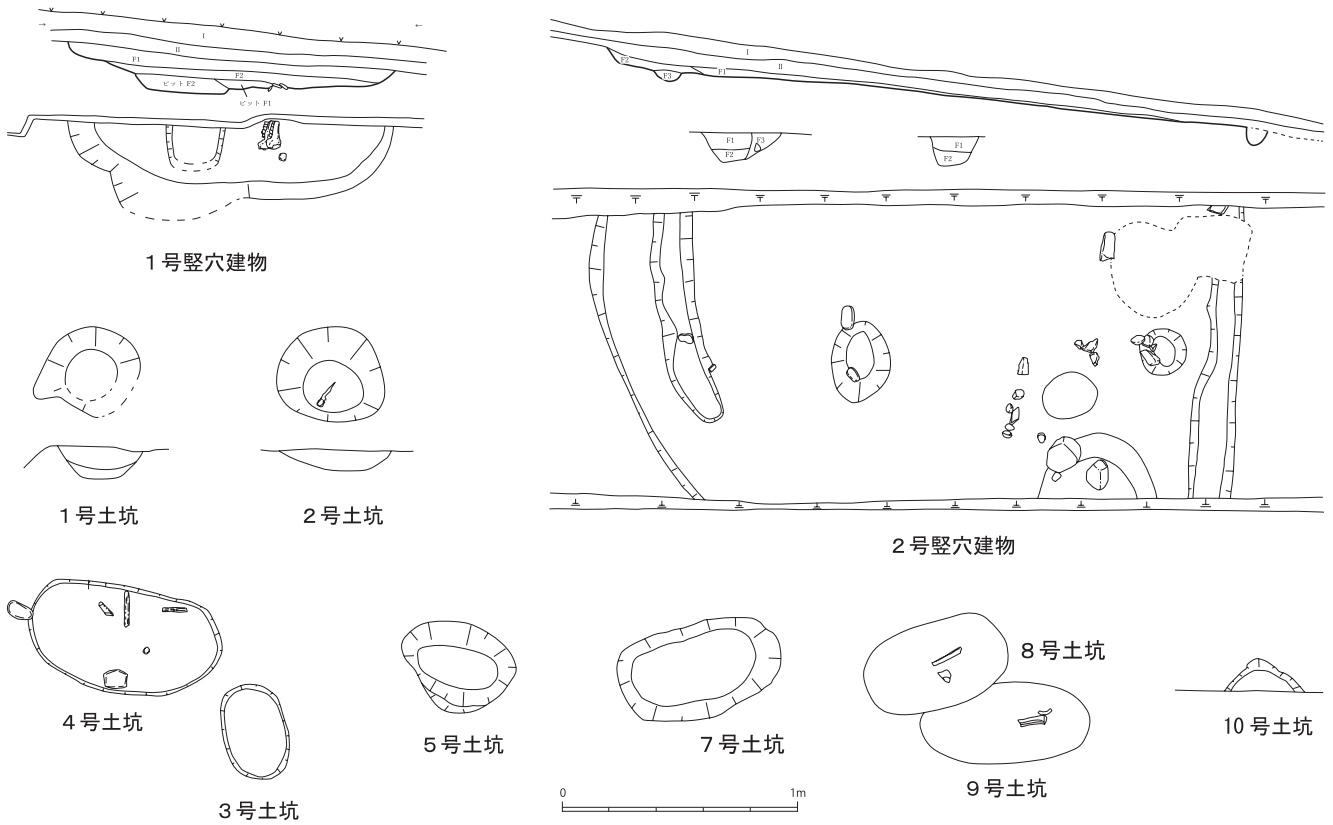
## c. 埋設土器

### 1号埋設土器 (98-1号埋設土器人骨) (第84図、写真92-5)

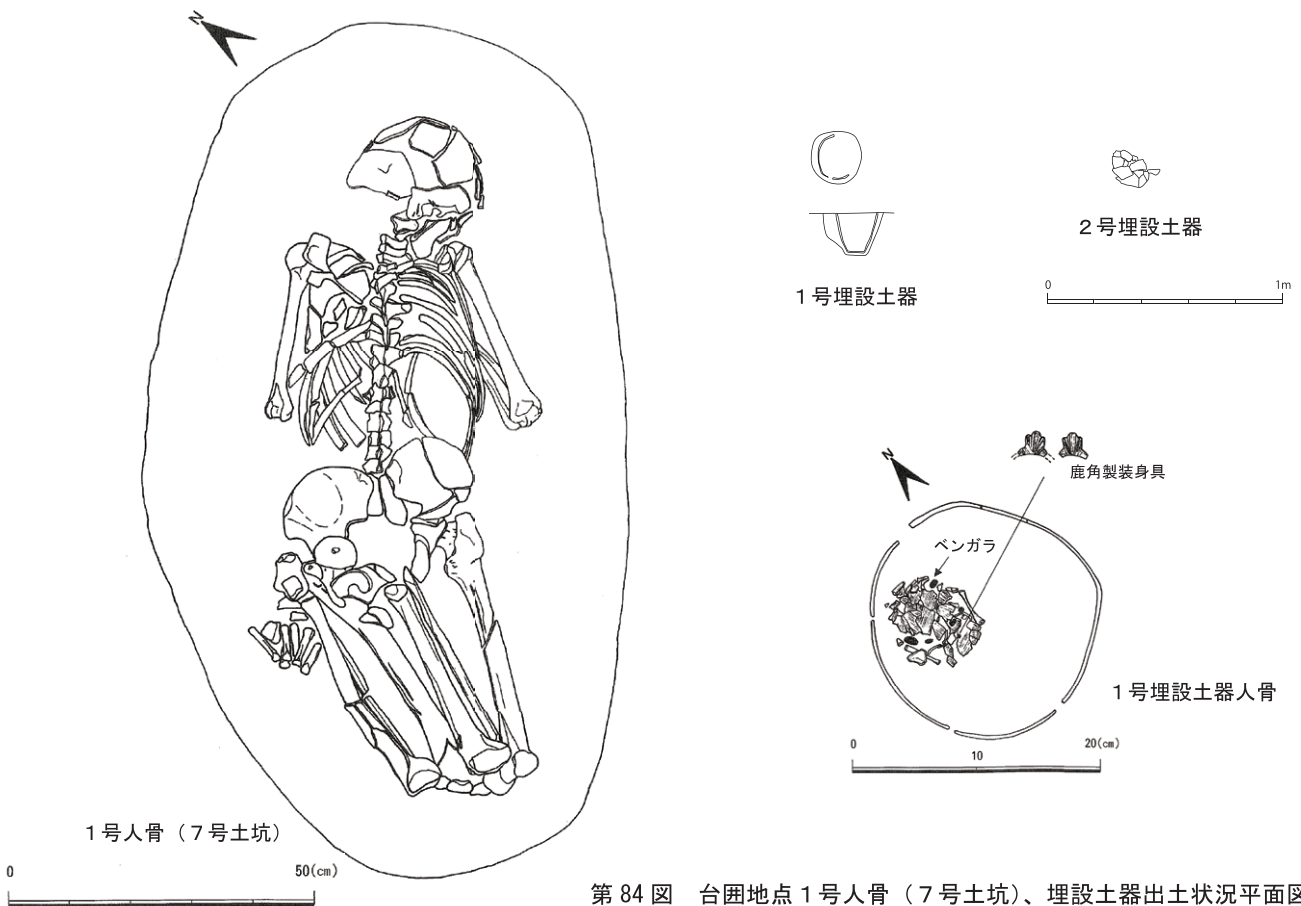
R33-16区に位置する。深鉢形土器を直立に埋設してあった。土坑は深鉢を一回り大きく掘り込んで埋設してある。深鉢形土器の内部に埋土が充填した状態で東北大学医学部第1解剖学教室に運び込み、室内で掘っていただいた。残存口縁から2/3ほど堆積土を除去した段階で、人骨が検出された。月齢10カ月の胎児と推定されている。さらに、人骨を含む土は赤色であった。部分的に赤色土が固まっている (赤色土はベンガラとの教示を東北歴史博物館の手塚均氏から受けた)。人骨の一部に赤彩された鹿角製垂飾品が副葬されていた (第84図)。この出土状況のまま固めて保存した。この土器をCTスキャンで断面撮影したところ底部穿孔土器であることがわかった。土器は縄文が全面に施文された物で縄文時代晩期前葉のものと考えられる。形質人類学の所見では胎齢10カ月である。人骨の放射性炭素年代は3019 ± 66yr.BPである。

### 2号埋設土器 (98-2号土器棺人骨) (第84図、写真92-6)

R33-1区に位置する。深鉢形土器を横に埋設したものである。内部の土を取り去ったところ、人骨が検出された。赤色土、副葬品などはなかった。形質人類学の所見では胎齢9カ月である。人骨の放射性炭素年代は3018 ± 64yr.BPである。



第83図 台圃地点（第4次調査）竖穴建物、土坑平面図・断面図



第84図 台圃地点1号人骨（7号土坑）、埋設土器出土状況平面図

第84図 台圃地点（平成10年度調査）竖穴建物、土坑平面図



第 85 図 台囲地点遺構出土遺物

3) P32 - 6 区 (貝層) の調査 (写真 92 - 7・8、第 37 ~ 38 表)

a. 貝層の堆積状況

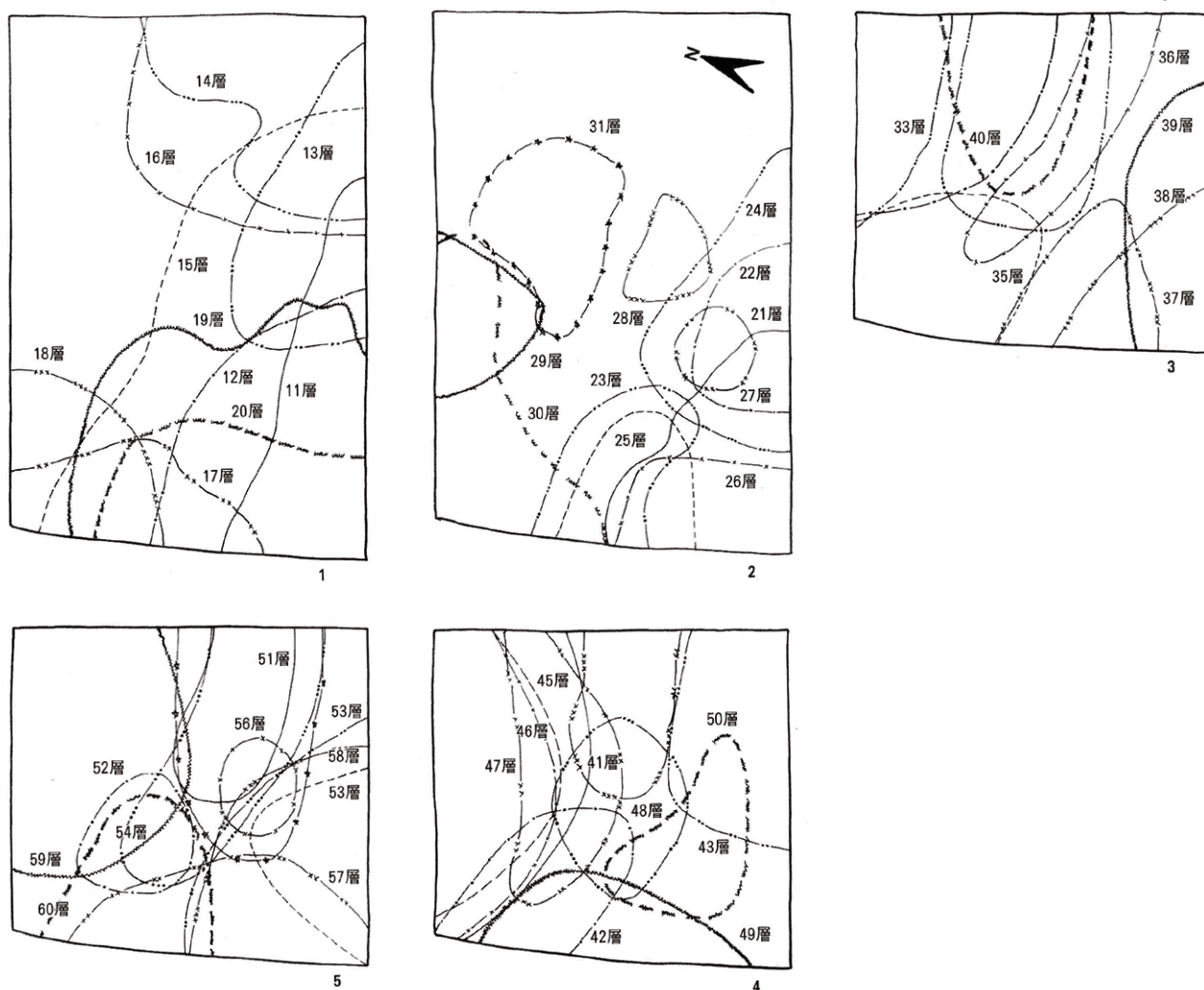
本区の発掘調査は微細層位発掘法をとった。サンプリング法、水洗選別法は P32 - 21 区と同じである。本区は調査区を設定した畑の先端部に位置し崖面になっている。しかし、実際 1 m 以上の客土により平坦な畑面がつけられたものであった。プライマリーな縄文時代後期初頭の土層を確認し、11 層と命名し、以下 61 層まで掘り下げて行った。11 層から 16 層までは貝の包含率が低い、それ以下は貝の量が増加している。61 層以下も貝層が続くことが予想される。この貝層は基本的に P31 - 21 区まで連続して斜面堆積している貝層である。本区の調査は当初約 3 m、2 m の範囲で掘り下げを行ったが、30 層を境に発掘範囲を 2 m に縮小した。しかし、今回の調査では貝層を全掘することはできなかつ

た。その中で50、57層は焼土混じりで、貝も焼けている。貝層の上面で火を焚いたものかもしれない。層の分布を示した物が第9図である。層の上下関係の重なりを示したものが第5表である。

b. 遺物の出土状況

分層結果を検証するための土器の個体別接合を行ったが、本調査区からまとまった一括土器の出土がきわめて少なく分層結果を充分検証することはできなかった(写真101～104)。

剥片石器(写真96-1～10・14・20～26・28)は石鏃8点、尖頭器1点、錐1点、薄形削器4点、ピエス・エスキエ2点、細部調整痕ある剥片2点が出土している。18点のうち16点が頁岩である。他の2点は凝灰岩系の石材を用いている。剥片の中に黒曜石とヒスイ(?)があるのは注目される。礫石器(写真96-92～36・43)には磨石2点、凹石1点、石皿1点、礫器1点、打製石斧2点、磨製石斧刃部破片1点、敲打痕ある礫1点が出土している。土製品(写真97-1～5)は耳飾り1点、土製円盤4点が出土している。骨角牙貝器(写真97-14～25)は鹿角製釣針が3点、鹿角製根挟みが1点、棒状角器2点、猪牙製腕輪2点、貝輪1点、鳥骨製装飾品1点、骨製装飾品未製品1点、鹿角製かんざし1点、鹿角製磨製品1点、エイの極棘素材の刺突具1点が出土している。鹿角製磨製品はその摩耗状況から土器の調整具(ミガキ工具)として用いられたものと推定される。鹿角片は28点出土している(写真98-11～41)。擦り切りによる切断痕ある鹿角がある。動物骨にはアシカ下顎(写真100-12)、アシカ歯(13)、嚙痕ある骨、カットマークある骨(14～17)などがある。土器は器形が明らかになるものは出土していない。破片資料である。縄文時代後期初頭のものである。図版24-11の資料は土器の接合部で破損したものである。11bはその破損部に見える擬口縁にキザミが施されている。寸胴形の器形にするため垂直に粘土帯を接合することを容易にするためと推定される。



第86図 台岡地点 P32 - 6・1 区層分布図



## 4) P32 - 21区(貝層)の調査(第87図、写真93・94、第39～41表)

## a. 貝層の堆積状況

本区の調査は微細層位発掘法をとった。層名は表土から層まで分層し、それ以下の101層から170層まで微細層位発掘を行った。層の種類、土色、層厚、体積については現場で注記を行った。体積がコンテナ1箱(30ℓ)を越えるものについては、遺物、大型動物、大型魚骨の採集を行い、他は廃棄した。水洗は2mmメッシュのザルで行った。水洗後の残存量を体積として計測し、1ℓ当りの重量を計測した。それらの結果を示したのが第1表である。水洗残存率の分布形を探索的データ解析法のうち、幹葉表示を用いて検討したところ、双峰性であることがわかった。そこで、0～6%、10～24%、25～44%の3種の層があると考えた。0～6%は水洗によりほとんど流れ去った土層、10～24%は混土貝層、25～44%が貝層と見なすと、157層以下に土層が多くなり、それより上層では混土貝層と貝層が交互に出現することがわかる。より詳細な検討は選別分析後に行う。170層以下については土層が厚く堆積していることをサブトレンチをいれて確認した。170層下面から約1m下で大木6式土器が検出されている。ボーリング探査によるとさらに1m下まで黒色土層が続いている。黄褐色土や基盤凝灰岩は確認できなかった。土層の中には動物遺存体を含む部分もある。台岡地点の平坦面の多くは廃棄層の堆積によって形成された可能性が高い。

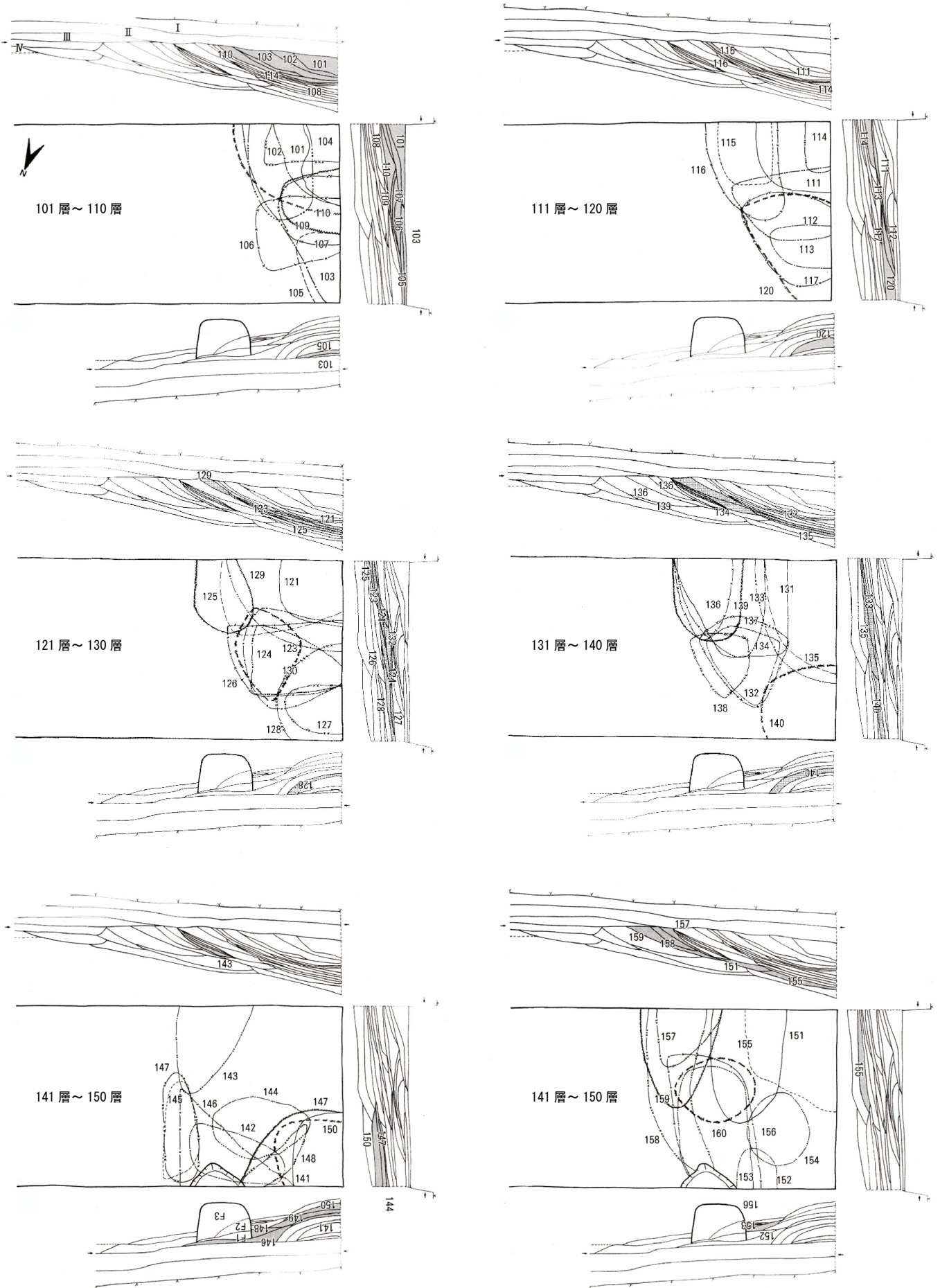
## b. 遺物の出土状況

貝層の上下関係、及び層の同時性を検討するために、土器の接合関係を検討した(第40表)。土器には最も破片数が多く出土した層名にハイフンで番号を加えた。61個体の土器の層別分布表が完成した。層が上下に重なり合っている場合、大型である縄文中期を中心とした土器は混入する可能性が高くなる。そこで、層の重なり具合をクロス表にした。「\*」が大きく重なり合う場合、「-」が一部重なり合う場合である。この結果を用いて、土器の接合関係を示す層別土器個体分布表の層に、「\*」と「-」に相当するものを加えた(41表)。その結果61個体の土器のうち21個体の土器が直接上下関係以外で接合していることがわかった。21個体の土器を含む層の平面分布を検討したところ、直接上下関係にはないが上下の位置に層があり最大破片出土層よりも上位で検出された場合は土器の一部が最大破片出土層の上位に未埋没状態にあった可能性を示している。層の厚さよりも土器の高さが優った場合である。下層にある場合は層の掘り残しの可能性がある。平面的に重ならない層に分布する場合は層の同時存在が考えられる。そのような視点で21個体を見て行くと、掘り残しが個体107-1、115-1、未埋没が個体132-1、134-1、136-3、147-1、147-2、165-1、掘り残しと未埋没が個体154-1、160-1、164-1である。同時存在と考えられるものが個体129-1の129層と140層、個体134-3の134層と135層と142層、個体151-2の151層と142層、個体155-1の155層と142層、143層、個体156-1の156層と163層である。同時存在と未埋没が組合わさったものに個体150-1、150-2、154-1がある。同時存在と掘り残しが組合わさったものに個体160-1、164-1がある。これらのケースでは説明できないものが個体143-1である。これらはあまりにも大きくはなれ過ぎている。これらの作業により、微細分層を検証することができる。斜面堆積層であるから、表面に散乱する土器片が斜面の上から下に転がり落ちることは十分考えられる。大きな土器だけに、廃棄時以降に破損して転がり落ちることもある。そのような層の混乱が想定されるが、基本的に大きな層の混乱はなかったというのが結論である。それは、土器の出土状況が廃棄の原位置で検出されているからである。多くの土器は平坦面から斜面への傾斜変極点の少し下に残されている。破損した土器をまとめて捨て置いた状況である(写真105～107)。

石器は剥片石器が7点出土している(写真96-11～13、15～18・27)。石鏃1点、石匙2点、RF3点、ピエス・エスキエ1点である。うち6点が頁岩素材である。水洗資料の選別が終了すれば多少は増加するであろうが、剥片石器は全体に少ない。礫石器では磨石、礫器、石皿、軽石製浮きなどが出土している(図37～40・42)。

土製品には石棒を模倣したと考えられる土棒がある(写真97-6)。中実の土製品で、形態は石棒と同じである。表面は縄文が施文されている。先端部に粘土紐隆帯が貼付けられ、その上端に沈線が引かれ、円形刺突が施されている。粘土紐の欠落下に縄文が認められることから、全体に縄文を施文した後に、粘土紐を貼付けたものである。基部近くから中央部にかけて破損している。焼成時の焼けはじけと推定される。内部は半生の粘土が残っているようである。

土製品には土棒とほぼ同じ大きさの石棒がある(写真97-9)。先端部のみの出土であるが、凹石として転用され



第 87 图 台围地点 P32 - 21 区層分布图

第39表 台園地点 P32-21 区土層注記

層名	層の種類	土色	層厚 (cm)	体積 (ℓ)	サンプル体積 (ℓ)	水洗後残存量	水洗残存率	1ℓ当たりの重量 (g)	層名	層の種類	土色	層厚 (cm)	体積 (ℓ)	サンプル体積 (ℓ)	水洗後残存量	水洗残存率	1ℓ当たりの重量 (g)
101	土層	5YR2/3 極暗褐色	5	30	30	5	0	892	136	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	10	40	30	10	0.33	618
102	混土層	10YR2/3 黒褐色	5	30	30	7	0	832	137	混土層	5YR3/4 暗赤褐色	5	65	30	6	0.20	761
103	混土層	10YR2/4 黒褐色	15	120	30	10	0	733	138	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	18	18	8	0.44	630
104	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	40	30		0	818	139	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	15	15	3	0.20	682
105	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	20	20	5	0	884	140	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	40	30	6	0.20	907
106	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	10	10	2	0	841	141	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	10	40	30	8	0.27	870
107	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	40	30	5	0	840	142	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	43	30	7	0.23	601
108	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	10	45	30	7	0	753	143	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	10	40	30	5	0.17	749
109	混土層	5YR2/4 極暗赤褐色	3	10	10	2	0	812	144	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	10	40	30	7	0.23	636
110	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	40	30	10	0	801	145	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	55	30	6	0.20	760
111	混土層	5YR2/3 極暗赤褐色	5	25	25	6	0	720	146	土層	5YR3/4 暗赤褐色	3	30	30	3	0.10	901
112	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	3	10	10	2	0	870	147	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	3	50	30	3	0.10	800
113	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	30	30	3	0	732	148	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	3	20	20	3	0.15	938
114	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	10	10	1	0	732	149	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	42	30	5	0.17	890
115	混土層	5YR2/2 黒褐色	5	25	25		0	765	150	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	28	28	5	0.18	748
116	混土層	5YR3/2 暗赤褐色				11	0	693	151	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	3	40	30	3	0.10	917
117	混土層	5YR2/3 極暗赤褐色	5	23	23	3	0	873	152	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	20	20	2	0.10	766
118	混土層	5YR2/3 極暗赤褐色	3	20	20	2	0	893	153	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	42	30	6	0.20	669
119	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	30	30	5	0	863	154	混土層	5YR4/4 におい赤褐色	3	25	25	3	0.12	837
120	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	30	30	5	0	814	155	混土層	5YR4/3 におい赤褐色	7	55	30	1	0.03	875
121	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	3	30	30	5	0	805	156	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	10	110	30	5	0.17	705
122	混土層	5YR2/3 極暗赤褐色	5	50	30	6	0	809	157	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	3	30	30	8	0.27	745
123	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	30	30	11	0	631	158	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	60	30	9	0.30	663
124	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	30	30	6	0	765	159	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	10	65	30	9	0.30	720
125	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	12	60	30	10	0	694	160	混土層	5YR4/4 におい赤褐色	3	30	30	2	0.07	865
126	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	10	28	28	5	0	769	161	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	3	30	30	5	0.17	810
127	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	10	50	30	5	0	893	162	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	43	30	8	0.27	764
128	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	10	25	25	6	0	845	163	混土層	5YR3/4 暗赤褐色	5	30	30	2	0.07	916
129	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	10	50	30	7	0	595	164	混土層	5YR3/4 暗赤褐色	10	40	30	9	0.30	815
130	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	25	25	5	0	770	165	混土層	5YR4/2 灰褐色	5	30	30	5	0.17	791
131	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	10	70	30	5	0	541	166	土層	5YR3/4 暗赤褐色	10	50	30	1	0.03	996
132	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	35	30	13	0	703	167	混土層	5YR4/4 におい赤褐色	5	32	30	1	0.03	953
133	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	35	30	5	0	804	168	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	5	30	30	3	0.10	758
134	混土層	5YR3/2 暗赤褐色	10	40	30	6	0	724	169	土層	5YR3/2 暗赤褐色	5	70	30	2	0.07	994
135	混土層	5YR3/3 暗赤褐色	17	80	30	5	0	730	170	土層	5YR3/2 暗赤褐色	10	100	30	2	0.07	910

た痕跡もある。破損痕も摩滅している。石棒は125層出土、土棒が123層出土である。岩版は2点出土している（7・8）。卵のように研磨したものと、板状のもので、後者には盲孔と線刻により文様が刻まれている。

骨角牙貝器には釣り針（写真97-26）、魚骨製装身具（27・29・35）、アシカ牙製垂飾品未製品（28）、鹿角製垂飾品（33）がある。骨製垂飾品（31と32は接合する）は先端が破損している。基端部に穿孔と沈線が2本ある。先端部が欠落しているので断定できないが、携帯用の石器剥離工具の可能性がある（会田 2000）。鹿角製棒状品（30）は裂いた鹿角を素材とし、先端部のみが摩滅している。先端部を用いた土器文様施文具と推定される。アシカ牙製磨製品（34）は牙の基部側が凸形に研磨されている。研磨されたというよりも使い込まれたようで、長軸に直交する擦痕が認められる。ほかは素材面をそのまま残している。これは土器のミガキ工具の可能性がある（会田 2008）。鹿角片についてはほとんどを提示した（写真99-1～51）。6は鹿角先端部破片で、器体には擦痕が見られ、先端は摩耗し海綿質も見える。これらのことから先端部を用いる石器剥離工具の可能性がある。22、29はハンマーの破片で、22の先端に石器破片が埋没している（会田 2000）。25は棒状角器で、土器文様施文具の可能性がある（会田 1994）。鹿角の分割には擦り切り手法が多く認められることは注目される。40は鹿角先端部を素材としている。先端がやや直線的で、横断面形（40a）はやや凸型である。その面は長軸方向に深い擦痕があり、それを消すような摩耗がある。深い擦痕は整形の痕跡で、摩耗は使用の痕跡であろう。土器のミガキ工具の可能性がある。鯨骨製棒状品（写真100-9）は端部が切断された痕跡がある。柱状に加工されているが完成品ではないようである。未製品と考えたい。自然遺物のうち動物遺存体はごく一部を提示している。アシカ頭骨（写真100-18）は破損し散乱して出土している。復元したが後頭部が欠落している。

101層から170層まで器形の復原が可能な土器は約80個体ほど出土している。大木8b式から大木9新式までの土器型式の変遷がほととえられる。層の同時性の問題などいくつかあるが、全体像がわかる土器と大きめの有文土器破片を写真で提示する（写真105～118）。





第 42 表 台圀地点出土石器・骨角牙貝製品属性表

番号	形	式	型式	出土区	出土層	素材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	時 期	写真	番号
1	石器	石匙		2号堅穴建物		頁岩	40	47	13.2	20	縄文晩期初頭	93	16
2	石器	石筥		2号堅穴建物		頁岩	20	35	8	6	縄文晩期初頭	93	17
3	石器	錐		2号堅穴建物		頁岩	31.4	23	8.2	4	縄文晩期初頭	93	18
4	石器	石剣		2号堅穴建物		ホルンフェ ルス	38	28.5	12	21	縄文晩期初頭	93	19
5	骨角器	垂飾品		1号埋設土器		鹿角	9.6	11.2	4.1	1<	縄文晩期初頭	93	32
6	石器	削器		P32-6,1	13	頁岩	43.4	30.2	11.6	14	縄文後期初頭	94	1
7	石器	削器		P32-6,1	13	頁岩	68.8	30.1	11.2	18	縄文後期初頭	94	2
8	石器	ピエス・エスキエ		P32-6,1	15	頁岩	31.1	17.5	6.3	4	縄文後期初頭	94	3
9	石器	ピエス・エスキエ		P32-6,1	15	頁岩	28	27.5	12	8	縄文後期初頭	94	4
10	石器	剥片		P32-6,1	20	黒曜石	37.5	21	6.3	4	縄文後期初頭	94	5
11	石器	石鏃		P32-6,1	29		26.5	22.5	7	4	縄文後期初頭	94	6
12	石器	削器		P32-6,1	34	頁岩	42.1	19.8	5.5	5	縄文後期初頭	94	7
13	石器	R F		P32-6,1	36	頁岩	30.3	21.5	7.5	4	縄文後期初頭	94	8
14	石器	削器		P32-6,1	54	頁岩	58.9	46.1	17	30	縄文後期初頭	94	9
15	石器	尖頭器		P32-6,1	56		46.4	14.7	7.4	4	縄文後期初頭	94	10
16	石器	石匙		P32-21	122	頁岩	58.1	27.7	4.7	10	縄文中期後葉	94	11
17	石器	R F		P32-21	137	頁岩	59.3	20.3	9.3	9	縄文中期後葉	94	12
18	石器	石匙		P32-21	148	頁岩	51	22.3	6.1	7	縄文中期後葉	94	13
19	石器	錐		P32-6,1	46	頁岩	42.1	37.4	10	10	縄文後期初頭	94	14
20	石器	R F		P32-21	153	流紋岩	74	31.9	28	17	縄文中期後葉	94	15
21	石器	ピエス・エスキエ		P32-21	149	頁岩	22.9	18	7.6	3	縄文中期後葉	94	16
22	石器	R F		P32-21	149	頁岩	23.5	11.1	3.5	1	縄文中期後葉	94	17
23	石器	F		P32-21	149	石英	27.2	34.2	10.9	9	縄文中期後葉	94	18
24	石器	F		P32-21			33.7	29.9	12.3	8	縄文中期後葉	94	19
25	石器	石鏃		P32-6,1	14	頁岩	20.1	10	4	1	縄文後期初頭	94	20
26	石器	石鏃		P32-6,1	15	頁岩	15.6	11.1	4.5	1	縄文後期初頭	94	21
27	石器	石鏃		P32-6,1	24	頁岩	21.1	18.8	3.9	1	縄文後期初頭	94	22
28	石器	石鏃		P32-6,1	31	頁岩	21.7	16.8	3.9	1	縄文後期初頭	94	23
29	石器	石鏃		P32-6,1	31	頁岩	19.2	10.4	3.2	1	縄文後期初頭	94	24
30	石器	石鏃		P32-6,1	34	頁岩	27	18.3	3	1	縄文後期初頭	94	25
31	石器	石鏃		P32-6,1	58	頁岩	30.5	23.6	6.4	4	縄文後期初頭	94	26
32	石器	石鏃		P32-21	141	頁岩	24.5	15.9	4.3	1	縄文中期中葉	94	27
33	石器	F		P32-6,1	17	ヒスイ?	27	18	4.9	3	縄文後期初頭	94	28
34	石器	磨石		P32-6,1	28		103.3	63.7	20.7	275	縄文後期初頭	94	29
35	石器	凹石		P32-6,1	32		81	53.7	24.7	102	縄文後期初頭	94	30
36	石器	磨石		P32-6,1	32		61	45.3	15.3	65	縄文後期初頭	94	31
37	石器	レキ器		P32-6,1	35	安山岩	110	73.5	25.2	247	縄文後期初頭	94	32
38	石器	打製石斧		P32-6,1	38	安山岩	80	40.3	13.6	54	縄文後期初頭	94	33

番号	形 式	型 式	出土区	出土層	素材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	時 期	写真	番号
39	石器	打製石斧	P32-6,1	42	粘板岩	131.9	45.2	10.8	57	縄文後期初頭	94	34
40	石器	石皿	P32-6,1	58	砂岩	57.3	39.6	12.7	26	縄文後期初頭	94	35
41	石器	磨製石斧片	P32-6,1	61	蛇紋岩	24.6	33	6.5	6	縄文後期初頭	94	36
42	石器	磨石片	P32-21	129		30.6	37.6	5.7	7	縄文中期中葉	94	37
43	石器	レキ器	P32-21	108		96.5	55.6	22	174	縄文中期中葉	94	38
44	石器	石皿	P32-21	111		133	106.4	40.4	625	縄文中期中葉	94	39
45	石器	磨石	P32-21	138		83.2	47.1	13.9	99	縄文中期中葉	94	40
46	石器	磨製石斧	R33-11	4		44.1	27.4	9	16	縄文中期中葉	94	41
47	石器	浮き	P32-21	129	軽石	80.5	78.7	39	50	縄文中期後葉	94	42
48	石器	こう打痕あるレキ	P32-6,1	34		84.3	55.5	77.4	138	縄文後期初頭	94	43
49	土製品	土製円盤	P32-6,1	15	粘土	42.5	41	9	19	縄文後期初頭	95	1
50	土製品	土製円盤	P32-6,1	33	粘土	46.8	46.3	8	24	縄文後期初頭	95	2
51	土製品	土製円盤	P32-6,1	37	粘土	41.4	38.5	8.8	18	縄文後期初頭	95	3
52	土製品	耳飾り	P32-6,1	41	粘土	34	21.8	16.9	15	縄文後期初頭	95	4
53	土製品	土製円盤	P32-6,1	60	粘土	20.8	20	5	3	縄文後期初頭	95	5
54	土製品	土棒	P32-21	123	粘土	58.7	25.5	25.5	820	縄文中期中葉	95	6
55	石製品	岩版	P32-21	123	凝灰岩	68.7	53	45.4	75	縄文中期中葉	95	7
56	石製品	岩版	P32-21	124	凝灰岩	78.9	122.6	23.1	106	縄文中期中葉	95	8
57	石製品	石棒	P32-21	125	砂岩	120.2	49.2	46.7	339	縄文中期中葉	95	9
58	石製品	装飾品	P33-16	3		71	51.9	10.2	22	縄文中期中葉	95	10
59	石製品	装飾品	Q33-11	3		25.1	12.1	3.6	2	縄文晩期	95	11
60	石製品	ボタン状石製品	R33-6	2		28	36.5	9.1	10	縄文晩期	95	12
61	石製品	岩版	SK1			51.3	40	9.6	5	縄文前期?	95	13
62	骨角牙貝器	釣針	P32-6,1	13	鹿角	31.5	21.9	6.2	3	縄文後期初頭	95	14
63	骨角牙貝器	装飾品	P32-6,1	14	鳥骨	32	14.1	6.7	1	縄文後期初頭	95	15
64	骨角牙貝器	磨製鹿角	P32-6,1	14	鹿角	40.2	14.7	6.2	3	縄文後期初頭	95	16
65	骨角牙貝器	釣針	P32-6,1	14	鹿角	75.4	14	6.1	3	縄文後期初頭	95	17
66	骨角牙貝器	釣針	P32-6,1	21	鹿角	18	8.8	3	1>	縄文後期初頭	95	18
67	骨角牙貝器	腕輪	P32-6,1	32	猪牙	59	17.6	6	9	縄文後期初頭	95	19
68	骨角牙貝器	腕輪	P32-6,1	32	猪牙	75.4	18.8	3.4	7	縄文後期初頭	95	20
69	骨角牙貝器	腕輪	P32-6,1	33	貝	64.7	17.1	5.3	12	縄文後期初頭	95	21
70	骨角牙貝器	根挟み	P32-6,1	39	鹿角	32.1	7.2	5.8	1	縄文後期初頭	95	22
71	骨角牙貝器	棒状角器	P32-6,1	39	鹿角	25.2	5.4	5.3	1	縄文後期初頭	95	23
72	骨角牙貝器	装飾品未製品	P32-6,1	42	骨	41.3	21.2	15.1	7	縄文後期初頭	95	24
73	骨角牙貝器	かんざし	P32-6,1	54	鹿角	85.7	4.1	4.1	2	縄文後期初頭	95	25
74	骨角牙貝器	釣針	P32-21	110	鹿角	36	10.7	5.5	1	縄文中期後葉	95	26
75	骨角牙貝器	装飾品	P32-21	118	魚骨	12.2	9.5	8.1	1>	縄文中期後葉	95	27
76	骨角牙貝器	装飾品未製品	P32-21	125	牙	55	15.2	9.7	8	縄文中期後葉	95	28
77	骨角牙貝器	装飾品	P32-21	127	サメ椎骨	12	8	9	1	縄文中期後葉	95	29
78	骨角牙貝器	棒状骨器	P32-21	130	鹿角	61.2	6	4.2	2	縄文中期後葉	95	30

番号	形	式	型式	出土区	出土層	素材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	時 期	図版	写真
79	骨角	牙貝器	装飾品	P32-21	139	骨	127.2	20.1	7.8	12	縄文中期後葉	図版18	95
80	骨角	牙貝器	装飾品	P32-21	139						縄文中期後葉	図版18	95
81	骨角	牙貝器	装飾品	P32-21	141	鹿角	42.2	30.7	8	10	縄文中期後葉	図版18	95
82	骨角	牙貝器	磨製牙	P32-21	143	アシカ牙	43.4	25.8	12.6	16	縄文中期後葉	図版18	95
83	骨角	牙貝器	装飾品	P32-21	163	サメ椎骨	12.6	8.3	8.3	1	縄文中期中葉	図版18	95
84	骨角	牙貝器	骨篋	P32-21	170	骨	113.4	21.5	12.2	13	縄文中期中葉	図版18	95
85	骨角	牙貝器	装飾品	SI1	3	鹿角	29.6	13.4	7.3	2	縄文後期後葉	図版18	95
86	骨角	牙貝器	刺突具	SK2		尺骨	179	42.1	24.4	35	縄文晩期初頭	図版18	95
87	骨角	牙貝器	装飾品	SK7		鹿角	47.4	8.7	4.1	1	縄文晩期初頭	図版18	95
88	骨角	牙貝器	装飾品	SK9		鹿角	49	10.3	5.6	2	縄文晩期初頭	図版18	95
89	骨角	牙貝器	腰飾り	P31-1	3	鹿角	152.6	17.7	22.1	31	縄文中期後葉	図版19	96
90	骨角	牙貝器	釣針	SI1	1	鹿角	50.6	19	7.6	3		図版19	96
91	骨角	牙貝器	装飾品	P32-1	3	骨	81.5	20.5	7	7		図版19	96
92	骨角	牙貝器	釣針	P32-16	3	鹿角	40.4	17.6	7.3	4		図版19	96
93	骨角	牙貝器	釣針	P32-21	3	鹿角	30.8	8.8	4	1		図版19	96
94	骨角	牙貝器	腰飾り	Q31-1	1	鹿角	38.4	22.1	3.2	3		図版19	96
95	骨角	牙貝器	?	SK1	1	鹿角	46.7	10.8	6.1	2		図版19	96
96	骨角	牙貝器	?	R33-2	2	鹿角	28	9.6	10.4	2		図版19	96
97	骨角	牙貝器	かんざし	R33-16	6	鹿角	54.7	12	4.1	1		図版19	96
98	骨角	牙貝器	刺突具	P32-6,1	13	エイ極刺	57.3	9.1	3.3	2	縄文後期初頭	図版19	96
99	鹿角		鹿角片	P32-6,1	13	鹿角	32.6	26.2	8.7	3	縄文後期初頭	図版19	96
100	鹿角		鹿角片	P32-6,1	15	鹿角	58.2	24.5	7.2	15	縄文後期初頭	図版19	96
101	鹿角		鹿角片	P32-6,1	15	鹿角	69.5	16.2	5.6	10	縄文後期初頭	図版19	96
102	骨片		骨片	P32-6,1	16	骨	87.1	16.1	6	11	縄文後期初頭	図版19	96
103	鹿角		鹿角片	P32-6,1	16	鹿角	29	12.2	5.8	2	縄文後期初頭	図版19	96
104	鹿角		鹿角片	P32-6,1	16	鹿角	36.7	13.8	9.3	3	縄文後期初頭	図版19	96
105	鹿角		鹿角片	P32-6,1	16	鹿角	42.5	20.6	1	6	縄文後期初頭	図版19	96
106	鹿角		鹿角片	P32-6,1	17	鹿角	121.8	117.8	33.4	99	縄文後期初頭	図版19	96
107	鹿角		鹿角片	P32-6,1	19	鹿角	39.7	13.2	6.3	2	縄文後期初頭	図版19	96
108	鹿角		鹿角片	P32-6,1	19	鹿角	23.5	13.7	10.6	2	縄文後期初頭	図版19	96
109	鹿角		鹿角片	P32-6,1	20	鹿角	37.3	16.8	7.7	4	縄文後期初頭	図版19	96
110	鹿角		鹿角片	P32-6,1	24	鹿角	212	137	65.2	363	縄文後期初頭	図版19	96
111	鹿角		鹿角片	P32-6,1	24	鹿角	121.7	45.1	32.3	127	縄文後期初頭	図版19	96
112	鹿角		鹿角片	P32-6,1	31	鹿角	40.8	26.2	6.8	7	縄文後期初頭	図版19	96
113	鹿角		鹿角片	P32-6,1	31	鹿角	56.5	10.5	6.8	3	縄文後期初頭	図版19	96
114	鹿角		鹿角片	P32-6,1	35	鹿角	61.3	20.5	10	8	縄文後期初頭	図版19	96
115	鹿角		鹿角片	P32-6,1	39	鹿角	148.5	73.2	62.8	189	縄文後期初頭	図版19	96
116	鹿角		鹿角片	P32-6,1	40	鹿角	49	14.1	6.6	5	縄文後期初頭	図版19	96
117	?		鹿角片	P32-6,1	40	?	19.7	6.5	5.8	1	縄文後期初頭	図版19	96
118	鹿角		鹿角片	P32-6,1	40	鹿角	21.8	5.6	4.4	1	縄文後期初頭	図版19	96

番号	形 式	型 式	出土区	出土層	素材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	時 期	写真	番号
119	鹿角	鹿角片	P32-6,1	42	鹿角	177	65.3	27.2	157	縄文後期初頭	96	31
120	鹿角	鹿角片	P32-6,1	43	鹿角	155	44.1	22.8	80	縄文後期初頭	96	32
121	鹿角	鹿角片	P32-6,1	43	鹿角	52.9	26.3	8.3	10	縄文後期初頭	96	33
122	鹿角	鹿角片	P32-6,1	46	鹿角	206	57.5	55.5	358	縄文後期初頭	96	34
123	鹿角	鹿角片	P32-6,1	46	鹿角	39.2	15	9.1	3	縄文後期初頭	96	35
124	鹿角	鹿角片	P32-6,1	47	鹿角	42.2	9.5	4.6	2	縄文後期初頭	96	36
125	鹿角	鹿角片	P32-6,1	47	鹿角	44.2	15.7	7.7	5	縄文後期初頭	96	37
126	鹿角	鹿角片	P32-6,1	49	鹿角	60.9	9.5	6	3	縄文後期初頭	96	38
127	鹿角	鹿角片	P32-6,1	54	鹿角	28.2	5	3.4	1	縄文後期初頭	96	39
128	鹿角	鹿角片	P32-6,1	56	鹿角	65.2	40.4	8.8	16	縄文後期初頭	96	40
129	鹿角	鹿角片	P32-6,1	60	鹿角	46.4	10.8	6.4	4	縄文後期初頭	96	41
130	鹿角	鹿角片	P32-21	102	鹿角	50.7	88	23.3	65	縄文中期後葉	97	1
131	鹿角	鹿角片	P32-21	102	鹿角	61.6	37.1	13.4	16	縄文中期後葉	97	2
132	鹿角	鹿角片	P32-21	102	鹿角	58.2	17.9	9.2	6	縄文中期後葉	97	3
133	鹿角	鹿角片	P32-21	104	鹿角	52.5	20.4	11.1	6	縄文中期後葉	97	4
134	鹿角	鹿角片	P32-21	106	鹿角	60	51.6	23.4	37	縄文中期後葉	97	5
135	鹿角	剥離具片	P32-21	106	鹿角	43.6	10.9	6.4	2	縄文中期後葉	97	6
136	鹿角	鹿角片	P32-21	107	鹿角	61.2	14.3	9	5	縄文中期後葉	97	7
137	鹿角	鹿角片	P32-21	108	鹿角	107	54.5	32.1	61	縄文中期後葉	97	8
138	鹿角	鹿角片	P32-21	109	鹿角	43.1	15.8	6.7	3	縄文中期後葉	97	9
139	鹿角	鹿角片	P32-21	110	鹿角	39	31.7	12.7	6	縄文中期後葉	97	10
140	鹿角	鹿角片	P32-21	110	鹿角	58.3	20.8	7.5	6	縄文中期後葉	97	11
141	鹿角	鹿角片	P32-21	112	鹿角	32.7	18.2	8	3	縄文中期後葉	97	12
142	鹿角	鹿角片	P32-21	113	鹿角	75.7	31.2	8.3	17	縄文中期後葉	97	13
143	鹿角	鹿角片	P32-21	118	鹿角	30.6	14.8	8.8	4	縄文中期後葉	97	14
144	鹿角	鹿角片	P32-21	122	鹿角	37.3	16.1	10.6	4	縄文中期後葉	97	15
145	鹿角	鹿角片	P32-21	122	鹿角	49.4	82	23	46	縄文中期後葉	97	16
146	鹿角	鹿角片	P32-21	122	鹿角	120	80	26.5	87	縄文中期後葉	97	17
147	鹿角	鹿角片	P32-21	123	鹿角	47.5	11	5.8	3	縄文中期後葉	97	18
148	鹿角	鹿角片	P32-21	124	鹿角	48.7	17.9	9.2	5	縄文中期後葉	97	19
149	鹿角	鹿角片	P32-21	125	鹿角	42.8	12.2	9.8	4	縄文中期後葉	97	20
150	鹿角	鹿角片	P32-21	125	鹿角	75.4	22.7	11	10	縄文中期後葉	97	21
151	鹿角	ハンマー片	P32-21	125	鹿角	80.9	42.5	22.6	42	縄文中期後葉	97	22
152	鹿角	鹿角片	P32-21	126	鹿角	42.8	11.1	10.2	4	縄文中期後葉	97	23
153	鹿角	鹿角片	P32-21	126	鹿角	37.6	13.1	6.8	2	縄文中期後葉	97	24
154	鹿角	棒状角器	P32-21	131	鹿角	81.8	9.6	6.2	4	縄文中期後葉	97	25
155	鹿角	鹿角片	P32-21	133	鹿角	70.7	61	38.2	80	縄文中期後葉	97	26
156	鹿角	鹿角片	P32-21	135	鹿角	90	18.6	11	10	縄文中期後葉	97	27
157	鹿角	鹿角片	P32-21	135	鹿角	91.8	16.2	12.8	11	縄文中期後葉	97	28
158	鹿角	ハンマー片	P32-21	140	鹿角	67.5	36.1	16.8	23	縄文中期後葉	97	29

### c. 動物遺存体

P32-21区では101層から170層まで計70枚の貝層が検出されており、各層コンテナ一箱分(約30リットル)を上限として貝層サンプルを採取した。その後、最小2mmメッシュのふるいを用いて水洗選別をおこない、動物遺存体を回収した。なお、コンテナ一箱を越えた分に関しては、目視で人工遺物や大型の動物遺存体等を採集するに留めた。

動物遺存体の分析をおこなうにあたって、時間や人員等の制約からすべての資料を対象とすることは困難であった。そこで、対象とするものを限定して分析することとした。動物遺存体は目視で採集した資料(以下、目視資料)と貝層サンプルを2mmメッシュのふるいにより水洗選別した資料(以下、水洗資料)に分けられる。目視資料に関してはすべての層から出土したものを対象とした。水洗資料については膨大な作業量が見込まれたことから、113層、116層、122層、123層、125層、131層、134層、136層、139層、143層、151層、153層、156層、158層、159層の計15層の貝層から回収したサンプルを対象とした。このうち、貝類についてはすべてを分析し、魚類などその他の動物遺存体はサンプルから1,800ccを抽出して分析をおこなった。資料の年代は出土土器の型式から大木8b式から9式と考えられるが、型式間の移行期にあたる層位については明確に区分することが困難であった。そこで、ここでは170～143層を大木8b式の新段階、139～134層を大木9式の古段階、131～101層を大木9式期の中段階と捉え、時期差を検討した。種同定は奥松島縄文村歴史資料館に所蔵されている現生動物の骨格標本によりおこなった。原則として、腹足綱は殻軸の残存するもの、二枚貝綱は殻頂部が残存するものを同定した。魚類は東北大学考古学研究室(1995)および東北歴史資料館編(1986・1987)に従って部位を選択して同定した。両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類については骨端の有無にかかわらず同定可能な部位すべてを同定した。

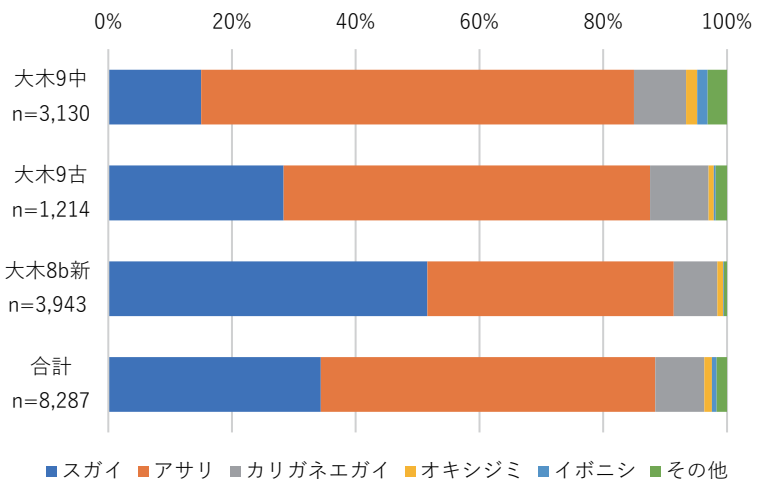
同定した動物遺存体は69分類群、総計14,485点にのぼる。内訳は腹足綱12分類群2,954点、二枚貝綱11分類群5,333点(※MNI)、軟骨魚綱3分類群37点、硬骨魚綱26分類群5,593点、両生綱1分類群1点、爬虫綱2分類群62点、鳥綱5分類群7分類群214点、哺乳綱8分類群291点である(第44～48表)。

#### [貝類]

貝類は水洗資料から計8,287点を同定した。最小個体数(MNI)で見ると、腹足綱ではスガイが圧倒的に多く、2,848点であった。その他にはイボニシ61点、アカニシ19点、ウミニナ7点などが出土している。二枚貝綱で最も多かったのはアサリで4,477点、次いでカリガネエガイ658点、オキシジミ103点、マガキ25点、シオフキ18点、オオノガイ17点を同定した。全体的な組成としてはアサリとスガイの占める割合が高く、基本的にこの2種が主体となっている。層位によってアサリの多い層、スガイの多い層が見られるが、より下位の層位でスガイが多い傾向が認められた。

東北歴史資料館(1986・1987)に従って生息環境ごとに分類すると、アサリやオキシジミなどの内湾砂泥底に生息するものと、スガイ、カリガネエガイなどの内湾岩礁域に生息するものが高い比率を占めていた。さらに時期別に貝類組成を作成したところ、大木8b式では内湾岩礁性が半数以上を占めるが、大木9式には逆に内湾砂泥底性が約7割に増加していた。すなわち、古い時期では内湾岩礁性の貝類が多いが、新しくなるに従って内湾砂泥底性の貝類の比率が高まる傾向があり、組成に大きな変化が生じていることが明らかになった(第88図)。

最も多く出土したアサリについては、分析中の所見として保存状態が非常に悪いことが観察されたため、各層における完形率を検討した。ここでは殻頂部を含めて全体の3分の2以上が残存しているものを「完形」として扱い、集計をおこなった。その結果、全体の完形率は12.8%であり、最も高かった125層でも18.7%にとどまった。このことから、本地点から出土したアサリは著しく破損していることが改めて確認された。



第88図 P32-21区の貝類組成

第43表 台園地点 (P32-21区) 貝類層位別出土一覧表

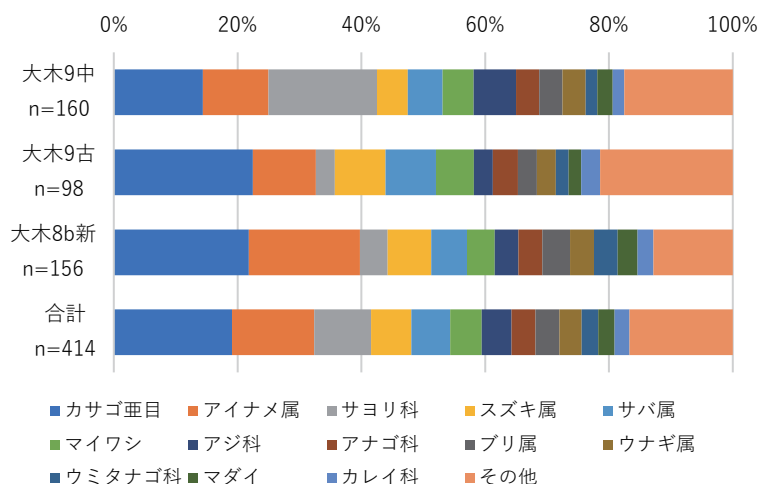
分類群	113層	116層	122層	123層	125層	131層	134層	136層	139層	143層	151層	153層	156層	158層	159層	個体数
<b>腹足綱</b>																
スガイ	10	87	139	75	76	83	187	128	29	276	152	330	320	532	424	2,848
クボガイ		1														1
ヘソアキクボガイ					1		1									2
ウミニナ					4	2		1								7
イボウミニナ					1											1
タマキビ	1							1			1		1			4
ツメタガイ		1		1		2										4
ヒメエソボラ					1			1								2
レイシガイ		1				4										5
イボニシ		15		12	17	9	1	3		1		1		1	1	61
アカニシ	2	3		2	4	5		3								19
<b>二枚貝綱</b>																
カリガネエガイ	3	50	8	62	75	66	29	77	9	30	1	32	29	102	85	658
イガイ			2													2
マガキ	3		2	2	5	1		5	1	1			3		2	25
ヤマトシジミ			3		1											4
オニアサリ			1	2		3		1	1	1			1	1		11
カガミガイ						1		1								2
アサリ	20	196	61	464	508	940	180	464	75	114	20	289	146	476	524	4477
ハマグリ		3	1	2	4	4	1	1								16
オキシジミ	2	19	4	9	14	8	5	4	1	2		7	8	9	11	103
シオフキ		2			3	4		1		1		2		2	3	18
オオノガイ		1	1	3	7	1	1	1	1	1						17
2mm合計	41	379	222	634	721	1,133	405	692	117	427	174	661	508	1,123	1,050	8,287

また、殻高を計測してヒストグラムを作成し、時期ごとのサイズ分布を検討した。先述の通りアサリの完形率が低かったために計測できた資料は合計 189 点と少なかったが、殻高の分布範囲は 16.1～37.9cm でピークは 24～30cm にみられ、平均は 27.6cm との数値が得られた。計測数の少なさから時期差を検討することは難しいものの、中期後半におけるアサリサイズの大まかな傾向をつかめた点では有用なデータと言えよう。

〔魚類〕

魚類は目視資料から 104 点、水洗資料から 5,526 点、計 5,630 点を同定した。同定破片数 (NISP) で最も多く出土したのはサヨリ科で 1,345 点、次いでカサゴ亜目 1,074 点、アイナメ属 1,025 点、ニシン科 687 点、サバ属 330 点、スズキ属 276 点、アジ科 202 点などが多かった。ニシン科は第一椎骨などからマイワシとニシンが含まれていると考えられる (第 44 表)。

貝層サンプルから得られた資料をもとに層位ごとに最小個体数を算定すると、カサゴ亜目が 79 個体で最も多く、次いでアイナメ属 55 個体、サヨリ科 38 個体、スズキ属 27 個体、サバ属 26 個体、マイワシ 21 個体、アジ科 20 個体、ブリ属とアナゴ科が各 16 個体、ウナギ属 15 個体などが多い結果となった。時期別にみると、カサゴ亜目とアイナメ属はいずれの時期においても主体となるが、時期を降るに従って減少する傾向が見られた。一方で、サヨリ科とアジ科 (マアジ) は大木 8b 式には少ないが、大木 9 式中段階になると増加するという変化が見られた。全体的に内湾に生息する魚類が主体となっており、外洋性のマグロ属やマダイなどの魚類は少ないという共通した特徴が見られた。ただし、大木 9 式に増加するサヨリ科とアジ科はいずれも表層性回遊魚であり、大木 9 式にはこうした表層を群れで回遊する小型魚類が比較的多く獲得されたと考えられる (第 89 図)。



第 89 図 P32-21 区の魚類組成

アイナメ属については、奥松島縄文村歴史資料館所蔵の現生標本に基づいて歯骨および第一椎骨の計測値から体長推定式を作成し、体長復元をおこなった。計測数は歯骨 40 点、第一椎骨 33 点である。

まず、歯骨による体長復元の結果では、体長 12～36cm までの個体が含まれていること、体長 24cm 以下の個体が大半を占めており、15～18cm にピークが認められることが分かった。一方、第一椎骨による体長復元では体長 15～30cm までの個体が含まれ、ピークは体長 18～21cm に認められた。両者には若干の差異が見られるものの、体長 12～36cm までの範囲に含まれること、体長 15～24cm の個体が多いという共通した結果が得られた。

#### [爬虫類]

目視資料から 62 点を同定した。すべてウミガメ科である。日本近海にはアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイなど 5 種が生息し、そのうちアカウミガメは宮城県沿岸でも確認されている。標本の不備から種の特定には至らなかったが、甲骨版の破片や四肢骨などが各層からまんべんなく出土している（第 48 表）。

#### [鳥類]

鳥類は目視資料から 101 点、水洗資料から 113 点、計 214 点を同定した。同定破片数で最も多く出土したのはカモ科で 47 点、次いでウ科 30 点、カイツブリ科 14 点、カラス科 5 点、アビ科 4 点、スズメ目 1 点が出土している（第 45 表）。この他に種を特定できなかった椎骨、鎖骨、胸骨、四肢骨の骨幹部が比較的多く含まれている。カモ科は比較標本の不備から一括して同定したが、東北大学考古学研究室（1995）で示された分類法に従って骨格のサイズから A～E タイプに分類した。

カモ A タイプ：マガモ、カルガモ相当（全長 58cm 程度、上腕骨長 90～100mm 程度）

カモ B タイプ：クロガモ、オナガガモ、ヨシガモ相当（全長 47cm 程度、上腕骨長 70～80mm 程度）

カモ C タイプ：スズガモ、オシドリ相当（全長 45cm 程度、上腕骨長 60～70mm 程度）

カモ D タイプ：トモエガモ、ミコアイサ相当（全長 41cm 程度、上腕骨長 50～60mm 程度）

カモ E タイプ：コガモ相当（全長 38cm 程度、上腕骨長 40～50mm 程度）

上記の基準に基づいて分類し、目視資料と水洗資料を合算して最小個体数を算定すると、カモ A～B タイプ（マガモ・カルガモ～クロガモ・オナガガモ・ヨシガモ相当）が 6 個体、カモ C タイプ（スズガモ・オシドリ相当）が 1 個体、カモ C～D タイプ（スズガモ・オシドリ～トモエガモ・ミコアイサ相当）が 1 個体、カモ D～E タイプ（トモエガモ・ミコアイサ～コガモ相当）が 2 個体となる。

#### [哺乳類]

哺乳類は目視資料から 269 点、水洗資料から 22 点、計 291 点を同定した。同定破片数で最も多かったのはニホンジカで 106 点、次いでアシカ科 80 点、イヌ 21 点、イノシシ 19 点、ネズミ科 9 点、ネズミ亜科 2 点、クジラ目とタヌキが 1 点ずつ出土している（第 46・47 表）。

ニホンジカは角の破片が 43 点で約 4 割を占めている。擦痕や加工痕が残されているものが多く、骨角器製作に関わる素材や廃材と推測される。この他に主要四肢骨が出土しているが、頭骨や遊離歯、椎骨、肋骨が少ない傾向が見られる。この傾向はイノシシにも認められ、出土部位に偏りがあるという共通した特徴が見られた。

アシカ科は比較標本の不備から基本的に一括して同定したが、サイズから少なくともニホンアシカとオットセイの 2 種が含まれていると推測される。比較的保存状態の良い頭蓋骨と左下顎骨が 1 点ずつ出土しており、これらはニホンアシカのオスと考えられる。アシカ科はニホンジカとイノシシとは異なり、全身の部位が出土している。イヌは 151～160 層から比較的多く出土している。出土状況に関する記録は残っていないものの、近接する層位からまとまって出土していること、部位の重複がないこと、サイズや成長段階が類似していることから、埋葬犬であった可能性が示唆される。

分類群	部位	113層	116層	122層	123層	125層	131層	134層	136層	139層	143層	151層	153層	156層	158層	159層	合計	総計	
2mm	板鯔亜綱	椎骨	5	3	5	5	1		1		4	1					25	25	
	エイ上目	歯板				2	1											3	3
		椎骨								1								1	1
	トビエイ科	歯板	1		1	1		4						1				8	8
	アナゴ科	主上顎骨		0/1			1/0		0/1		0/1							1/3	4
		歯骨									0/2		1/0			1/1	1/0	3/3	6
		角骨				1/0							0/1					1/1	2
		方骨						0/1										0/1	1
		主鰓蓋骨	1/0		1/0													2/0	2
		前上顎骨+篩骨+鋤骨板							1		1				1			3	3
		第一椎骨					1			1					2			4	4
		腹椎	1	1	3	1		6	2	2	4	5	2		7	1	6	41	41
		尾椎	1	3	2	2	2	5	2	4	16	10	14		8	2	14	85	85
		椎骨		1								2			2			5	5
	ウナギ属	歯骨	0/1										1/0					1/1	2
		角骨	0/1								0/1			1/0				1/2	3
		方骨								0/1								0/1	1
		前上顎骨+篩骨+鋤骨板							1				1					2	2
		基後頭骨										1		1				2	2
		第一椎骨			1													1	1
		腹椎	1			1		1	2	1	4		2	4	2	4	4	22	22
		尾椎		1		1	6	2	11	3	12	2	8	9	9	4	11	79	79
	椎骨													2			2	2	
	ニシン科	腹椎	11	6	20	17	32	42	48	28	25	22	13	12	12	7	10	305	305
		尾椎	16	8	28	20	26	42	63	64	23	18	9	20	16	7	22	382	382
ニシン	方骨					1/0											1/0	1	
	基後頭骨					1											1	1	
	第一椎骨			1		1		4	1			1					8	8	
	第二椎骨					1		1							1		3	3	
マイワシ	主上顎骨			1/0				1/0									2/0	2	
	角骨				1/0				1/0				0/1				2/1	3	
	基後頭骨		1			1							1				3	3	
	第一椎骨	2	1	2		1	1		4			1		1			13	13	
	第二椎骨	1	1			1	1	2	1		2	2	2				13	13	
カタクチイワシ	第一椎骨					1											1	1	
	腹椎					1										1	2	2	
	尾椎	2	1			2	2	1									8	8	
サケ科	椎骨							1									1	1	
ボラ科	歯骨												1/0				1/0	1	
	舌顎骨												1/0				1/0	1	
	肩甲骨							1/0									1/0	1	
	尾椎							2									2	2	
サヨリ科	前上顎骨	3/3	2/1		2/1	1/2		0/1									8/8	16	
	主上顎骨	0/1	1/3		1/3	1/2		0/1									3/10	13	
	歯骨	1/1	2/1			1/0				1/0							5/2	7	
	角骨		1/0														1/0	1	
	口蓋骨			2/0													2/0	2	
	方骨	1/0	0/1	1/1		2/2	1/0	1/0									6/4	10	
	舌顎骨	0/1			0/2	5/1											5/4	9	
	前鰓蓋骨					0/1											0/1	1	
	主鰓蓋骨	2/0	1/0	3/2	2/5	1/2	1/1			0/1	1/0						11/11	22	
	角舌骨		1/0														1/0	1	
	上舌骨		0/1														0/1	1	
	前頭骨	0/1	1/1	0/1													1/3	4	
	鋤骨				2												2	2	
	基後頭骨			1	1						1						3	3	
	副蝶形骨		1				1						1				3	3	
	第一椎骨	6	6	5	1	2		1				2			1		24	24	
	第二椎骨	2	2														4	4	
	腹椎	142	247	332	66	63	24	12	13	12	17	12	11	4	6	8	969	969	
	尾椎	44	65	79	21	9	7		2	1	2		6	2			238	238	
尾部棒状骨	1		2	2	2									1		8	8		
咽頭骨		2	1	3												6	6		

第 44 表 台田地点 (P32-21 区) 魚類集計表

分類群	部位	113層	116層	122層	123層	125層	131層	134層	136層	139層	143層	151層	153層	156層	158層	159層	合計	総計			
2mm	板鰓垂綱	椎骨	5	3	5	5	1		1		4	1					25	25			
	エイ上目	歯板				2	1											3	3		
		椎骨							1									1	1		
	トビエイ科	歯板	1		1	1		4						1				8	8		
	アナゴ科	主上顎骨		0/1			1/0		0/1		0/1							1/3	4		
		歯骨								0/2			1/0			1/1	1/0	3/3	6		
		角骨				1/0							0/1					1/1	2		
		方骨						0/1										0/1	1		
		主鰓蓋骨	1/0		1/0														2/0	2	
		前上顎骨+篩骨+鋤骨板							1		1				1				3	3	
		第一椎骨					1			1					2				4	4	
		腹椎	1	1	3	1		6	2	2	4	5	2		7	1	6	41	41		
		尾椎	1	3	2	2	2	5	2	4	16	10	14		8	2	14	85	85		
		椎骨		1								2			2			5	5		
	ウナギ属	歯骨	0/1										1/0					1/1	2		
		角骨	0/1								0/1			1/0					1/2	3	
		方骨								0/1									0/1	1	
		前上顎骨+篩骨+鋤骨板							1					1					2	2	
		基後頭骨										1			1				2	2	
		第一椎骨			1														1	1	
		腹椎	1			1			1	2	1	4		2	4	2	4	22	22		
		尾椎		1		1	6	2	11	3	12	2	8	9	9	4	11	79	79		
	椎骨													2				2	2		
	ニシン科	腹椎	11	6	20	17	32	42	48	28	25	22	13	12	12	7	10	305	305		
		尾椎	16	8	28	20	26	42	63	64	23	18	9	20	16	7	22	382	382		
	ニシン	方骨					1/0											1/0	1		
		基後頭骨					1												1	1	
		第一椎骨			1		1		4	1			1						8	8	
		第二椎骨				1		1							1				3	3	
	マイワシ	主上顎骨			1/0			1/0											2/0	2	
		角骨				1/0			1/0				0/1						2/1	3	
		基後頭骨		1			1						1						3	3	
		第一椎骨	2	1	2		1	1		4			1		1				13	13	
		第二椎骨	1	1			1	1	2	1		2	2	2					13	13	
	カタクチイワシ	第一椎骨				1													1	1	
		腹椎				1											1		2	2	
		尾椎	2	1			2	2	1										8	8	
	サケ科	椎骨							1										1	1	
	ボラ科	歯骨											1/0						1/0	1	
		舌顎骨											1/0						1/0	1	
		肩甲骨							1/0										1/0	1	
		尾椎							2										2	2	
	サヨリ科	前上顎骨	3/3	2/1		2/1	1/2		0/1										8/8	16	
		主上顎骨	0/1	1/3		1/3	1/2		0/1											3/10	13
		歯骨	1/1	2/1			1/0				1/0									5/2	7
		角骨		1/0																1/0	1
		口蓋骨			2/0															2/0	2
		方骨	1/0	0/1	1/1		2/2	1/0	1/0											6/4	10
		舌顎骨	0/1			0/2	5/1													5/4	9
		前鰓蓋骨					0/1													0/1	1
		主鰓蓋骨	2/0	1/0	3/2	2/5	1/2	1/1		0/1	1/0									11/11	22
		角舌骨		1/0																1/0	1
		上舌骨		0/1																0/1	1
		前頭骨	0/1	1/1	0/1															1/3	4
		鋤骨				2														2	2
		基後頭骨			1	1						1								3	3
		副蝶形骨		1				1						1						3	3
		第一椎骨	6	6	5	1	2		1				2			1				24	24
		第二椎骨	2	2																4	4
		腹椎	142	247	332	66	63	24	12	13	12	17	12	11	4	6	8	969	969		
		尾椎	44	65	79	21	9	7		2	1	2		6	2			238	238		
		尾部棒状骨	1		2	2	2								1				8	8	
	咽頭骨		2	1	3														6	6	

分類群	部位	113層	116層	122層	123層	125層	131層	134層	136層	139層	143層	151層	153層	156層	158層	159層	合計	総計	
Zmn	フリ属	腹椎	1	1			1	1	2	3	1	1	1	3		1	16	16	
		尾椎	1	1		1	3	8	4	8	4	3	2	4		1	40	40	
	タイ科	角骨	1/0								1/0		1/0			1/0		4/0	4
		口蓋骨							1/0									1/0	1
		方骨	0/2		0/1					0/1		0/2						0/6	6
		舌顎骨							0/2									0/2	2
		前鰓蓋骨			0/1													0/1	1
		主鰓蓋骨												0/1		1/0		1/1	2
		上舌骨			1/0													1/0	1
		肩甲骨											1/1			0/1	1/0	2/2	4
		副蝶形骨	1			1													2
第一椎骨					1													1	1
	腹椎								1	1				1			3	3	
	尾椎		1		1	2			1		1		1	1	1	1	10	10	
クロダイ属	前上顎骨	1/0															1/0	1	
	主上顎骨	1/0															1/0	1	
マダイ	前上顎骨			0/1													0/1	1	
	主上顎骨			1/0						1/0			1/0	1/0	1/0		5/0	5	
	歯骨		1/0	1/0	1/0					0/1		0/1					3/2	5	
	角骨								1/0								0/1	1/1	2
	口蓋骨													0/1			0/1	1	
	舌顎骨		1/0	1/0													2/0	2	
	前頭骨		1/1														1/1	2	
	上後頭骨											1					1	1	
ニベ科	腹椎													1			1	1	
ウミタナゴ科	主上顎骨												1/0				1/0	1	
	歯骨												1/0				1/0	1	
	角骨		0/1					1/0				1/0					2/1	3	
	肩甲骨											1/0		1/0			2/0	2	
	第一椎骨						1										1	1	
	腹椎					1	1			1	3		6	1	3	4	20	20	
	尾椎															1	1	1	
	尾部棒状骨											1					1	1	
ベラ科	尾椎						1		1								2	2	
	咽頭骨			1													1	1	
アイナメ属	前上顎骨	2/1	2/3	2/0	1/0	1/1	0/1	2/0	0/2	1/1	2/0	4/5	0/2	2/3	2/1	3/0	24/20	44	
	主上顎骨	2/0	3/3	2/1			1/1	3/1	1/0	0/1	1/4	1/6	3/2	0/1	2/3	1/1	20/24	44	
	歯骨	1/1	0/1	2/2	2/0		1/2	1/0		2/3	1/3	1/6	3/1	1/3	0/1	1/2	16/25	41	
	角骨	0/2	1/0	2/1		1/0	1/0	1/0	2/0	2/3	2/7	5/2	2/2	2/1	1/2	1/1	23/21	44	
	口蓋骨	0/1		0/2		0/1	1/1	0/2	1/0	1/0	1/3	0/1	1/0		1/0	0/2	6/13	19	
	方骨	1/0	1/1	0/4		2/2	2/1			4/1	2/2	4/3	2/1	2/2	1/2	1/1	22/20	42	
	舌顎骨		1/1	1/0	1/0	0/1	0/1		0/2	1/0		2/1		1/0			7/6	13	
	前鰓蓋骨					1/0											1/0	1	
	主鰓蓋骨	0/1	1/2	2/1	1/0		0/1	1/1	1/0	3/1	1/0	1/0	2/0	0/1		1/0	14/8	22	
	間鰓蓋骨	0/1	0/1	0/2			1/1	1/0	2/0	0/1	0/1		1/0	3/0		2/0	10/7	17	
	角舌骨		0/2	0/3		3/1	1/0	1/2	0/1	2/1	2/2	3/2	2/4	3/3	0/1	2/1	19/23	42	
	上舌骨			2/3	1/0	1/2	0/1	1/1		0/2	3/1	4/6	2/5	0/1	1/2	1/1	16/25	41	
	前頭骨								0/1	0/1			1/0		0/1	0/1	1/4	5	
	鋤骨	2		3	1		3	3	1	4	4	1	1		2	1	26	26	
	基後頭骨	1	2	2						1	1	1	3	1	1			12	12
	副蝶形骨		2			1	1			1	1	2	2	1		1	12	12	
	肩甲骨				1/0								0/1	1/0		1/0	3/1	4	
	後側頭骨		0/1	2/1	0/1	0/2	0/3	1/1	2/2	2/1	3/2	2/2	1/2	2/3	1/0	1/0	17/21	38	
	上擬鎖骨		2/1	1/0	1/0	1/0		2/1	1/3	0/1	2/0	1/3	0/1	3/3	4/1	2/0	20/14	34	
	第一椎骨	2	1	4	2	2		2	3	2	4	5	1	3	2	2	35	35	
	第二椎骨		2														2	2	
	腹椎	3	9	15	3	3	2	9	6	5	12	9	2	7	7	9	101	101	
	尾椎	8	26	51	5	11	11	38	17	48	38	33	22	24	19	22	373	373	
	尾部棒状骨			2	1			2	1	1		1	3	1			12	12	
カマス属	第一椎骨	1															1	1	
	腹椎			3	1						1	1		1			7	7	
	尾椎											1					1	1	
サバ属	前上顎骨			1/0		0/1	1/0	0/2				0/1		1/1	0/1		3/6	9	
	主上顎骨	0/1	1/0			1/0		0/1	1/0	0/1			1/0	1/0	0/1	1/1	6/5	11	

	分類群	部位	113層	116層	122層	123層	125層	131層	134層	136層	139層	143層	151層	153層	156層	158層	159層	合計	総計	
2mm	サバ属	歯骨			1/1			1/0	1/0		1/2	0/1	0/2	1/0		1/0		6/6	12	
		角骨						2/0		4/0	1/0	1/0			1/0	0/1			9/1	10
		方骨					1/1	1/1							0/3	0/1			2/6	8
		舌顎骨													1/0		1/0		2/0	2
		主鰓蓋骨													0/1				0/1	1
		鋤骨													1				1	1
		肩甲骨													0/1				0/1	1
		腹椎	5	5	4	3	6	7	14	13	14	6	3	7	11	3	10	111	111	
		尾椎	9	5	5	7	11	26	25	17	10	13	5	6	11	2	4	156	156	
	尾部棒状骨			2					2	2	1			1				8	8	
	マグロ属	尾椎							1										1	1
	カツオ	方骨												0/1					0/1	1
	ヒラメ科	前上顎骨		0/1															0/1	1
		腹椎								1									1	1
		尾椎			2				2	1								1	6	6
	カレイ科	前上顎骨		0/1															0/1	1
		主上顎骨							1/0					1/0					2/0	2
		鋤骨								1/0				1					1	1
		後側頭骨																	1/0	1
		上擬鎖骨									1/0			1/0					2/0	2
		第一椎骨							1										1	1
		腹椎								1									1	1
尾椎		1	1	2				1	2	3	4	6	2					22	22	
尾部棒状骨										1								1	1	
第一血管棘												1	1				2	2		
カワハギ科	第一背鰭棘	1		1										1				3	3	
	腹椎												1					1	1	
	尾椎												1		1			2	2	
	尾部棒状骨							1										1	1	
フグ科	前上顎骨		1/0							0/1			1/0					2/1	3	
	尾椎										1							1	1	
2mm合計			397	580	803	232	281	263	431	321	422	399	337	293	320	193	254	5,526	5,526	

※左右があるものは“左/右”で示した。

### [小結]

台田地点 P32 - 21 区の発掘調査では、縄文時代中期中葉から後葉にかけての貝層が検出され、保存状態の良好な動物遺存体が多量に出土した。時間的制約から層位を限定して分析をおこなったが、里浜貝塚において中期後半の動物遺存体の定量分析はこれまで実施されておらず、大木 8b 式から大木 9 式までの動物資源利用の変遷を捉えることができた意義は大きい。

貝類ではアサリとスガイを主体とし、層ごとに若干の差異はあるものの、内湾の岩礁に生息する貝類が減少して内湾砂泥底性の貝類が増加するという組成の層位的な変化が認められた。魚類ではカサゴ亜目、アイナメ属、サヨリ科などが多く、内湾の岩礫底や表層を回遊する魚類の占める割合が高かった。また、上層においてサヨリ科とアジ科の比率が高まっていることが確認された。鳥類はカモ科、ウ科、カイツブリ科などの河口から沿岸に生息するものが多かった。哺乳類はニホンジカとともにアシカ科が比較的多く出土している点が注目される。

分類群	部位	104層	107層	108層	109層	110層	113層	114層	115層	116層	117層	119層	122層	124層	125層	129層	134層	135層	
四 歯	カサゴ亜目	前鰓蓋骨												0/1					
	スズキ属	前上顎骨								1/0									
		歯骨					0/1												
		方骨					1/0												
		主鰓蓋骨					0/1												1/0
	ブリ属	歯骨									0/1								
	タイ科	角骨						0/1											
		方骨			0/1		1/0		1/0										
		前鰓蓋骨						2/1	0/1										
		副蝶形骨						1											
		第一椎骨								1									
		尾椎																	1
	マダイ	主上顎骨						2/1	1/0	1/0	1/0	0/1	1/0	0/1					
		前上顎骨						0/1	3/0		1/1			1/0				1/0	
		歯骨					0/1		0/1		1/0	0/1	1/0	3/1					
		角骨		0/1		0/1		1/1				1/1		2/0					
		口蓋骨						1/0				1/1							
		舌顎骨									1/0								
		主鰓蓋骨						1/0											
		前頭骨			1			1											
上後頭骨		1				1	2												
	神経頭蓋											1							
マグロ属	腹椎																	1	
	尾椎												1			1		1	
不明魚類	尾椎														1				
合計		1	1	2	1	3	19	8	2	6	7	3	9	1	1	1	1	4	

分類群	部位	137層	142層	143層	144層	145層	146層	147層	151層	153層	155層	156層	163層	164層	165層	166層	169層	170層	
四 歯	サヨリ科	腹椎					1												
	カサゴ亜目	後側頭骨					0/1												
	スズキ属	歯骨					0/1												
		角骨				0/1													
		後側頭骨											1/0						
	タイ科	口蓋骨										2/0							
		舌顎骨										0/1							
		副蝶形骨	1																
		腹椎									1								
	マダイ	主上顎骨	0/1				1/0							1/0	1/0			0/1	1/0
		前上顎骨																0/1	1/0
		歯骨			1/0	1/0			0/1				1/0						0/2
		前頭骨														1			
		上後頭骨											1				1		
		上擬鎖骨											1/0						0/1
	クロダイ属	前上顎骨	0/1																
		歯骨		0/1															
	アイナメ属	副蝶形骨							1										
	マグロ属	尾椎										1			1				
	合計		3	1	1	2	1	3	1	1	1	4	4	1	2	1	1	2	5
目視合計																		104	

※左右があるものは“左/右”で示した。

第 45 表 台園地点 (P32-21 区) 鳥類集計表

分類群	部位	部分	102	113	114	121	122	123	124	125	127	129	131	134	135	136	137	139	142	
アビ科	手根中手骨	近位端～遠位端																		
	上腕骨	近位端～遠位端					2/0													
	大腿骨	近位端～遠位端							0/1											
ウ科	烏口骨	遠位端																1/0		
		近位端																		
	尺骨	近位端									0/1									0/1
		骨幹部		0/1													1/0		1/0	
	手根中手骨	近位端～遠位端	0/1															1/0		
	上腕骨	遠位端																		1/0
		近位端																		
骨幹部																		0/1		
大腿骨	近位端～遠位端														1/2					
	骨幹部														1/0					
脛足根骨	骨幹部																			
ウ科？	尺骨	骨幹部												1/0						
	脛足根骨	骨幹部																		
カイツブリ科	尺骨	近位端																		
		近位端～遠位端																		
	橈骨	遠位端																		
カモ科	烏口骨	遠位端														0/1				
		近位端													0/1					
		近位端～遠位端					0/1										0/2			
	肩甲骨	近位端																	0/2	
		尺骨	遠位端											0/1						
	尺骨	近位端			0/1															
		近位端～遠位端													1/0					
		手根中手骨	近位端～遠位端														1/0	0/1		
	上腕骨	遠位端																	2/0	1/0
近位端																				
近位端～遠位端											0/1		1/0					0/1		
足根中足骨	骨幹部			1/0																
脛足根骨	遠位端							1/0							1/0					
カモ科？	尺骨	骨幹部																		
	上腕骨	骨幹部	0/1													1/1		0/1		
	脛足根骨	遠位端																		
カラス科	尺骨	近位端		0/1																
	足根中足骨	近位端		1/0																
	脛足根骨	近位端					0/1													
カラス科？	尺骨	骨幹部						1/0												
	脛足根骨	遠位端					1/0													
不明鳥類	烏口骨	遠位端																		
	寛骨	寛骨臼																		
		座骨					0/1													
	四肢骨	骨幹部					(1)												(2)	
	尺骨	骨幹部	1/0																1/0 (1)	
	上腕骨	骨幹部																(1)		
	上腕骨？	骨幹部																	(1)	
	足根中足骨	遠位端																		
		近位端				(1)														
	大腿骨	近位端																		
	大腿骨？	近位端																		
脛足根骨	近位端																			
	骨幹部									(1)										
部位不明	骨幹部																			
目視合計			3	3	2	1	7	1	2	1	1	1	1	3	7	6	2	10	8	

分類群	部位	部分	143	144	145	146	147	149	151	153	155	156	157	158	162	163	164	166	総計	
アビ科	手根中手骨	近位端～遠位端						0/1											1	
	上腕骨	近位端～遠位端																	2	
	大腿骨	近位端～遠位端																	1	
ウ科	烏口骨	遠位端																	1	
		近位端					0/1												1	
	尺骨	近位端	1/0																	3
		骨幹部																1/1		5
	手根中手骨	近位端～遠位端																	2	
	上腕骨	遠位端		0/1									0/1							2
		近位端																		1
		骨幹部																		1
	大腿骨	近位端～遠位端														0/1				4
骨幹部																			1	
脛足根骨	骨幹部	1/0																	1	
ウ科？	尺骨	骨幹部								0/1									2	
	脛足根骨	骨幹部			0/1														1	
カイツブリ科	尺骨	近位端				1/0													1	
		近位端～遠位端												1/0					1	
	橈骨	遠位端														1/0			1	
カモ科	烏口骨	遠位端																	1	
		近位端																	1	
		近位端～遠位端																	3	
	肩甲骨	近位端																		2
		尺骨	遠位端		1/0															2
	尺骨	近位端																		1
		近位端～遠位端																		1
		手根中手骨	近位端～遠位端					1/1			0/1									5
	上腕骨	遠位端			1/0							1/1								6
		近位端												0/1						1
近位端～遠位端																			3	
足根中足骨	骨幹部																	1		
脛足根骨	遠位端																	2		
カモ科？	尺骨	骨幹部	0/1																1	
	上腕骨	骨幹部																	4	
	脛足根骨	遠位端			1/0														1	
カラス科	尺骨	近位端																	1	
	足根中足骨	近位端																	1	
	脛足根骨	近位端																	1	
カラス科？	尺骨	骨幹部																	1	
	脛足根骨	遠位端																	1	
不明鳥類	烏口骨	遠位端									1/0								1	
	寛骨	寛骨臼			0/1															1
		座骨																		1
	四肢骨	骨幹部		(1)	(1)			(1)	(2)				(1)						9	
	尺骨	骨幹部											1/0			1/0			5	
	上腕骨	骨幹部								0/1	(1)								3	
	上腕骨？	骨幹部															(1)		2	
	足根中足骨	遠位端												(1)						1
		近位端																		1
	大腿骨	近位端										1/0							1	
	大腿骨？	近位端	(1)																1	
	脛足根骨	近位端															(1)			1
		骨幹部																		1
部位不明	骨幹部						(1)												1	
目視合計			4	2	4	3	3	3	2	2	3	4	3	2	1	3	2	1	101	

分類群	部位	部分	113層	116層	122層	123層	125層	131層	134層	136層	139層	143層	151層	153層	156層	158層	159層	総計	
ウ科	烏口骨	近位端～遠位端							0/1									1	
	尺骨	近位端									0/1							1	
	上腕骨	遠位端																1/0	1
		近位端										0/1							1
	橈骨	近位端											0/1	0/1					2
	脛足根骨	遠位端										0/1							1
骨幹部															1			1	
カイツブリ科	烏口骨	近位端				(1)												1	
	尺骨	遠位端							1/0									1	
		近位端						1/0										1/0	2
	上腕骨	近位端							1/0									1	
	橈骨	遠位端															0/1		1
		近位端								1/0		0/2							3
脛足根骨	遠位端									0/1								1	
	近位端					0/1												1	
カモ科	烏口骨	近位端～遠位端									1/0							1	
	胸骨	外測位														1		1	
	肩甲骨	近位端				(1)		1/0		1/0						1/0		4	
	尺骨	近位端								0/1			0/1					2	
	手根中手骨	近位端～遠位端											1/1					2	
	上腕骨	遠位端											0/1						1
		近位端													0/1				1
	足根中足骨	近位端									0/2							2	
橈骨	近位端							0/1									1		
脛足根骨	遠位端											1/0			0/1	1/0	3		
カラス科	尺骨	遠位端		1/0														1	
	大腿骨	遠位端			0/1													1	
スズメ目	上腕骨	近位端										0/1						1	
不明鳥類	烏口骨	遠位端			0/1													1	
		近位端～遠位端													0/1			1	
		骨幹部															0/1		1
	寛骨	寛骨臼								1/0							0/1		2
		骨幹部	0/1																1
	胸骨	外測位						1						1					2
		外測位後方								1				1			1		3
		前面関節部				1						1							2
	肩甲骨	近位端			1/0													1	
	鎖骨	破片							1									1	
	指骨	遠位端					1												1
		完存		(1)			2		1	(2)					(1)				7
		近位端																	1
	尺骨	遠位端											1/0	0/1					2
		骨幹部								1									1
		尺側手根骨	完存					0/1						1/0					2
	手根中手骨	遠位端												0/1					1
		近位端													0/1	0/1			2
		近位端～遠位端												0/1					1
	上腕骨	近位端										1/0							1
		骨幹部								0/1			1	0/1					3
	足根中足骨	遠位端									1/0							1	
	大腿骨	遠位端									1/0			1/0					2
		骨幹部									0/1								1
	椎骨	胸椎			2	1					1		1	2					7
		尾椎		1															1
		頸椎	1			1		1						1	1		1		6
	複合仙骨	破片	1				1									2		4	
	橈骨	遠位端														1/0		1	
橈側手根骨	完存										(1)						1		
脛足根骨	遠位端	0/1									0/1		1/1			2/0		6	
	骨幹部				1/1													2	
脛足根骨？	骨幹部	(1)																1	
腓骨	近位端			1/0							1							2	
2mm合計			5	3	9	4	6	5	10	5	17	6	16	4	5	14	4	113	

第46表 台園地点 (P32-21区) 哺乳類集計表①

分類群	部位	部分	102	104	106	107	108	109	110	111	112	113	114	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125		
アシカ科	寛骨	寛骨臼																							
		腸骨～寛骨臼																						1/0	
		破片																							
	寛骨?	骨幹部							1															(1)	
	四肢骨	骨幹部																	(1)		(1)				
	指骨	完存																							
		滑車切痕																							
	上腕骨	近位端～遠位端																							
		骨幹部																							
	大腿骨	近位端～遠位端																							
	椎骨	環椎																							
		関節突起																							
		胸椎																							
		腰椎							1							1									
		軸椎							1																
		椎体					1												2				1		
		椎体版																							
		破片																							
		頸椎																							
		頭蓋骨	破片						1																
	部位不明	完存						(1)			(1)														
		骨幹部																		(1)					
		破片																							
肋骨	近位端																						(1)		
	骨幹部																			(3)		(2)	(5)		
橈骨	完存																				0/1				
橈骨?	遠位端?																						(1)		
	近位端											1													
脛骨	骨幹部																					(1)			
腓骨?	骨幹部																								
遊離歯	犬歯																								
アシカ科?	肩甲骨	破片																							
ニホンアシカ	頭蓋骨	一部欠損																					1		
	下顎骨	下顎体																							
イヌ	下顎骨	下顎体																							
	距骨	完存																							
		遠位端																							
		近位端～遠位端																							
	上腕骨	骨幹部																							
		近位端～遠位端																							
	大腿骨	骨幹部																							
		近位端～遠位端																							
	第3中手骨	近位端～遠位端																							
	第3中足骨	近位端～遠位端																							
	第4中足骨	近位端																							
	第5中足骨	近位端～遠位端																							
		遠位端																							
	中手骨or中足骨	完存																							
		環椎																							
	椎骨	軸椎																							
遠位端																									
脛骨	近位端～遠位端																								
	完存																								
踵骨	完存																								
タヌキ	尺骨	滑車切痕							1/0																
ネコ目	遊離歯	犬歯										1													
イノシシ	寛骨	腸骨～寛骨臼																							
		近位端～遠位端																						(1)	
	肩甲骨	遠位端																							
	尺骨	滑車切痕																							
		近位端																						1/0	
		骨幹部																							
	上腕骨	遠位端								0/1															
近位端									0/1																
第4中手骨	近位端～遠位端																								

分類群	部位	部分	126	127	128	129	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147		
アシカ科	寛骨	寛骨臼							0/1																
		腸骨～寛骨臼																							
		破片			(1)																				
	寛骨？	骨幹部							(1)																
	四肢骨	骨幹部						(1)					(3)												
	指骨	完存											(1)												
	尺骨	滑車切痕							1/0																
		近位端～遠位端																							
	上腕骨	近位端～遠位端									1/0														
		骨幹部															1/0								
	大腿骨	近位端～遠位端																0/1							
	椎骨	環椎																						1	
		関節突起									1												3		
		胸椎																1							
		腰椎																1							
		軸椎																							
		椎体																1							
		椎体版									3														
		破片												2											
		頸椎																	1						
		頭蓋骨	破片																						
	部位不明	完存																							
		骨幹部																							
破片																									
肋骨	近位端							(2)										(1)							
	骨幹部						(2)	(5)			(1)														
橈骨	完存																								
橈骨？	遠位端？																								
	近位端																								
脛骨	骨幹部																								
腓骨？	骨幹部																								
遊離歯	犬歯																(1)								
アシカ科？	肩甲骨	破片							(1)																
ニホンアシカ	頭蓋骨	一部欠損																							
	下顎骨	下顎体																							
イヌ	下顎骨	下顎体																							
	距骨	完存																							
	上腕骨	遠位端																							
		近位端～遠位端																							
		骨幹部																							
	大腿骨	近位端～遠位端																							
		骨幹部																							
	第3中手骨	近位端～遠位端																							
	第3中足骨	近位端～遠位端																							
	第4中足骨	近位端																							
		近位端～遠位端																							
	第5中足骨	近位端～遠位端																							
	中手骨or中足骨	遠位端																							
	椎骨	環椎																							
		軸椎																							
	脛骨	遠位端																							
近位端～遠位端																									
踵骨	完存																								
タヌキ	尺骨	滑車切痕																							
ネコ目	遊離歯	犬歯									(1)														
イノシシ	寛骨	腸骨～寛骨臼															0/1								
	基節骨	近位端～遠位端																							
	肩甲骨	遠位端								1/0															
	尺骨	滑車切痕																1/0						0/1	
		近位端																							
		骨幹部												1/0											
	上腕骨	遠位端																							
		近位端																							
第4中手骨	近位端～遠位端																				0/1				

分類群	部位	部分	148	149	150	151	152	153	155	156	157	158	160	161	162	163	164	165	166	169	170	総計	
アシカ科	寛骨	寛骨臼																				1	
		腸骨～寛骨臼																					1
		破片																					1
	寛骨？	骨幹部																					3
	四肢骨	骨幹部		(1)																			7
	指骨	完存		(1)																			2
	尺骨	滑車切痕																					1
		近位端～遠位端			1/0																		1
	上腕骨	近位端～遠位端																					1
		骨幹部																					1
	大腿骨	近位端～遠位端																					1
	椎骨	環椎																					1
		関節突起																					4
		胸椎												1									2
		腰椎																					3
		軸椎																					1
		椎体																					5
		椎体版					1																4
		破片																					2
		頸椎																					1
		頭蓋骨	破片																				1
	部位不明	完存																					2
		骨幹部																	(1)				2
		破片				(1)																(1)	2
	肋骨	近位端																					4
		骨幹部																					18
	橈骨	完存																				1	
橈骨？	遠位端？																					1	
	近位端																					1	
脛骨	骨幹部																					1	
腓骨？	骨幹部													(1)								1	
遊離歯	犬歯																					1	
アシカ科？	肩甲骨	破片																				1	
ニホンアシカ	頭蓋骨	一部欠損																				1	
	下顎骨	下顎体			1/0																	1	
イヌ	下顎骨	下顎体							0/1													1	
	距骨	完存								0/1												1	
	上腕骨	遠位端								0/1													1
		近位端～遠位端															0/1						1
		骨幹部											1/0										1
	大腿骨	近位端～遠位端											1/0									0/1	1
		骨幹部											1/0									0/1	2
	第3中手骨	近位端～遠位端							1/0													1	
	第3中足骨	近位端～遠位端				1/0																1	
	第4中足骨	近位端									0/1												1
		近位端～遠位端				1/0																	1
	第5中足骨	近位端～遠位端				1/0																1	
	中手骨or中足骨	遠位端							(1)													1	
	椎骨	環椎								1													1
		軸椎								1													1
	脛骨	遠位端									1/1												2
		近位端～遠位端								0/1													1
踵骨	完存								0/1	1/0												2	
タヌキ	尺骨	滑車切痕																				1	
ネコ目	遊離歯	犬歯																				2	
イノシシ	寛骨	腸骨～寛骨臼																				1	
	基節骨	近位端～遠位端																				1	
	肩甲骨	遠位端											0/1									2	
	尺骨	滑車切痕																					2
		近位端																					1
		骨幹部																					1
	上腕骨	遠位端																					1
		近位端																					1
	第4中手骨	近位端～遠位端																				1	

分類群	部位	部分	102	104	106	107	108	109	110	111	112	113	114	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	
イノシシ	中手骨or中足骨	遠位端																						
	遊離歯	下顎第3切歯?																						
	橈骨	遠位端																						
		骨幹部																						
	脛骨	近位端																			0/1			
	踵骨	近位端~遠位端																0/1						
イノシシ?	大腿骨	近位端~遠位端																						
	末節骨	完存										(1)												
シカ/イノシシ	寛骨	座骨+寛骨臼																						
	四肢骨	骨幹部	(1)										(1)			(1)		(1)	(1)	(1)				
	大腿骨?	骨幹部																						
	肋骨	骨幹部																				(1)		
	脛骨	近位端																						
		骨幹部																						
ニホンジカ	基節骨	完存																		(1)				
	距骨	完存										1/0												
	肩甲骨	遠位端						0/1															1/0	
		骨幹部																						
	尺骨	近位端																						
	上腕骨	遠位端													0/1							1/0		
		近位端								0/1														
	大腿骨	遠位端																						0/1
		近位端																						
		骨幹部																					0/1	
	中手骨or中足骨	骨幹部																					(1)	
	中足骨	完存																						
		近位端																						
		骨幹部											1											
	椎骨	頸椎																						
	橈骨	遠位端																			1/0			
		近位端																						
脛骨	遠位端																							
	近位端																	1/0						
	近位端~遠位端													0/1										
	骨幹部									0/1														
踵骨	一部欠損																							
	完存																							
角	破片	3	1	1	1	1	1	2		1	1					1				3	1	1	2	
ニホンジカ?	上腕骨	骨幹部																						
	大腿骨	近位端																						
		骨幹部																						
	脛骨	遠位端																						
		近位端																						
骨幹部																							0/1	
クジラ目	椎骨	椎体																						
目視合計			3	4	1	2	5	2	7	2	1	6	2	2	3	1	2	1	6	6	10	4	15	

分類群	部位	部分	126	127	128	129	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147		
イノシシ	中手骨or中足骨	遠位端																			(1)				
	遊離歯	下顎第3切歯?																			0/1				
	橈骨	遠位端																					0/1		
		骨幹部																							
	脛骨	近位端																							
	踵骨	近位端~遠位端																							
イノシシ?	大腿骨	近位端~遠位端																							
	末節骨	完存																							
シカ/イノシシ	寛骨	座骨+寛骨臼																							
	四肢骨	骨幹部	(1)		(1)	(1)	(1)						(3)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)					(1)		
	大腿骨?	骨幹部																							
	肋骨	骨幹部				0/1		1/0					(1)	(1)								(1)	(1)		
	脛骨	近位端							0/1		0/1														
		骨幹部																							
ニホンジカ	基節骨	完存																							
	距骨	完存																							
	肩甲骨	遠位端				1/0	1/0					1/0												1/0	
		骨幹部																0/1							
	尺骨	近位端																							
	上腕骨	遠位端																					0/1		
		近位端																							
	大腿骨	遠位端					1/0										1/0								
		近位端							0/1																
		骨幹部														0/1	0/1								
	中手骨or中足骨	骨幹部																							
	中足骨	完存										1/0													
		近位端																							
		骨幹部																						(1)	
	椎骨	頸椎					1												1						
	橈骨	遠位端				0/1								1/0											
		近位端												1/0											
脛骨	遠位端		0/1		1/0																				
	近位端																								
	近位端~遠位端																					1/0			
	骨幹部																								
踵骨	一部欠損			0/1																					
	完存		1/0		0/1																				
角	破片	2						1		2						1		3	2	1	2				
ニホンジカ?	上腕骨	骨幹部													1/0										
	大腿骨	近位端																							
		骨幹部														1/0						1/0			
	脛骨	遠位端				1/0																			
		近位端																							
	骨幹部																								
クジラ目	椎骨	椎体								1															
目視合計			4	1	3	7	6	11	4	8	6	4	11	1	4	4	12	3	4	5	9	4	3		

分類群	部位	部分	148	149	150	151	152	153	155	156	157	158	160	161	162	163	164	165	166	169	170	総計	
イノシシ	中手骨or中足骨	遠位端																				1	
	遊離歯	下顎第3切歯?																				1	
	橈骨	遠位端																					1
		骨幹部								1/0													1
	脛骨	近位端																					1
	踵骨	近位端~遠位端																				1	
イノシシ?	大腿骨	近位端~遠位端								1/0												1	
	末節骨	完存																				1	
シカ/イノシシ	寛骨	座骨+寛骨臼														1/0						1	
	四肢骨	骨幹部							(1)													21	
	大腿骨?	骨幹部																			(1)	1	
	肋骨	骨幹部									0/1	(1)										9	
	脛骨	近位端			(1)																		3
骨幹部																(1)						1	
ニホンジカ	基節骨	完存																				1	
	距骨	完存															1/0					2	
	肩甲骨	遠位端																					6
		骨幹部																					1
	尺骨	近位端									1/0											1	
	上腕骨	遠位端								1/0													4
		近位端																					1
	大腿骨	遠位端			1/0											1/0					1/0		6
		近位端																					1
		骨幹部											1/0										4
	中手骨or中足骨	骨幹部	(1)																			2	
	中足骨	完存																					1
		近位端						1/0										0/1					2
		骨幹部		(1)																	0/1		4
	椎骨	頸椎																					2
	橈骨	遠位端																					3
		近位端									1/0												2
	脛骨	遠位端																					2
		近位端																					3
		近位端~遠位端																					1
		骨幹部																1/0					2
	踵骨	一部欠損																				1/0	2
		完存		0/1			0/1															1/0	5
角	破片		1							2	5					1						43	
ニホンジカ?	上腕骨	骨幹部																				1	
	大腿骨	近位端															0/1					1	
		骨幹部																					2
	脛骨	遠位端																					1
		近位端			1/0																		1
骨幹部																						1	
クジラ目	椎骨	椎体																				1	
目視合計			2	5	4	5	1	1	10	9	7	2	5	1	1	3	4	2	3	3	2	269	

第47表 台園地点 (P32-21区) 哺乳類集計表②

分類群	部位	部分	113	116	122	123	125	131	134	139	143	151	153	156	159	総計
ネズミ亜科	下顎骨	下顎体								0/1		0/1				2
ネズミ科	寛骨	腸骨～寛骨臼										0/1				1
	距骨	完存											1/0			1
	上腕骨	近位端～遠位端								0/1						1
	大腿骨	遠位端										1/0				1
	中手骨or中足骨	近位端～遠位端					(1)									1
	椎骨	腰椎								1						1
	脛骨	近位端	1/0													1
	踵骨	完存											1/0		0/1	2
オオカミ?	遊離歯	前臼歯?							(1)							1
イノシシ	第5中足骨	完存			1/0											1
	頭蓋骨	鼻骨			0/1											1
ニホンジカ	距骨	完存		0/1												1
	尺側手根骨	完存					0/1									1
	第4手根骨	完存	0/1													1
	中手骨	破片									(1)					1
	中足骨	骨幹部												(1)		1
ヒト?	指骨	完存						(1)								1
不明海獣類	椎骨	椎体				1										1
不明哺乳類	脛骨	骨幹部					(1)									1
2mm合計			2	1	2	1	3	1	1	3	1	3	2	1	1	22

第48表 台園地点 (P32-21区) 爬虫類集計表

分類群	部位	108	109	110	111	114	115	116	117	119	120	122	124	125	126	127	128	129	131	133	137	141	142	149	151	156	総計	
ウミガメ科	頭頂骨													1		1			1									3
	下顎骨													1														1
	肩甲骨?													1						1								2
	上腕骨												0/1								1							1
	手根骨or足根骨								1												1							2
	指骨																1											1
	指骨?					1			1																1			3
	背甲骨板	1	1	13	1		2	1			1	1		1					1	1	1	1	1			1		27
	頂甲板							1																				1
	縁甲板							1						1					2			1			1			6
	甲板							1													3	5		2			1	12
	四肢骨									1				1														2
	部位不明								1																			1
	目視合計		1	1	13	1	1	2	5	2	1	1	1	1	4	2	1	1	4	2	4	7	1	2	2	1	1	62

## 5) 他の発掘区からの主要な出土遺物

他の発掘区から出土した主要な遺物について記述する。本調査は表土を除去し、遺構確認を行ったので、多くはそのまま出土したものである。遺構が掘り込まれた面は縄文時代前期から中期にかけての包含層は貝層である。後期から晩期の遺構が多いので帰属時期の明らかでないものも含まれる。

石器には石ノミとも称される小型磨製石斧（写真96-41）が出土している。石製品には垂飾品（写真97-10・11）、ボタン状石製品（12）が出土している。

骨角器は棒状腰飾りと呼ばれる鹿角製垂飾品（写真98-1）、骨製垂飾品（3）、イカリ形の釣針（4）、釣針（5）、鹿角製腰飾り（6）、不明鹿角製品（図版19-8）、鹿角製かんざし（図版19-9）が出土している。図版19-6の腰飾りは奥松島縄文村歴史資料館に展示してある縄文晩期初頭の腰飾りと同形と考えられる。1の鹿角製垂飾品は基部に装飾が施されている。

## 6) 考察

台囲地点の調査により、竪穴建物跡2棟、土坑9基、埋設土器2基を確認した。1号竪穴建物は縄文時代後期後葉、2号竪穴建物は晩期初頭のものと考えられる。土坑のうち4号、7号、8号土坑は人骨が残っていたことから土坑墓と考えられる。埋土に含まれた土器と人骨の放射性炭素年代測定から4号土坑墓は縄文晩期初頭、7号土坑墓は縄文後期後葉、8号土坑墓は縄文晩期初頭と推定している。2基の埋設土器も月齢10カ月の胎児骨が検出されたので、幼児土器棺墓といえる。両者とも縄文晩期前半の粗製土器を用いている。人骨の放射性炭素年代も約3000年前を示しており、土器の推定年代と矛盾しない。竪穴建物跡は31列（第1トレンチ）、縄文後期後葉から晩期前半の土坑墓と土器棺墓は33列（第3トレンチ）から検出されている。両者は土器型式から推定するとほぼ同時代のものと推定される。この時期の貝層は昭和27年から36年にかけて宮戸島遺跡調査会によって調査された台囲地点と平成3年に東北歴史資料館によって調査された台囲地点が相当する。その場所は今回調査した面の一段下の面にあたる。これにより、台囲地点における居住域、墓域、廃棄場の位置関係が初めて明らかになったといえる。

P32-21区とP31-1・6区で縄文中期と後期初頭の貝層の調査を行った。その結果、P32-21区では明瞭な貝層の完掘に成功した。P31-1・6区では貝層堆積の終末の時期が後期初頭であることを確認した。P32-21区から始まる貝層はP31-1・6区まで連続して堆積したものである。貝層が形成された期間が縄文中期中葉から後期初頭であることがわかった。それ以降の貝層は下の段に形成されていくようである。中期中葉以前の貝層は平面的に帯状に確認できている。貝が多い堆積層と魚骨主体の堆積層など様相は様々である。32列（第2トレンチ）では平面的にはR32-16区付近から包含層が形成されている。31列（第1トレンチ）ではR31-6区から縄文前期大木6式の貝層がQ31-16区付近まで形成されている。33列（第3トレンチ）のR33-21区は縄文前期大木5式の魚骨層が広がり、Q33-1区付近から中期の貝層がみえる。このように本調査区は平面としてひろがっているが、そのほとんどが縄文前期から後期初頭にかけて形成された包含層でできていることがわかる。P32-21区の貝層下を深掘りしたところ、約1m下で前期末の土器が検出され、ボーリング探査でもさらに1m下までも黒色土が堆積している。地山と呼ばれる黄褐色土が認められるのはR31-16、21区付近だけである。本来の地形は急斜な丘陵だったところに、廃棄層が厚く堆積して平坦面ができあがったといえる。その平坦面を縄文後期後葉から晩期初頭の人々は居住域と墓域に利用したのである。

P32-21区の貝層からは多くの土器が検出された。それは層位的に堆積しており、ほぼ層の順位に沿って掘り上げることができたので、今後の分析で当地域の土器編年のよい基準資料となろう。検出された土器は狭い発掘区のわりに完形土器が30点以上もある。完形に近い土器は平坦面から傾斜の変わる肩の部分に引っかかるようにして出土している。投げ捨てるというよりは捨て置くというような出土状況である。それを覆うように貝層が堆積する。土器が大型なので、一回の廃棄単位で土器が埋まりきらないものもある。また、斜面上部から斜面下へ転がり落ちる土器片もあったであろう。貝や獣骨、魚骨の斜面移動はさらに多いと推定される。本調査区の堆積時間は100年以上である。今後様々な角度から貝層の堆積と内容の分析が必要であろう。



写真 88 台田地点（第4次調査）発掘区全景



写真 89 台田地点（P 32-21 区）貝層完掘状況



1. 台岡地点発掘区遠景（南東から）



2. 台岡地点発掘風景（南東から）



3. 台岡地点発掘区全景（南東から）



4. 第1トレンチ（31列）発掘区全景（東から）



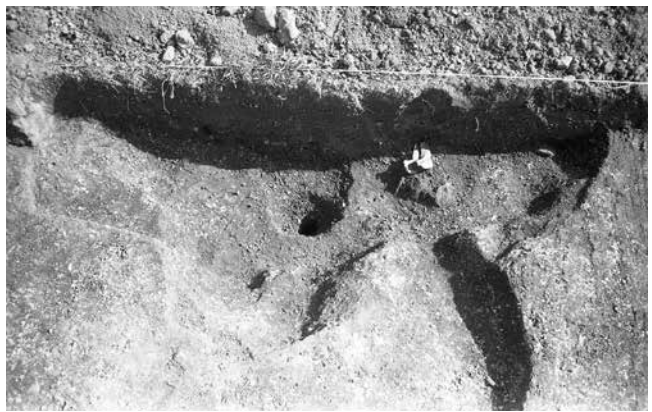
5. 第2トレンチ（32列）発掘区全景（東から）



6. 第3トレンチ（33列）発掘区全景（東から）



7. 1号竪穴建物、2・5号土坑確認状況

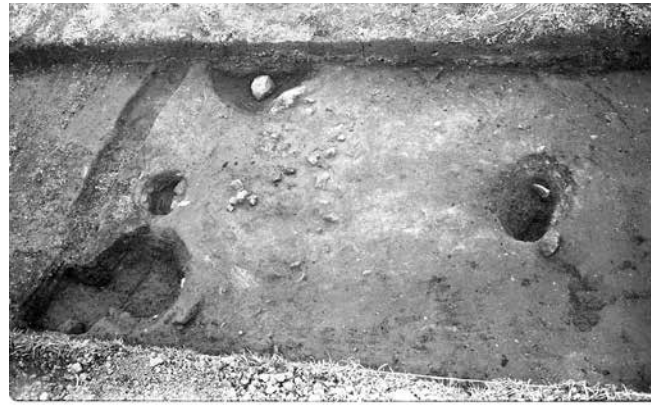


8. 1号竪穴建物全景

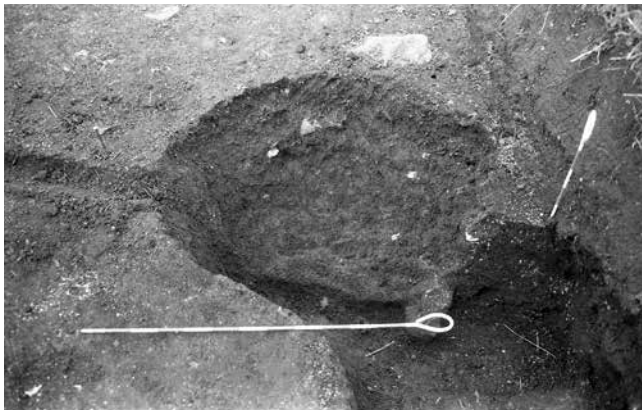
写真 90 台岡地点調査（第4次調査）(1)



1. 2号竖穴建物



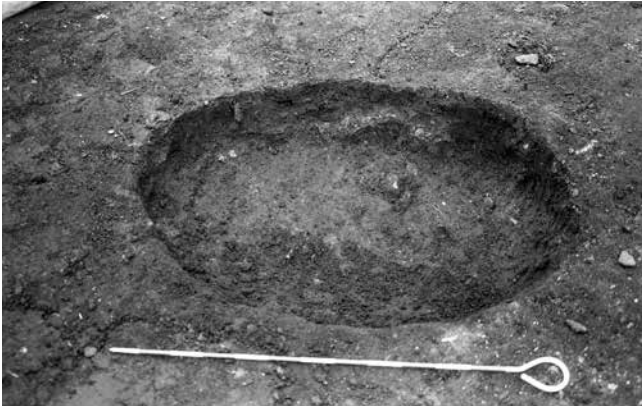
2. 2号竖穴建物



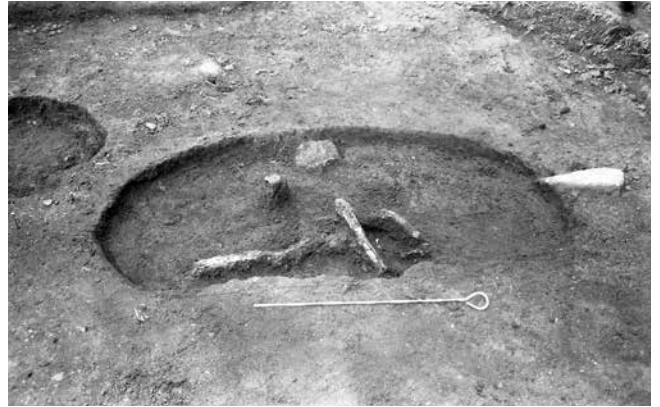
3. 1号土坑



4. 2号土坑



5. 3号土坑



6. 4号土坑 (98-2号人骨)



7. 5号土坑

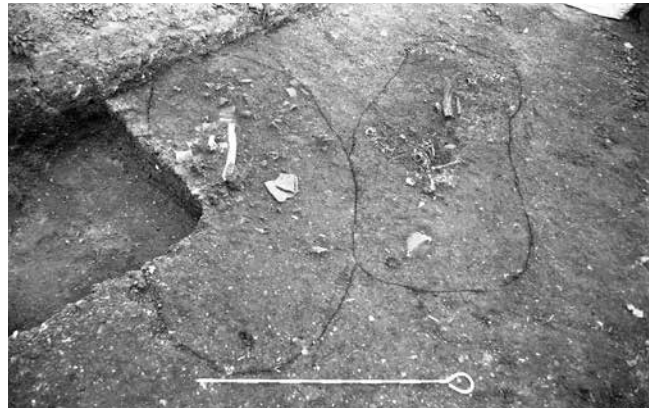


8. 7号土坑 (98-1号人骨) (南東から)

写真 91 台田地点調査 (第4次調査) (2)



1. 7号土坑 (98-1号人骨) (南西から)



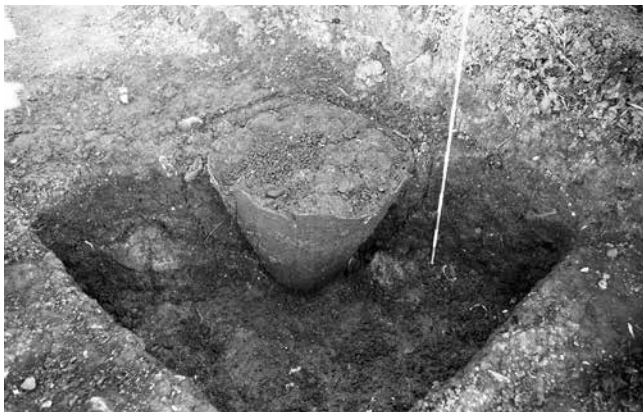
2. 8・9号土坑確認状況



3. 8号土坑 (98-4号人骨) 確認状況



4. 10号土坑



5. 1号埋設土器



6. 2号埋設土器検出状況



7. 台囲地点 P32-21 区貝層完掘状況 (奥が P32-6・1 区)



8. 台囲地点 P32-6・1 区貝層調査終了状況

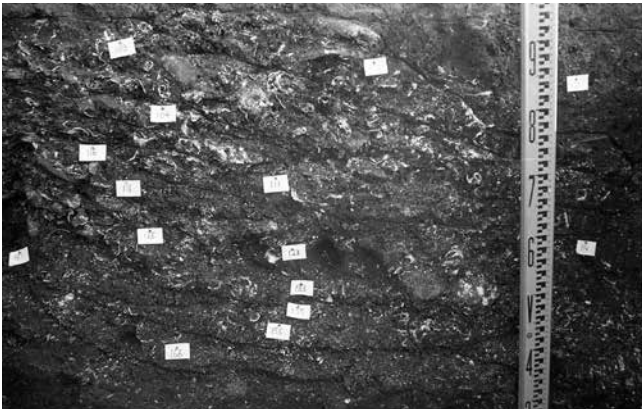
写真 92 台囲地点調査 (第4次調査) (3)



1. P32-21 区貝層



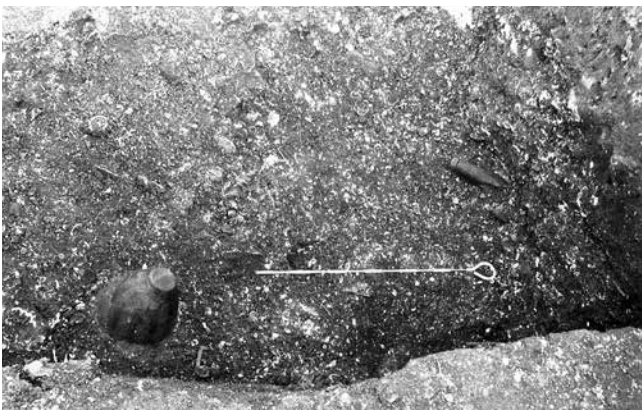
2. P32-21 区貝層



3. P32-21 区貝層堆積状況



4. P32-21 区 102 層遺物出土状況



5. P32-21 区 125 層遺物出土状況



6. P32-21 区 125 層土棒出土状況



7. P32-21 区 129 層遺物出土状況



8. P32-21 区 134 層遺物出土状況

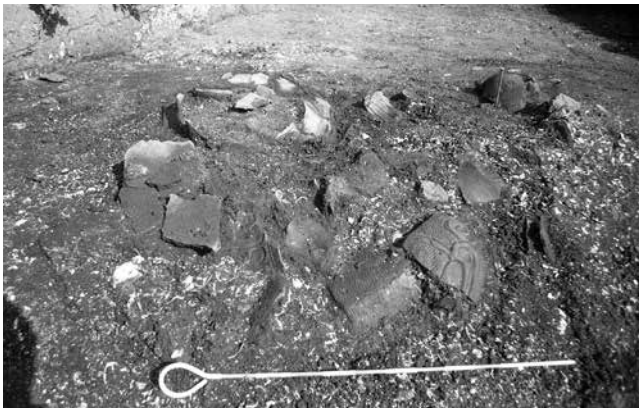
写真 93 台岡地点調査 (第4次調査) (4)



1. P32-21 区 134 層遺物出土状況細部



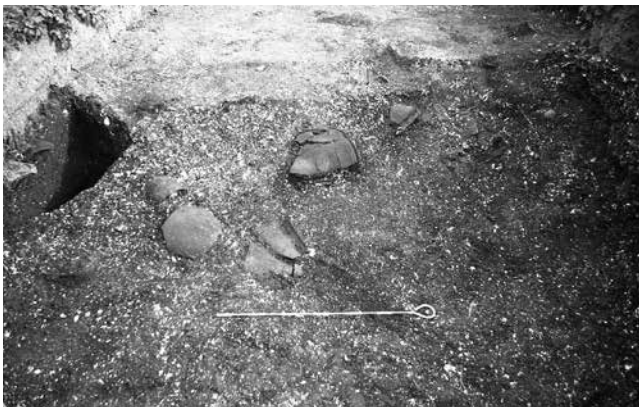
2. P32-21 区 136 層遺物出土状況



3. P32-21 区 138 層遺物出土状況



4. P32-21 区 141 層遺物出土状況



5. P32-21 区 151 層遺物出土状況



6. P32-21 区遺物出土状況



7. P32-21 区 156 層遺物出土状況



8. P32-21 区 161 層遺物出土状況

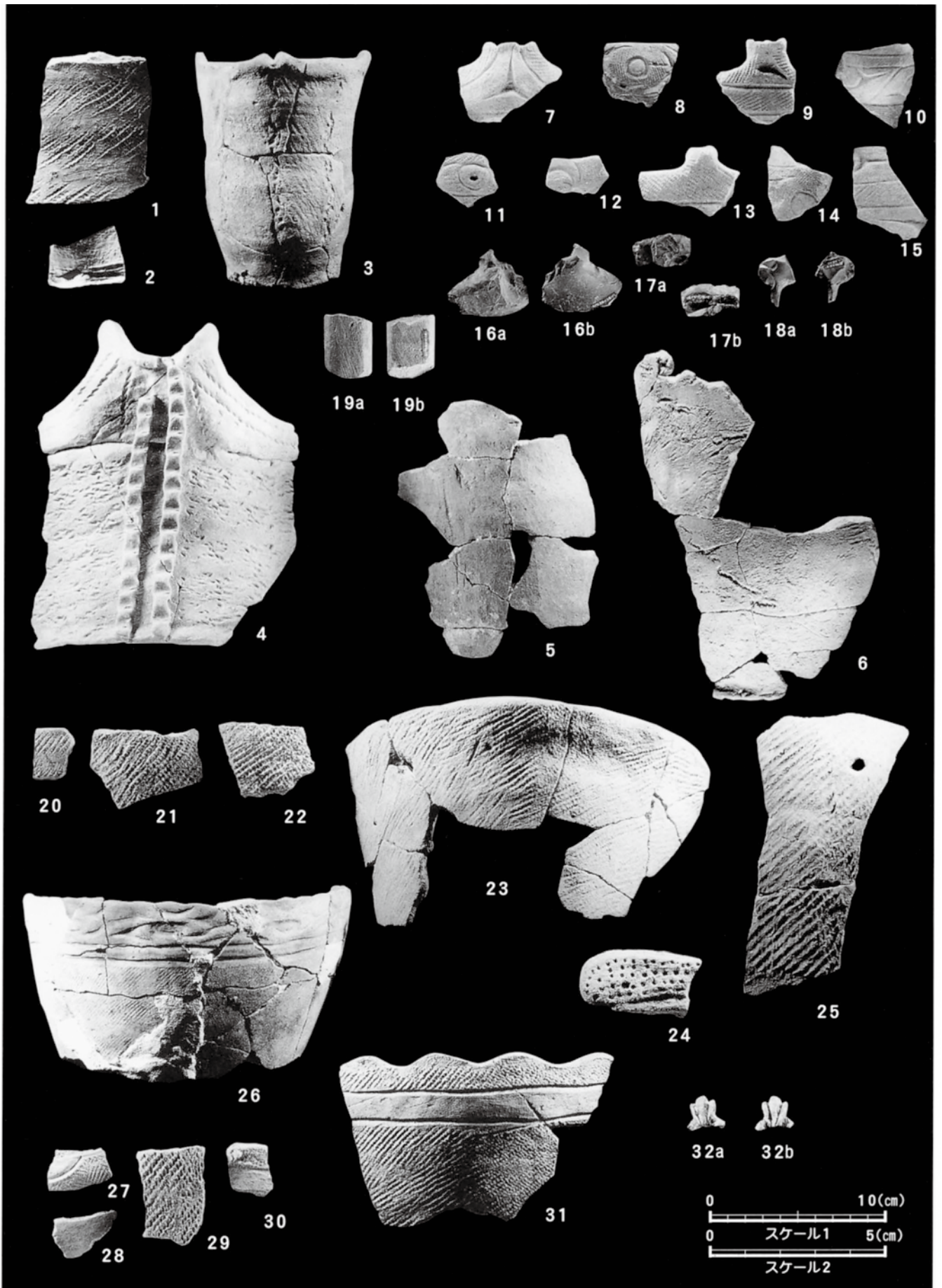


写真 95 台岡地点遺構出土遺物

1～6：1号堅穴建物出土遺物、7～19：2号堅穴建物出土遺物、20～22：1号土坑出土遺物、23～25：4号土坑出土遺物、  
 26：5号土坑出土遺物、27～30：7号土坑出土遺物、31：8号土坑出土遺物、32：1号埋設土器出土鹿角製装身具

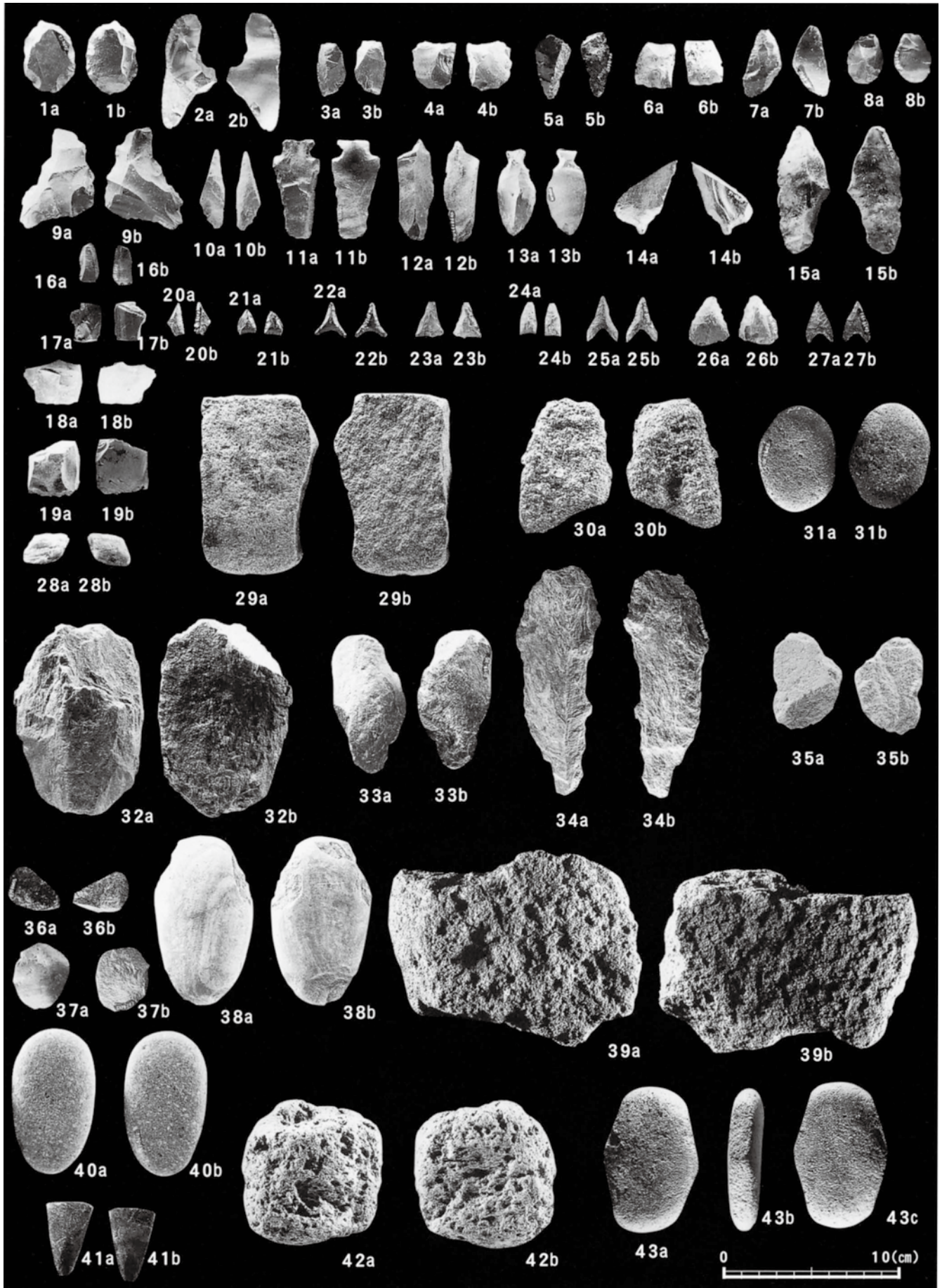


写真 96 台圍地点出土石器

1・2・7・9：薄型削器、3・4・16：ピエス・エスキエ、6・20～27：石鏃、10：尖頭器、11・13：石匙、  
 8・12・15・17：細部調整痕ある剥片（RF）、5・18・19・28：剥片（F）、29・31・37：磨石、30：凹石、  
 32・38：礫器、33・34：打製石斧、35：石皿、36・41磨製石斧、42：浮き、43：敲打痕ある礫

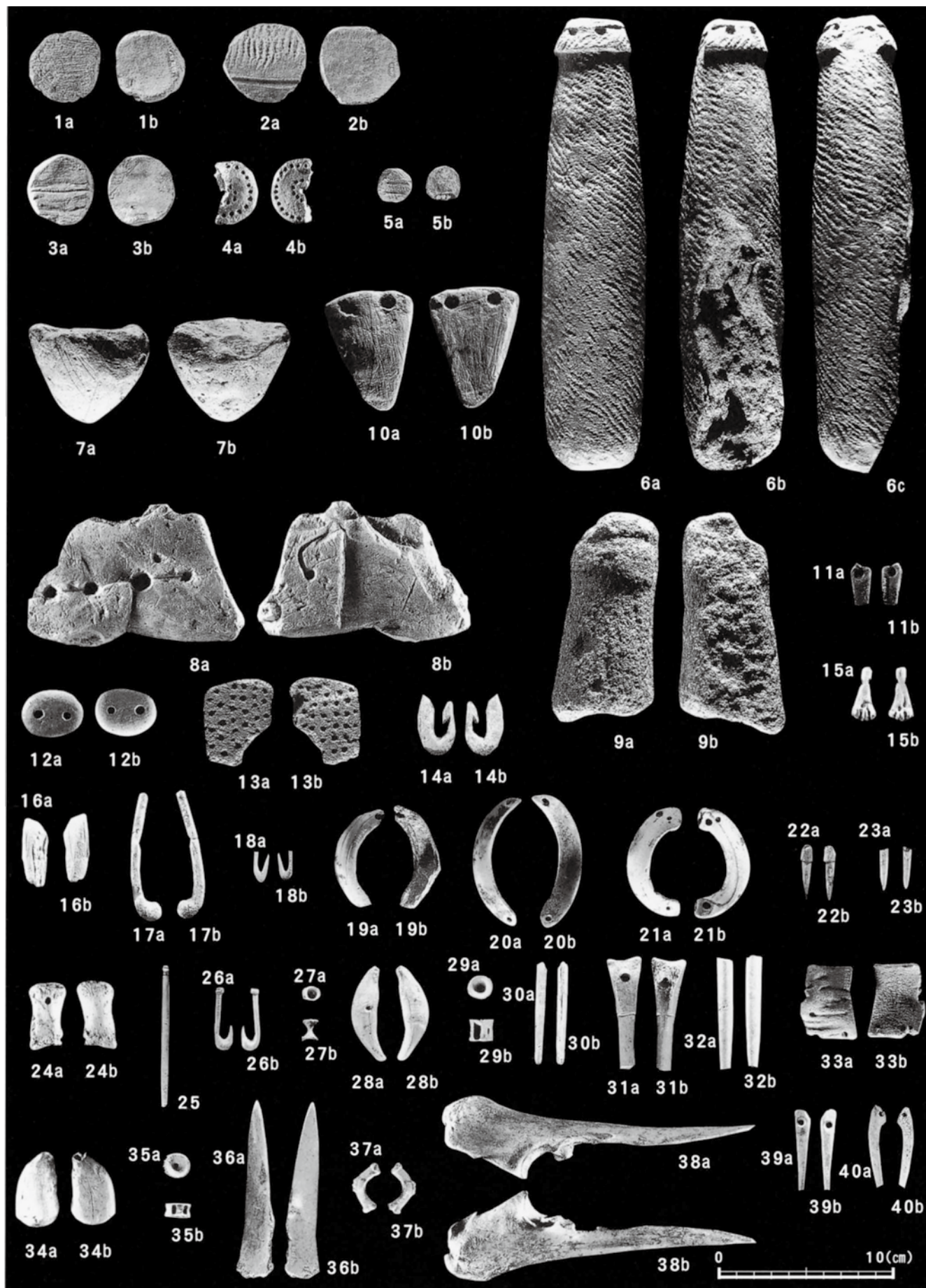


写真 97 台岡地点出土土製品、石製品、骨角器

1~3・5: 土製円盤、4: 耳飾り、6: 土棒、7・8・13: 岩版、9: 石棒、10・11: 装飾品、12: ボタン状石製品、  
14・17・18・26: 釣針、15: 磨製鹿角、19~21: 腕輪、22: 根ぼさみ、23・30: 棒状角器、24・28: 装飾品未成品、  
25: かんざし、15・27・29・31~33・35・37~40: 装飾品、34: 磨製牙、36: 骨筥、3: 8刺突具

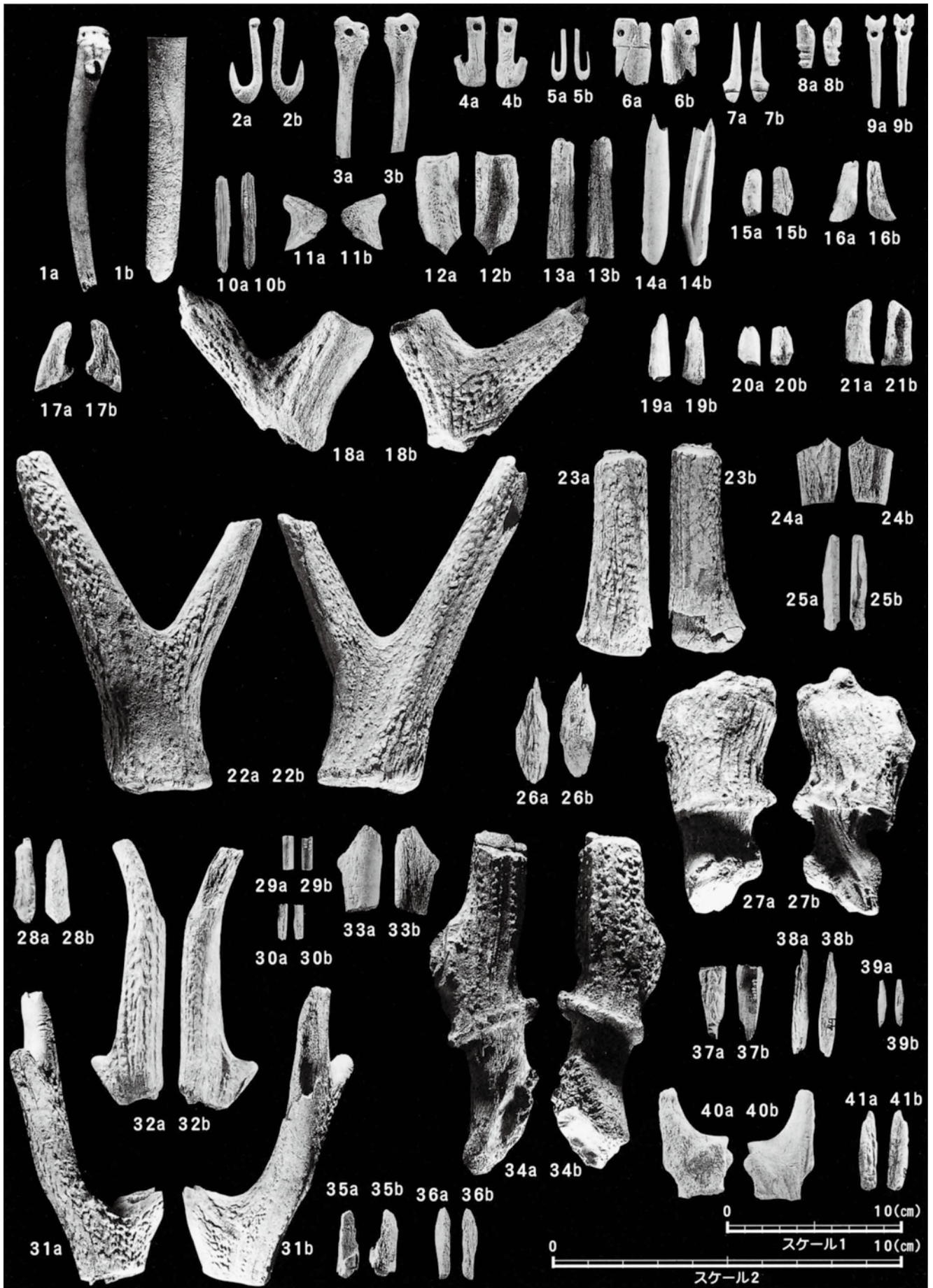


写真 98 台田地点出土骨角器、鹿角 (1b はスケール 2)

1・6: 鹿角製垂飾品 (腰飾り)、2・4・5: 釣針、3: 装飾品、7・8: 不明角器、9: かんざし、10: 刺突具、11・41: 鹿角片

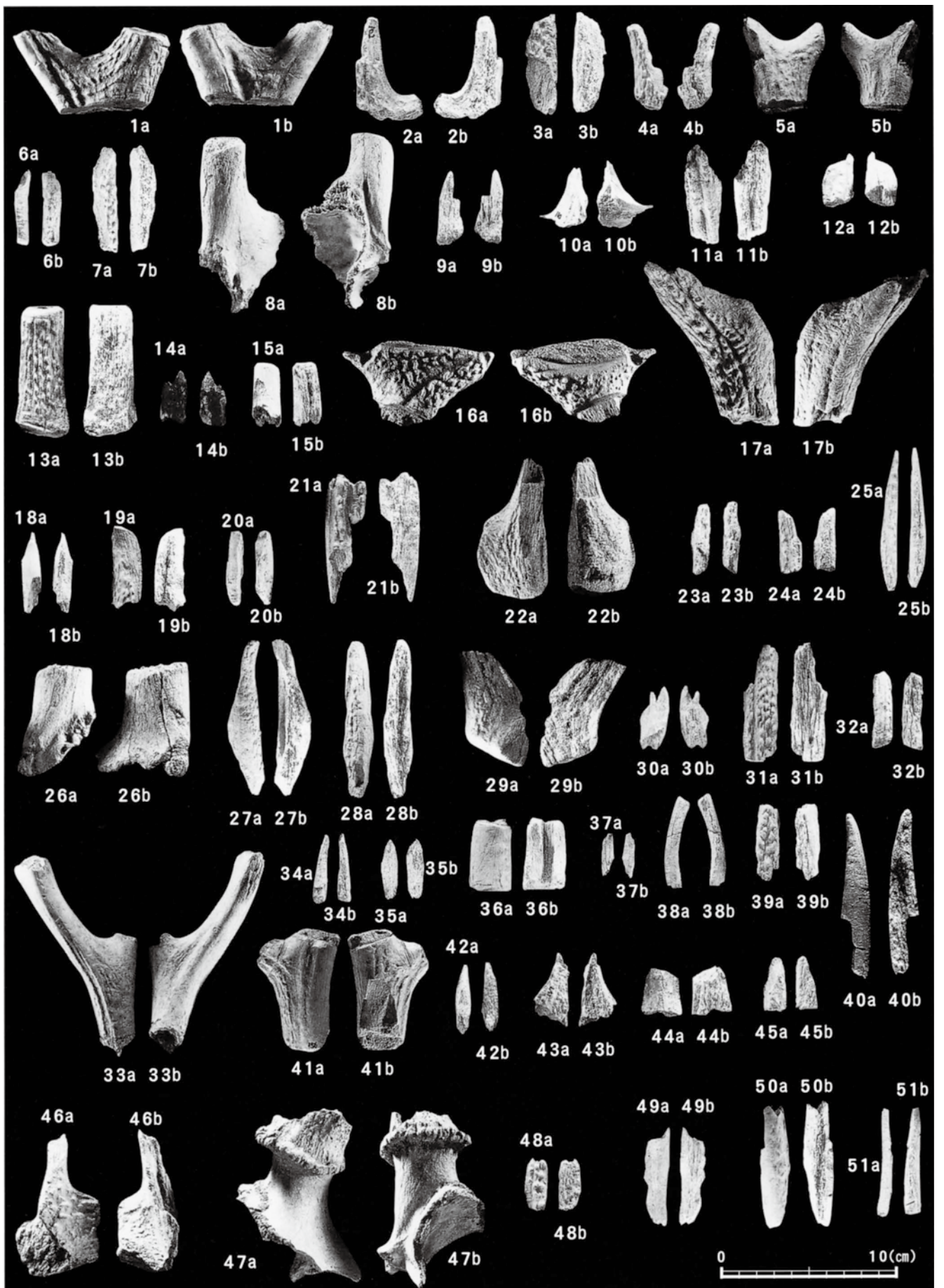


写真 99 台岡地点出土鹿角

6 : 剥離具、22・29 : ハンマー片、25 : 棒状角器、40 : ミガキ具、他は鹿角片

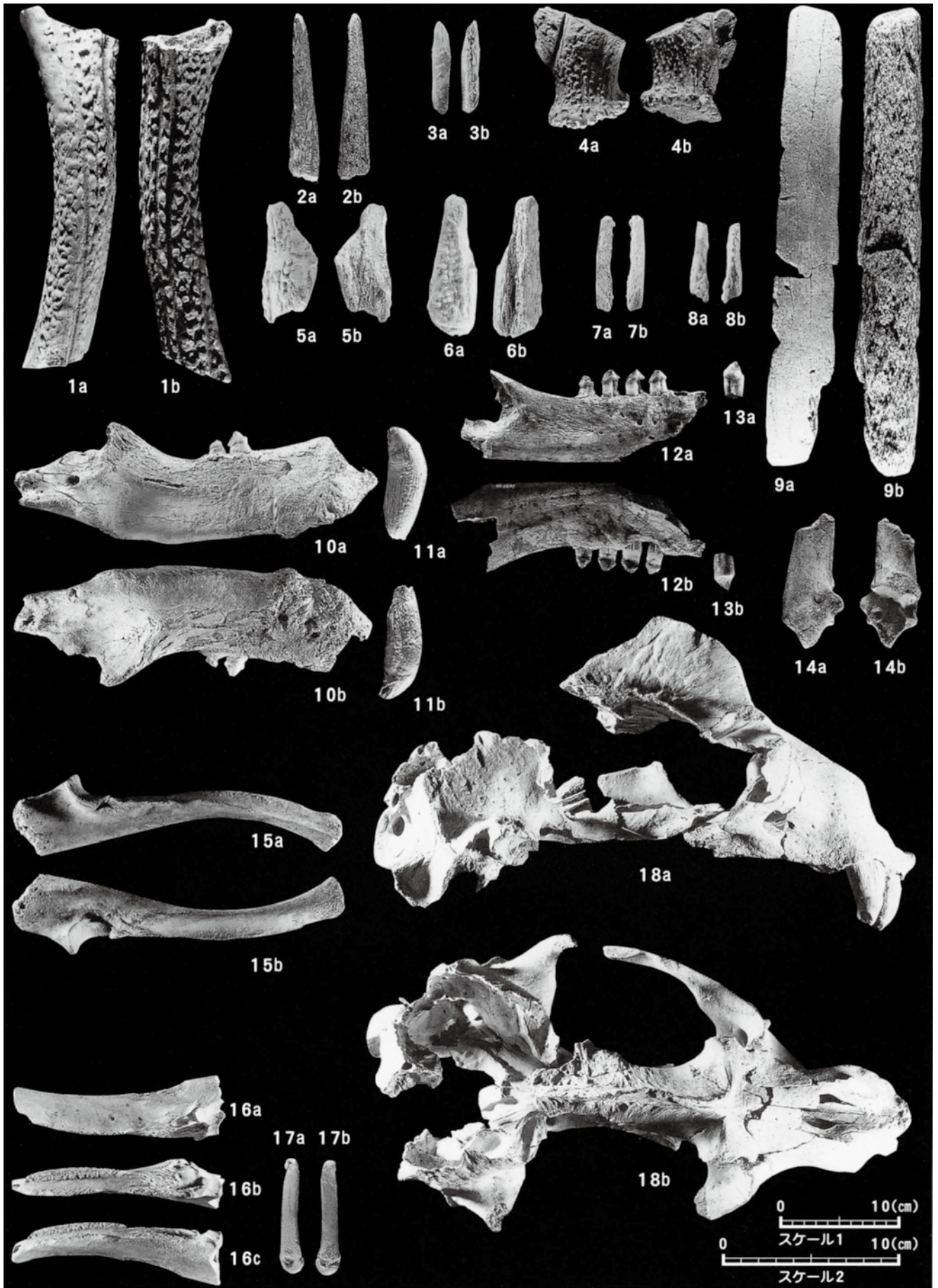


写真100 台園地点出土鹿角、動物遺存体 (9 はスケール1)

1・3・9：鹿角片、2：棒状角器、9：鯨骨未製品、10・12：アシカ下顎、11：アシカ牙、13：アシカ歯、  
14～16：噛痕ある骨、17：カットマークがある骨、18：アシカ頭骨

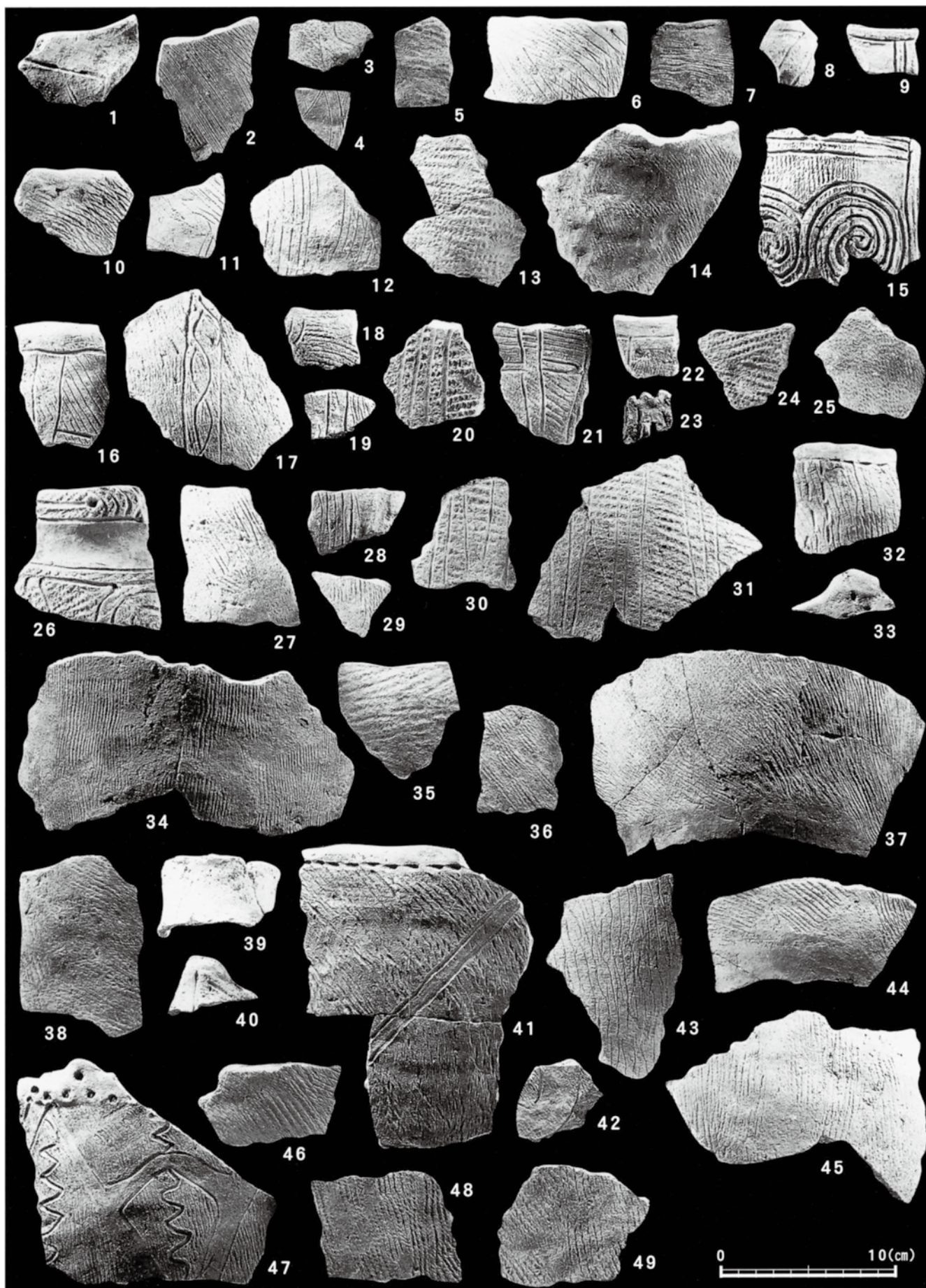


写真101 台岡地点 P32-6・1 区出土土器 (1)

1～5: 10層、 6～24: 11層、 25～31: 13層、 32～39: 14層、 40～45: 15層、 46～49層: 16層

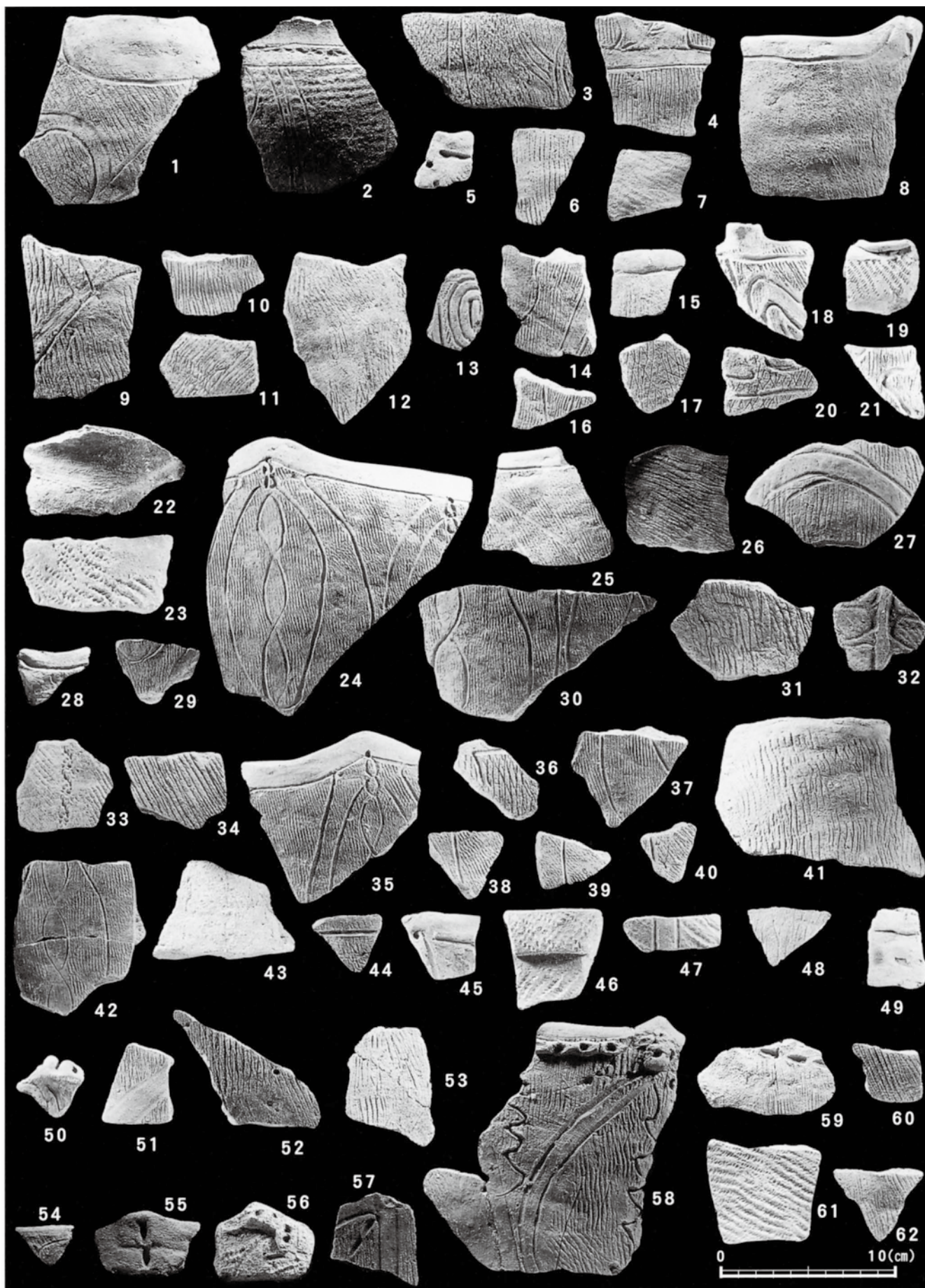


写真102 台園地点 P32-6・1 区出土土器 (2)

1・2: 16層、3~7: 17層、8~14: 18層、15~23: 19層、24~31: 24層、32~34: 25層、35~38: 26層、39~44: 27層、45~48: 29層、49~53: 30層、54~58: 31層、59~62: 32層



写真103 台岡地点 P32-6・1 区出土土器 (3)

1～5 : 32層、6 : 33層、7～12 : 34層、13～19 : 35層、20～28 : 36層、29～33 : 37層、34～38 : 38層(11bはスケール任意)

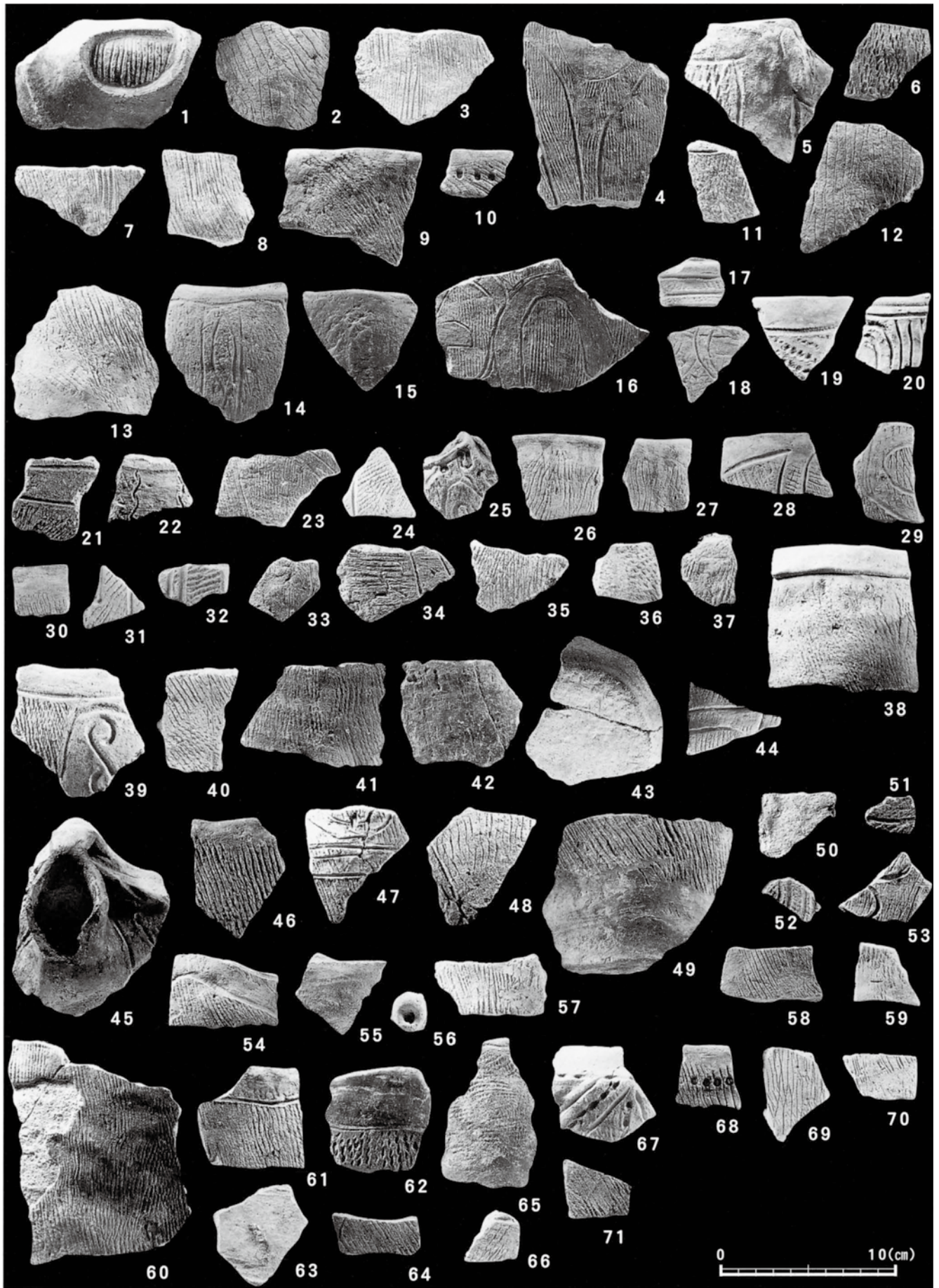


写真104 台岡地点 P32-6・1 区出土土器 (4)

1~4: 40層、5~8: 41層、9~13: 42層、14~18: 43層、19~22: 46層、23・24: 47層、25~27: 48層、28~32: 50層、  
 33~37: 53層、38~42: 54層、43・44: 55層、45~49: 56層、50~53: 57層、54~59: 58層、60~64: 59層、65・66: 60層、  
 67~71: 61層

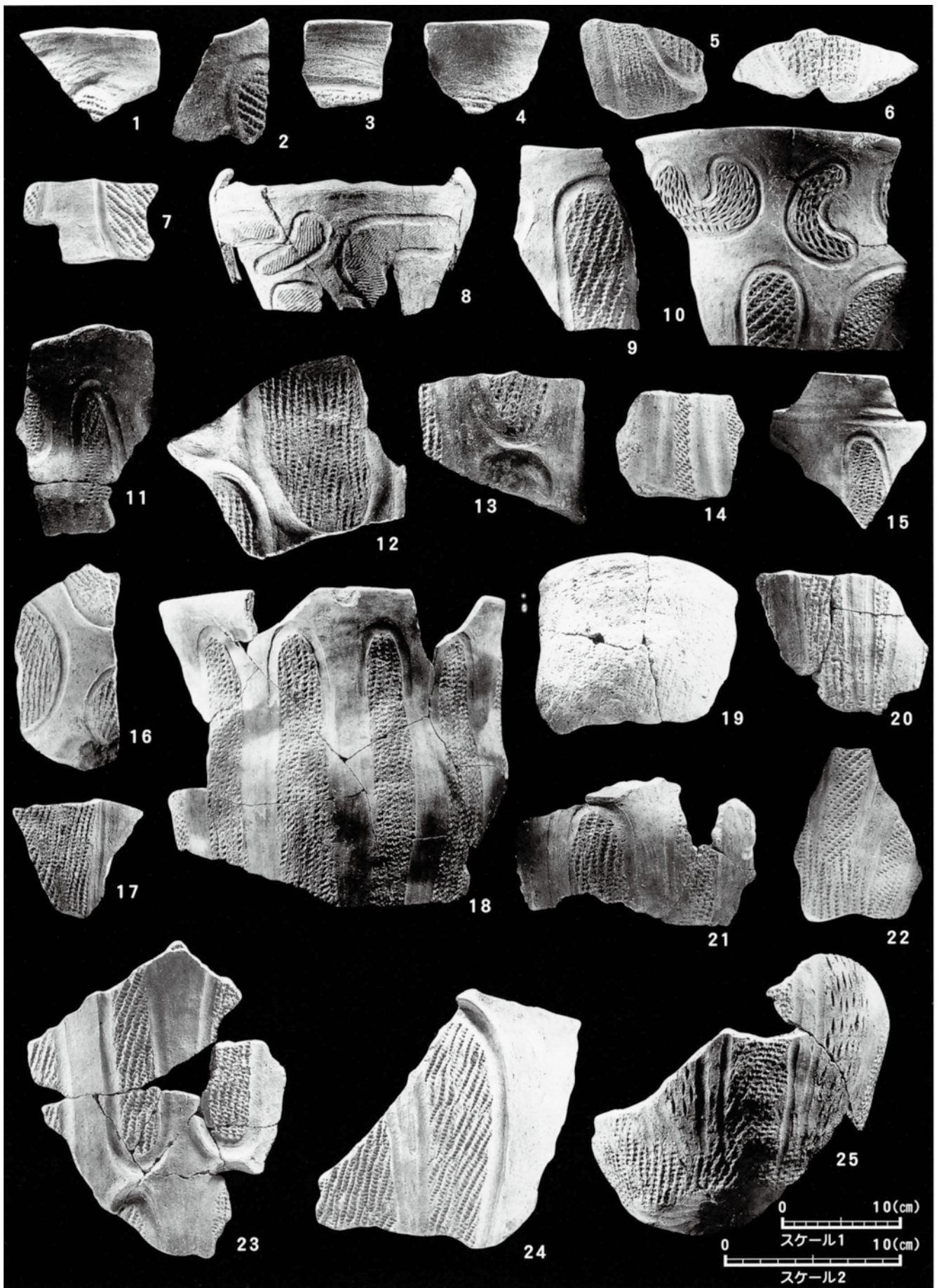


写真105 台岡地点 P32-21 区出土土器 (1)

1～7: 101層、8～16: 102層 (8: 土器番号102-1)、17～25: 103層 (18: 土器番号103-1) (8はスケール1、他はスケール2)

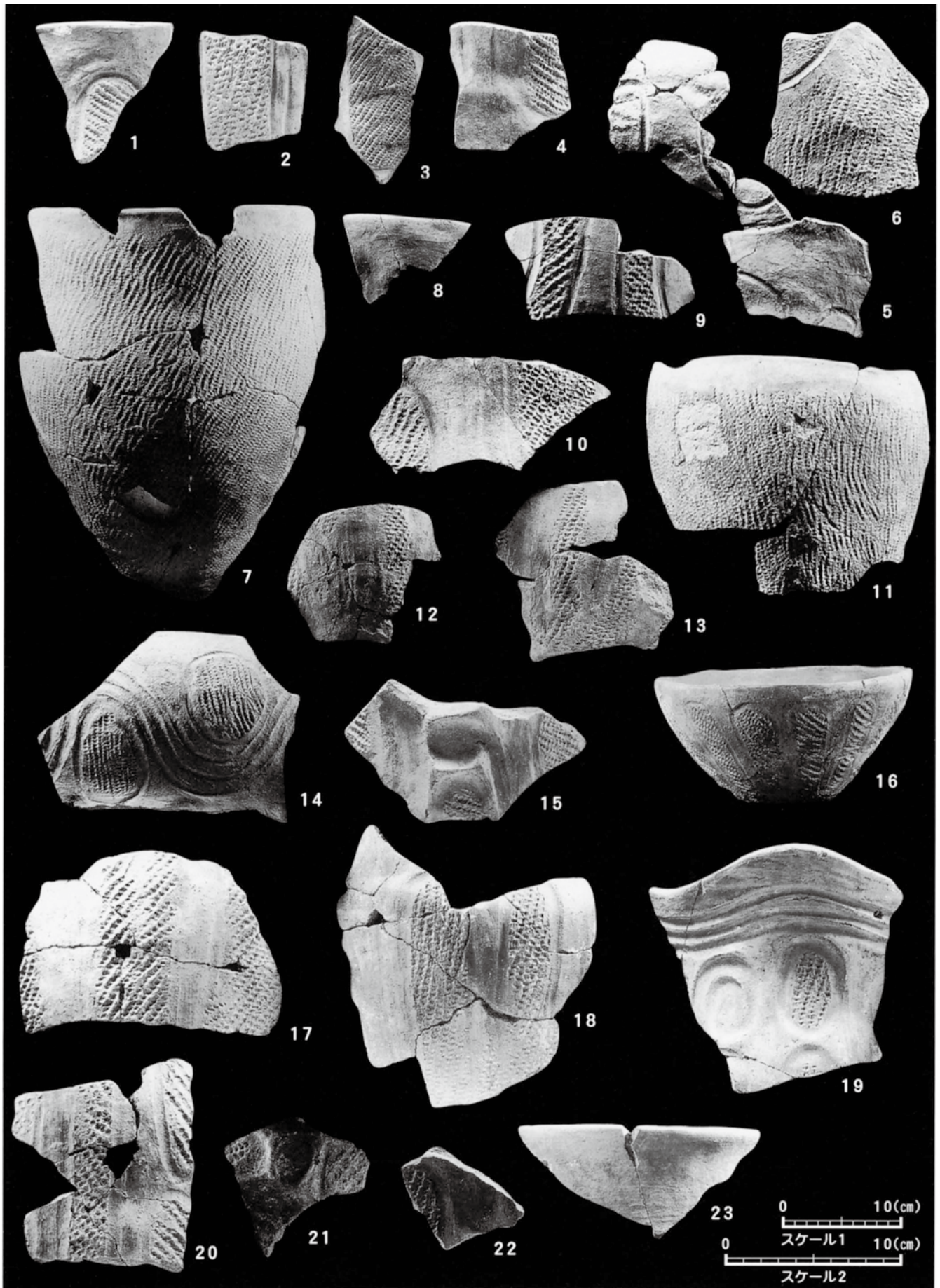


写真106 台園地点 P32-21 区出土土器 (2)

1～4 : 105層、5・6 : 106層、7～11 : 107層 (7 : 土器番号107-1、11 : 土器番号107-2)、12～15 : 108層、  
 16～23 : 110層 (16 : 土器番号110-1) (7・11・16はスケール1、他はスケール2)

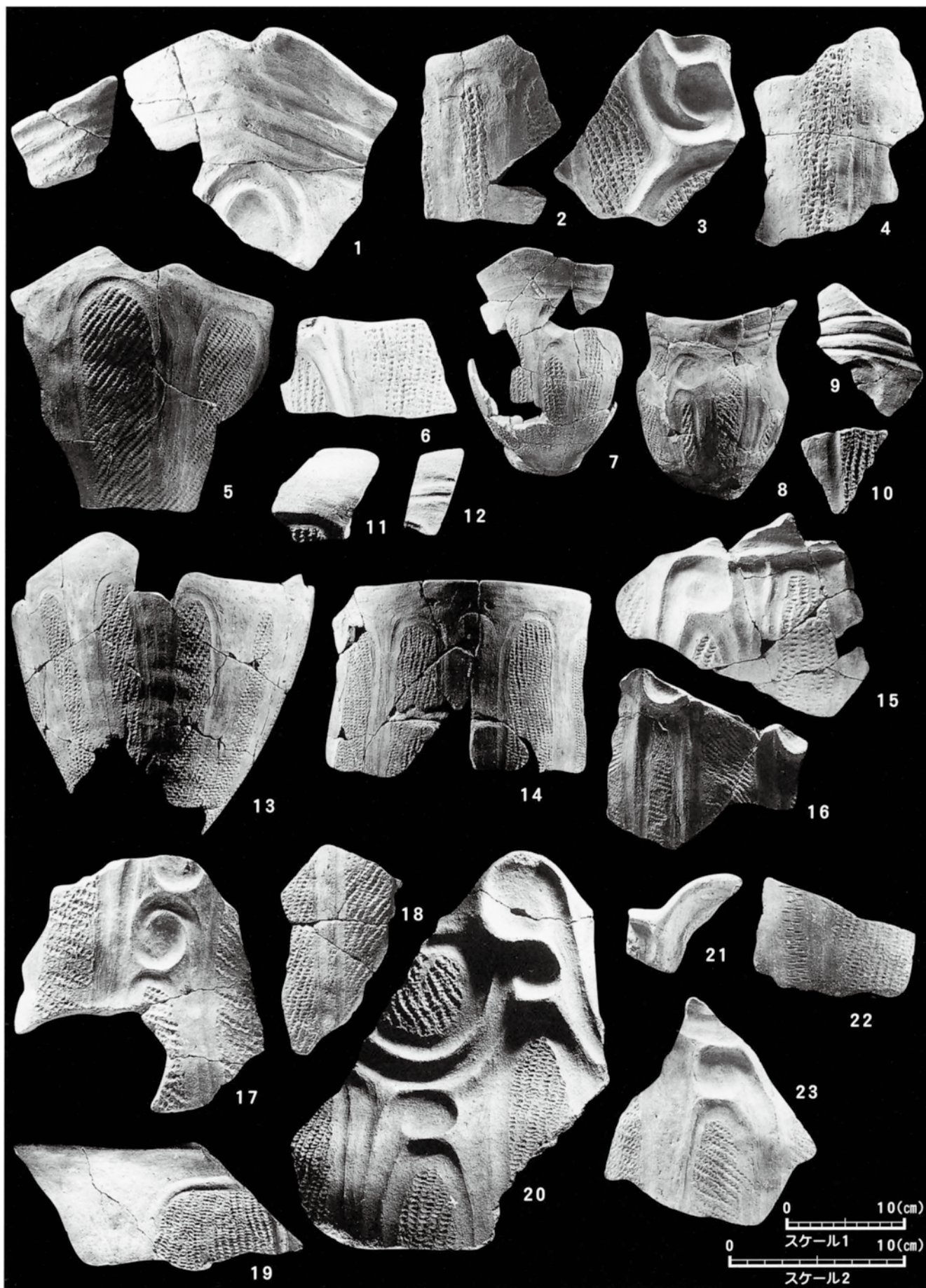


写真107 台岡地点 P32-21 区出土土器 (3)

1~3 : 111層、4~6 : 113層、7~12 : 115層 (7 : 土器番号115-1、8 : 土器番号115-2)、13~18 : 116層 (13 : 土器番号116-1、土器番号116-2)、19・20 : 117層、21~23層 : 118 (7・8・13・14はスケール1、他はスケール2)

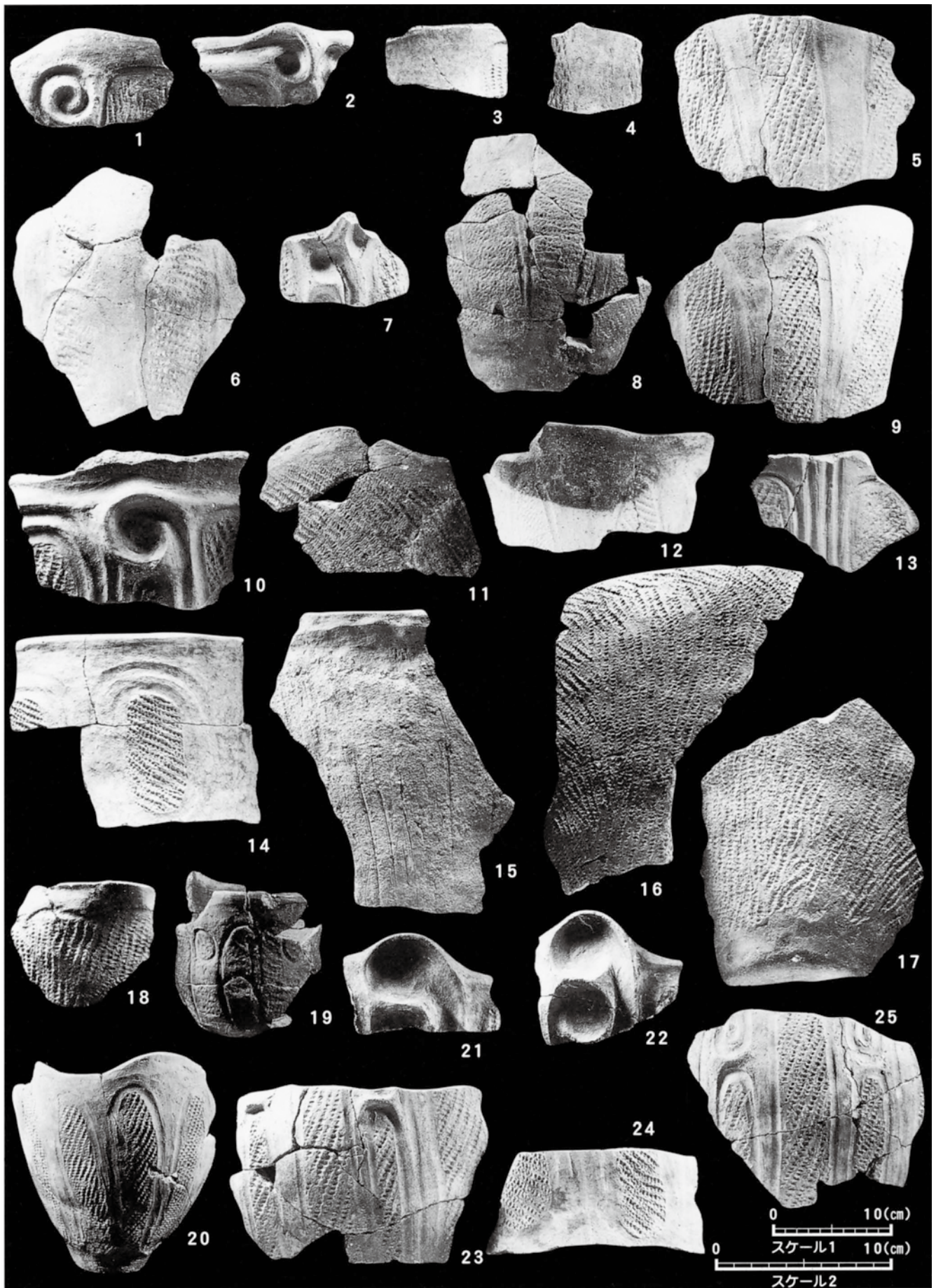


写真108 台岡地点 P32-21 区出土土器 (4)

1～5 : 120層、6～8 : 121層 (8 : 土器番号121-1)、9～13 : 122層、14～19 : 123層 (19 : 土器番号123-1)、  
 20 : 124層 (20 : 土器番号124-1)、21～25 : 125層 (8・20はスケール1、他はスケール2)



写真109 台岡地点 P32-21 区出土土器 (5)

1～9：126層（8：土器番号126-1、9：土器番号126-2）、10～12：127層（9はスケール1、他はスケール2）

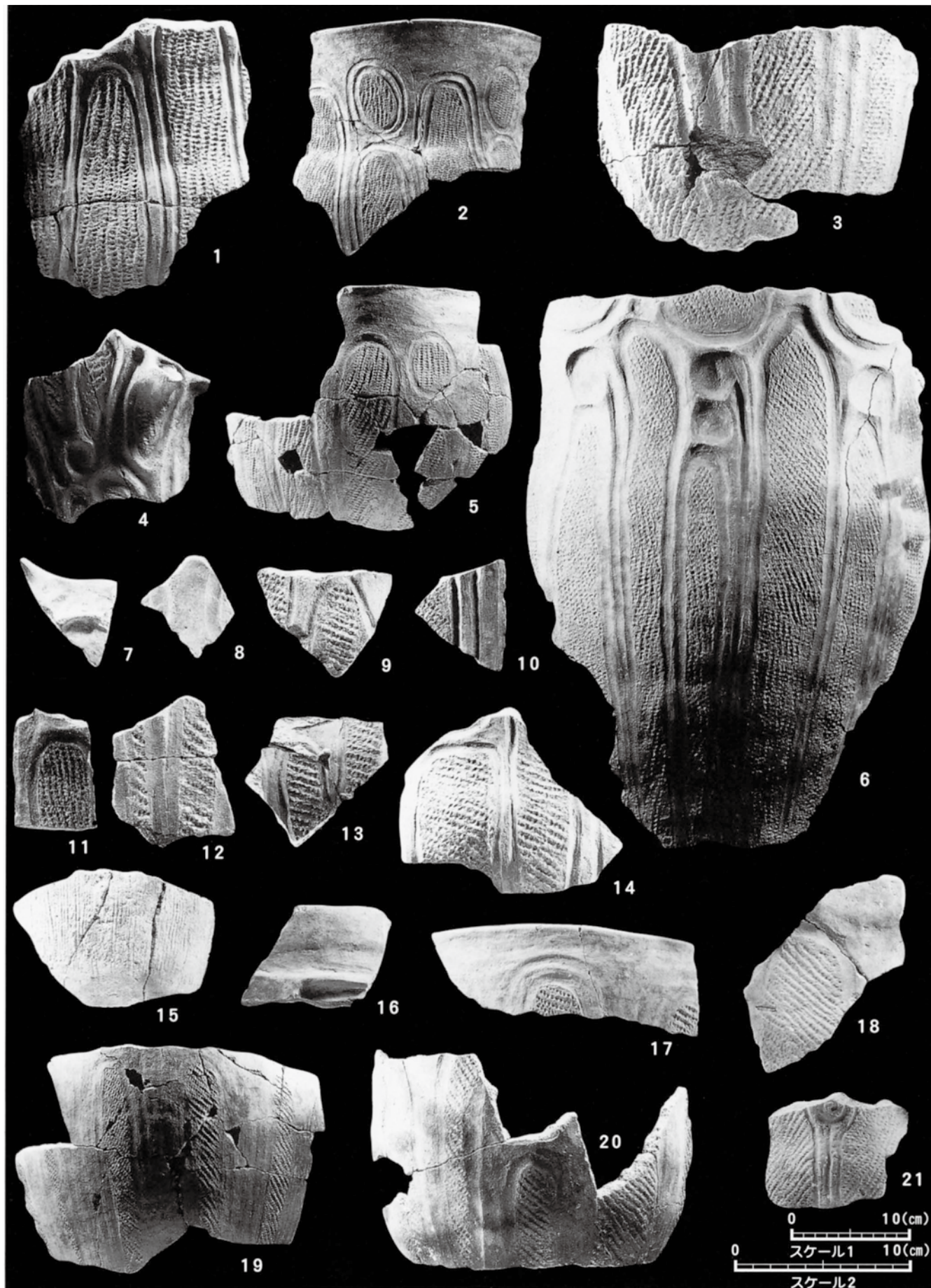


写真110 台園地点 P32-21 区出土土器 (6)

1・2: 127層、3・4: 128層、5~11: 129層 (5: 土器番号129-2、6: 土器番号129-1)、12~15: 131層  
 16~21: 132層 (19: 土器番号132-1) (2・5・6・19・20はスケール1、他はスケール2)



写真111 台岡地点 P32-21 区出土土器 (7)

1～9：134層（1：土器番号134-1、2：土器番号134-2、3：土器番号134-3、4：土器番号134-4、5：土器番号134-5、6：土器番号134-6）、  
 10・11：135層、12～18：136層（12：土器番号136-1、土器番号136-2）、19～23：137層（19：土器番号137-1）  
 （1～6・9・12・13・19はスケール1、他はスケール2）

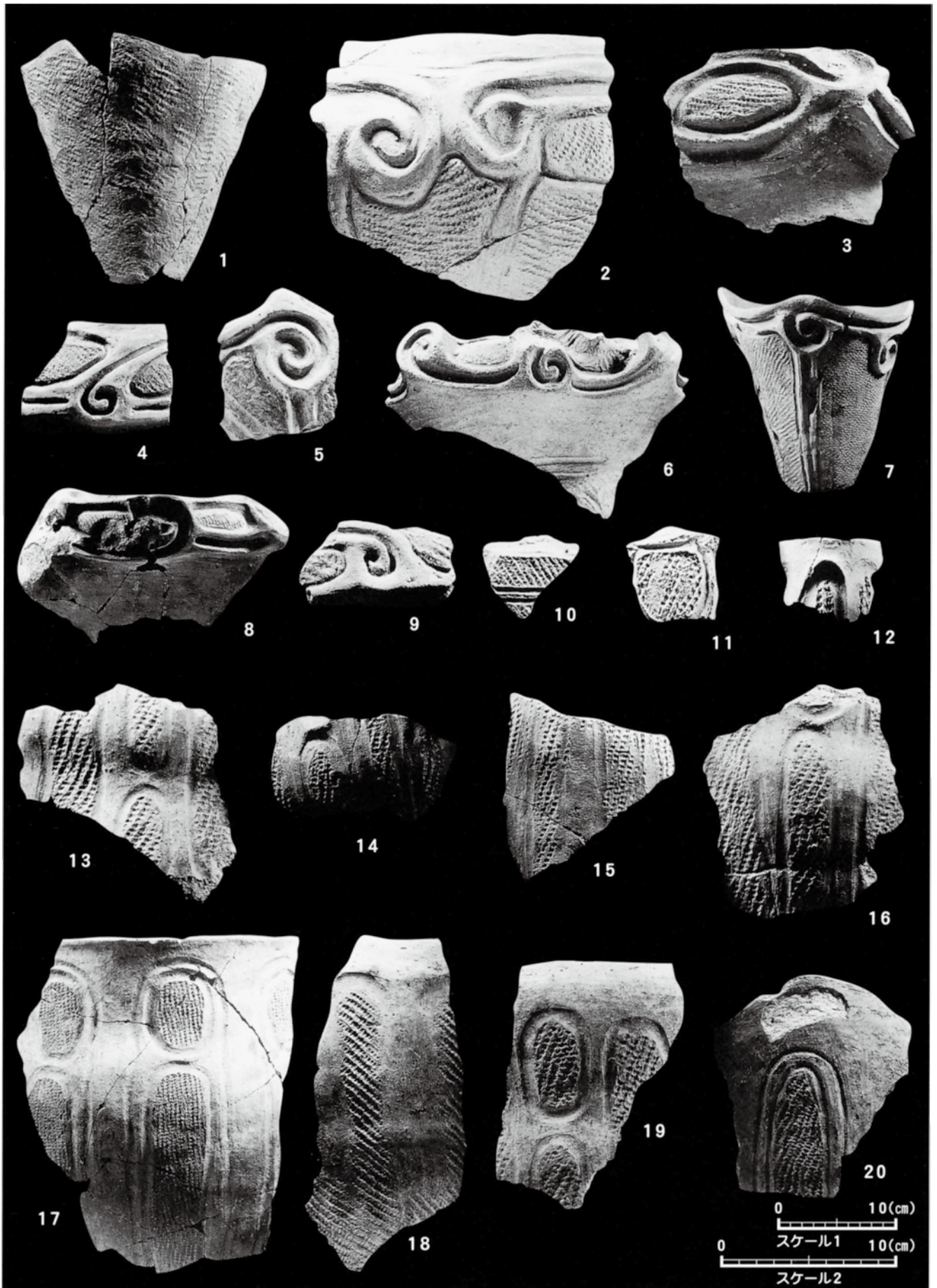


写真112 台围地点 P32-21 区出土土器 (8)

1~6 : 138層 (1 : 土器番号138-1) 、7~11 : 139層 (7 : 土器番号139-1) 、12~16 : 140層、17~20 : 141層 (17 : 土器番号141-1)  
 (1・7はスケール1、他はスケール2)



写真113 台岡地点 P32-21 区出土土器 (9)

1: 141層、2~8: 142層、9: 143層 (9: 土器番号143-1)、10~18: 144層 (10: 土器番号144-1、11: 土器番号144-4、12: 土器番号144-3)、19: 145層、25: 147層 (25: 土器番号147-1) (9~12・25はスケール1、他はスケール2)

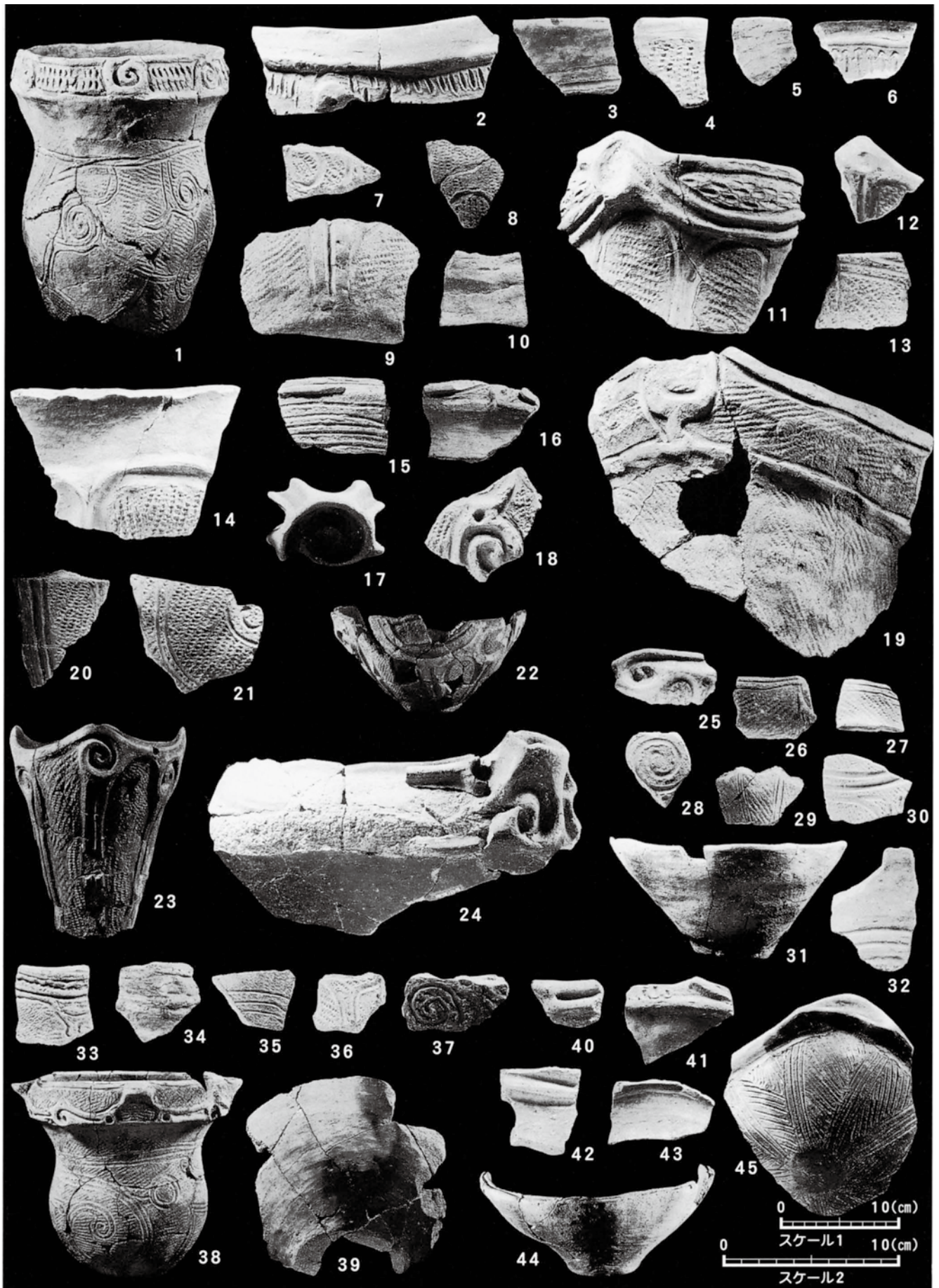


写真114 台圃地点 P32-21 区出土土器 (10)

1~10: 147層 (1: 土器番号47-2)、11~14: 148層、15~21: 149層、22~30: 150層 (22: 土器番号150-1、23: 土器番号150-2)、  
 31~39: 151層 (31: 土器番号151-2、38: 土器番号151-1、39: 土器番号151-3)、40~45: 152層 (44: 土器番号152-1、45: 土器  
 番号152-2) (1・23・38・39・44・45はスケール1、他はスケール2)



写真115 台岡地点 P32-21 出土土器 (11)

1: 152層、2~10: 153層 (2: 土器番号153-1、3: 土器番号153-2)、11: 154層 (11: 土器番号154-1)、12~21: 155層 (12: 土器番号155-2、13: 土器番号155-1)、22~30: 156層 (22: 土器番号156-1、23: 土器番号156-2)

(2・3・11・12・22・23はスケール1、他はスケール2)

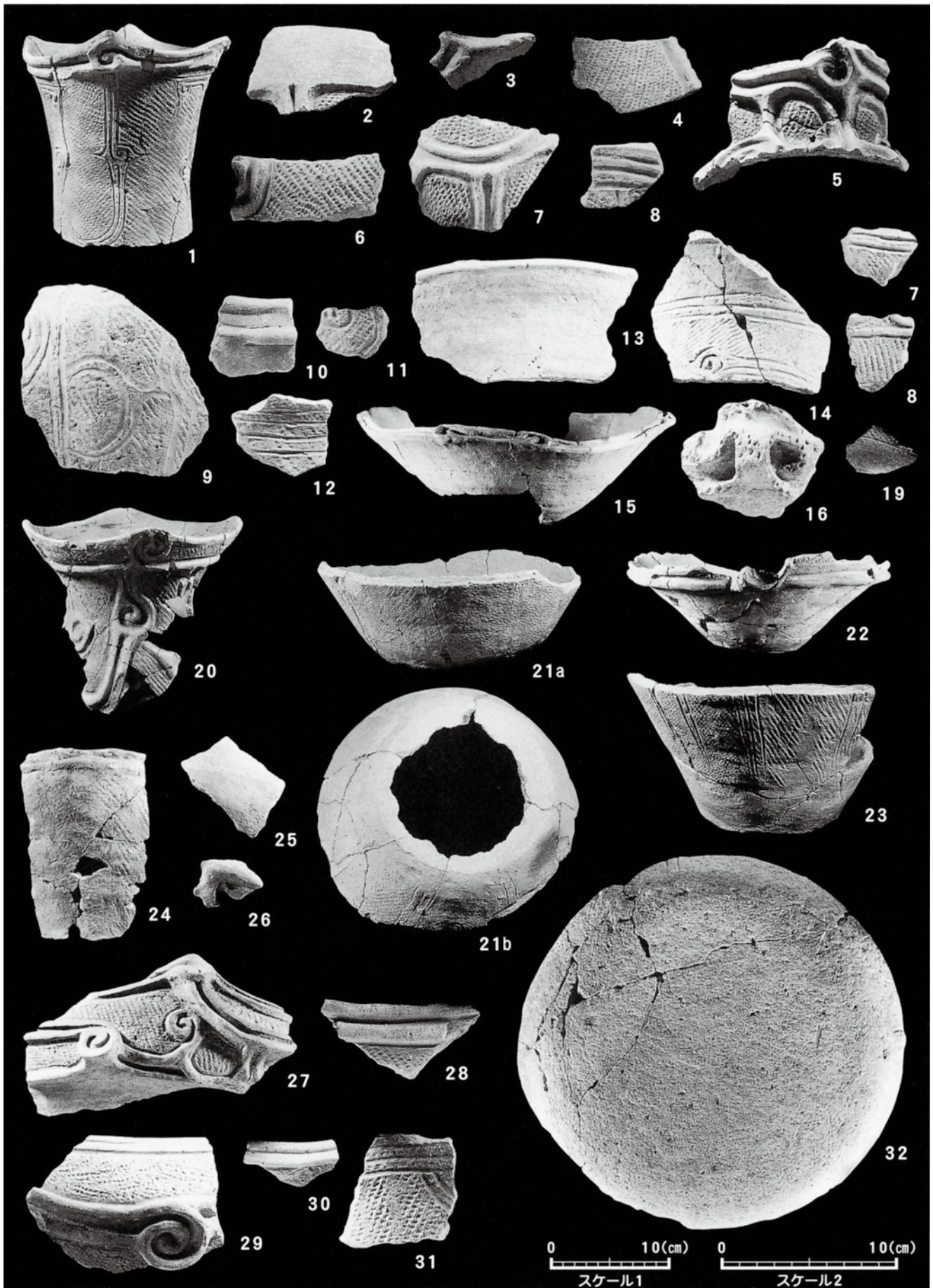


写真116 台圀地点 P32-21 区出土土器 (12)

1 : 156層 (1 : 土器番号156-3)、2~8 : 157層、9~12 : 158層、13~19 : 160層 (15 : 土器番号160-1)、20~26 : 161層 (20 : 土器番号161-1、22 : 土器番号161-2、23 : 土器番号161-3)、27~32 : 162層 (1・15・20~23はスケール1、他はスケール2)

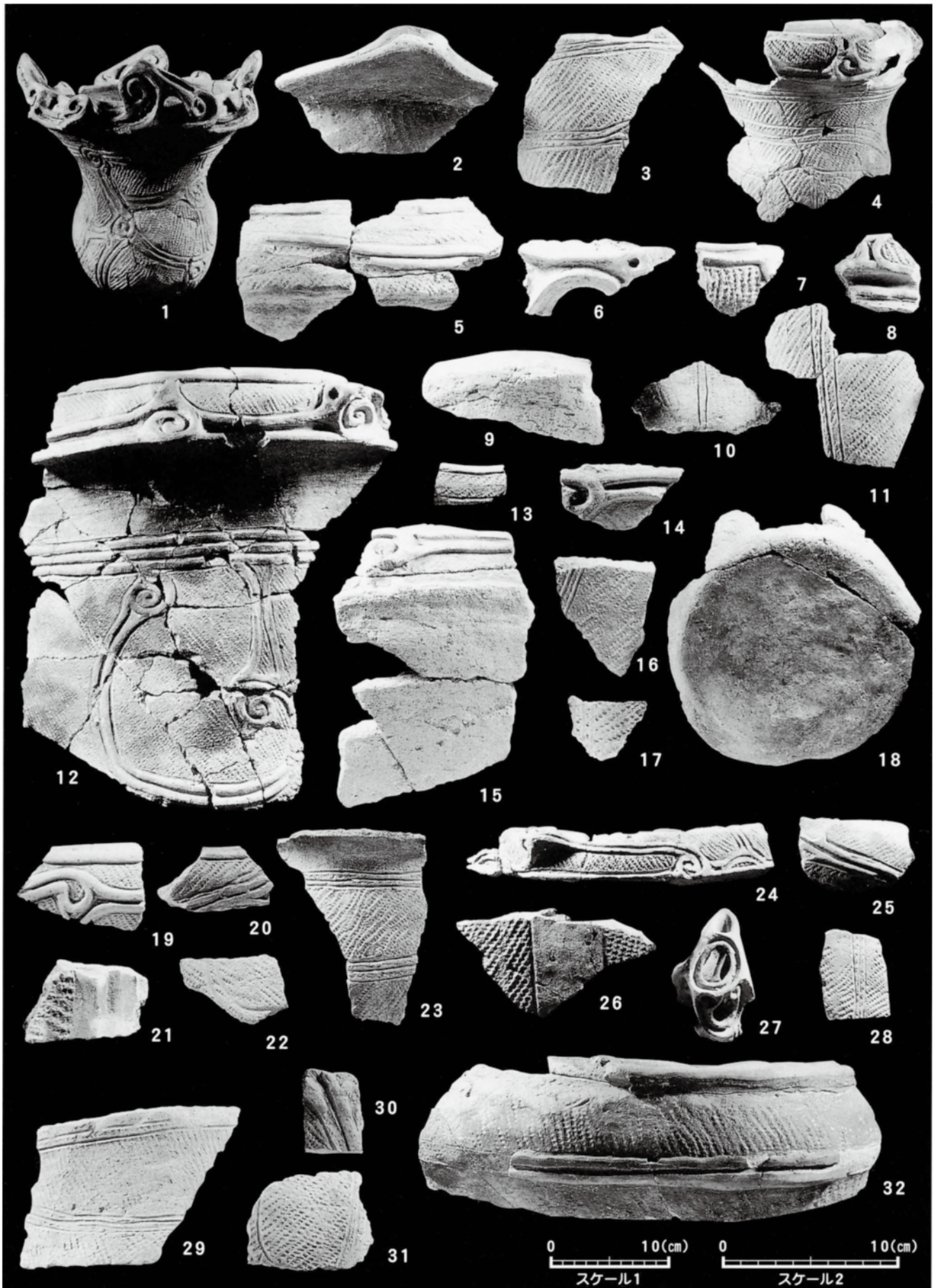


写真117 台岡地点 P32-21 区出土土器 (13)

1~3: 163層 (1: 土器番号168-1)、4~11: 164層 (4: 土器番号164-1)、12~18: 165層 (12: 土器番号165-1)、19~23: 166層、24~28: 167層、29~31: 168層、32: 169層 (1・4・12はスケール1、他はスケール2)



写真118 台囲地点 P32-21 区出土土器 (14)、1号竪穴建物出土遺物

1~8 : 170層 (1 : 土器番号170-1)、9 : 1号竪穴建物床面出土イノシシ下顎骨